阿蘇町文化財調査報告書第４集

UCHI NO MAKI JYOU ATO

内牧城跡

―町道内牧中央線改良工事に伴う埋蔵文化財調査―

1996. 3

熊本県阿蘇町教育委員会

阿蘇町文化財調査報告書第４集

UCHI NO MAKI JYOU ATO

内牧城跡

ー町道内牧中央線改良工事に伴う埋蔵文化財調査ー

1996. 3

熊本県阿蘇町教育委員会

序　文

阿蘇谷には数多く遺跡が点在しております。ここ阿蘇町にも近年の発掘調査により空白であった阿蘇の歴史が明らかに成りつつあります。

本書は阿蘇町道内牧中央線改良工事に伴い、平成６年度に実施した周知の埋蔵文化財包蔵地である内牧城跡及び下層の埋蔵文化財発掘調査報告書です。

調査の結果、戦国時代及び平安時代の遺構・遺物を検出し、特に遺物に関しては阿蘇地方の在地生産体制を検討する上で、貴重な資料を得ることができました。

この報告書が文化財保護の推進並びに学術研究の一助となれば幸いです。

最後に、発掘調査及び報告書作成に際しましては、県文化課をはじめ各方面の多くの皆様にご指導、ご協力を賜りましたことに対して、厚くお礼申し上げます。

平成８年３月

阿蘇町教育長　森　今朝一

例　言

１．本書は、町道内牧中央線改良工事に伴い、事前に実施した埋蔵文化財発掘調査である。

２．発掘調査は平成６年１１月２日～平成７年２月３日にかけて実施した、熊本県阿蘇郡阿蘇町大字内牧中町２６７の３～２６７の７に所在する内牧城跡及びその下層の調査報告書である。

３．現地調査は熊本県教育委員会文化課の指導のもとに緒方が担当し、調査事務は町教育委員会が行った。

４．出土遺物の整理は、町教育委員会にて水洗い・接合を行い、熊本県文化財収蔵庫にて石膏入れ・拓本を行った。

５．発掘現場での実測は（有）埋蔵文化財サポートシステムに委託し、一部を緒方が行った。写真撮影は緒方が行った。

６．遺物の実測は、主として（有）埋蔵文化財サポートシステムに委託し、一部を緒方が行った。

７．遺構及び遺物の製図は（有）埋蔵文化財サポートシステムに委託した。

８．遺物写真撮影及び写真焼き付けは徳永琢馬氏（ジャッドスタジオ）に依頼した。一部、山田大輔氏に依頼した。遺構写真焼き付けはグリーンカラー現像所に依頼した。

９．基準点測量については、（有）埋蔵文化財サポートシステムの協力を得た。

１０．土色及び土器の色彩については「新版標準土色帖」農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修に拠る。

１１．本書の編集・執筆は熊本県教育委員会文化課の指導のもと緒方が担当した。また、報告書作成においては県文化課を始め、多くの諸先生方に種々貴重な御指導・御助言を頂いた。

１２．出土遺物、その他図面・写真類など関係資料は阿蘇町教育委員会が保管している。

［本　文　目　次］

序文
例言

第Ⅰ章　調査の概要

第１節　調査に至る経緯 …… 1
第２節　調査関係者・調査組織 …… 1
第３節　調査の経過（調査日誌抄） …… 2
第４節　調査の方法 …… 4
第５節　遺跡の層序 …… 4

第Ⅱ章　遺跡の概要

第１節　地理的環境 …… 8
第２節　歴史的環境 …… 8

第Ⅲ章　調査の成果

第１節　整地層について …… 13
第２節　戦国時代の遺構・遺物
　１．溝跡 …… 17
　２．掘立柱建物跡 …… 19
　３．土壙 …… 24
　４．その他の遺構 …… 33
　５．Ⅴ層出土の遺物 …… 44
第３節　奈良・平安時代の遺構・遺物
　１．竪穴住居跡 …… 51
　２．掘立柱建物跡 …… 58
　３．土壙 …… 63
　４．溝跡 …… 65
　５．包含層の遺物 …… 69
第４節　その他の時代の遺物 …… 74
第５節　攪乱層からの遺物 …… 83

第Ⅳ章　総括 …… 86

主要参考文献一覧 …… 89
写真図版 …… 91

［挿　図　目　次］

第１図　調査遺跡位置図 …… 5
第２図　内牧城跡Ⅴ層面遺構配置及びグリッド図 …… 6
第３図　内牧城跡Ⅸ層遺構配置及びグリッド図 …… 7
第４図　阿蘇町著名遺跡図 …… 11
第５図　整地層平面範囲図 …… 13
第６図　整地層出土遺物実測図（１）上層一括 …… 14
第７図　整地層出土遺物実測図（２）上層・中層一括 …… 15
第８図　整地層出土遺物実測図（３）下層一括 …… 16
第９図　１号溝跡実測図 …… 17
第10図　１号溝跡内出土遺物実測図 …… 18
第11図　溝状遺構実測図 …… 18
第12図　１号掘立柱建物跡実測図 …… 20
第13図　２号掘立柱建物跡実測図 …… 21
第14図　１・２号堀立柱建物跡柱穴内出土遺物実測図 …… 21
第15図　３号掘立柱建物跡実測図 …… 22
第16図　４号掘立柱建物跡実測図 …… 23
第17図　５・10号掘立柱建物跡実測図 …… 25
第18図　１～３，８・９号土壙実測図 …… 27
第19図　1・８・９号土壙内出土遺物実測図 …… 28
第20図　10～13・15・18・21号土壙実測図 …… 30
第21図　15号土壙内出土遺物実測図 …… 31
第22図　18・21号土壙内出土遺物実測図 …… 32
第23図　17号土壙実測図 …… 32
第24図　17号土壙内出土遺物実測図 …… 33
第25図　不明焼土遺構実測図（全体） …… 34
第26図　22・23・25・26号土壙実測図 …… 35
第27図　24号土壙実測図 …… 36
第28図　23号土壙内出土遺物実測図 …… 36
第29図　不明焼土遺構内出土遺物実測図（１） …… 37
第30図　不明焼土遺構内出土遺物実測図（２） …… 38
第31図　不明土壙実測図 …… 40
第32図　不明土壙内出土遺物実測図（１） …… 41
第33図　不明土壙内出土遺物実測図（２） …… 42
第34図　不明土壙内出土遺物実測図（３） …… 43
第35図　Ⅴ層出土の遺物実測図（１） …… 44
第36図　Ⅴ層出土の遺物実測図（２） …… 45
第37図　１・４号竪穴住居跡実測図 …… 52
第38図　１号竪穴住居跡内出土遺物実測図 …… 53

第39図　4号竪穴住居跡内土壙出土遺物実測図 …… 53
第40図　4号竪穴住居跡内出土遺物実測図 …… 53
第41図　2号竪穴住居跡実測図 …… 54
第42図　3号竪穴住居跡実測図 …… 55
第43図　3号竪穴住居跡出土遺物実測図 …… 55
第44図　5号竪穴住居跡実測図 …… 56
第45図　6・7号竪穴住居跡実測図 …… 57
第46図　6号竪穴住居跡内出土遺物実測図 …… 58
第47図　8号竪穴住居跡実測図 …… 59
第48図　6号掘立柱建物跡実測図 …… 60
第49図　7号掘立柱建物跡実測図 …… 60
第50図　8号掘立柱建物跡実測図 …… 61
第51図　9号掘立柱建物跡実測図 …… 62
第52図　4～7・30号土壙実測図 …… 64
第53図　4号土壙上面出土遺物実測図 …… 65
第54図　2号溝跡平面土層断面図 …… 66
第55図　2号溝跡内出土遺物実測図（1） …… 67
第56図　2号溝跡内出土遺物実測図（2） …… 68
第57図　Ⅻ層出土の遺物実測図（1） …… 69
第58図　Ⅻ層出土の遺物実測図（2） …… 70
第59図　Ⅻ層出土の遺物実測図（3） …… 71
第60図　Ⅻ層出土の遺物実測図（4） …… 72
第61図　Ⅻ層出土の遺物実測図（5） …… 73
第62図　その他の遺物実測図（1） …… 74
第63図　その他の遺物実測図（2） …… 75
第64図　攪乱層からの遺物実測図（1） …… 83
第65図　攪乱層からの遺物実測図（2） …… 84
第66図　攪乱層からの遺物実測図（3） …… 85

［表　目　次］

第1表　阿蘇町著名遺跡地名表 …… 12
第2表　Ⅴ層面出土遺物観察表（1） …… 46
第3表　Ⅴ層面出土遺物観察表（2） …… 47
第4表　Ⅴ層面出土遺物観察表（3） …… 48
第5表　Ⅴ層面出土遺物観察表（4） …… 49
第6表　Ⅴ層面出土遺物観察表（鉄器1） …… 50
第7表　Ⅸ層面出土遺物観察表（5） …… 76
第8表　Ⅷ層及びⅨ層面出土遺物観察表（6） …… 77
第9表　Ⅷ層出土遺物観察表（7） …… 78

第10表　Ⅷ層出土遺物観察表（８）…… 79
第11表　Ⅷ層及び攪乱層出土遺物観察表（９）…… 80
第12表　攪乱層出土遺物観察表（10）…… 81
第13表　Ⅸ層面出土遺物観察表（鉄器２）…… 82
第14表　Ⅸ層面出土遺物観察表（石器）…… 82
第15表　Ⅴ層出土土師器（杯）計測表 …… 88

［図　版　目　次］

図版１　旧調査区Ⅴ層面全景，整地層断面及びⅤ層遺構検出状況，
１号溝跡・５・10号掘立柱建物跡
図版２　旧調査区掘　立柱建物跡群，１号掘立柱建物跡，２号掘立柱建物跡・２号土壙
図版３　１号土壙，17号土壙（北・西から）
図版４　不明土壙土層断面，不明土壙（西・北から）
図版５　不明焼土遺構内24号土壙土層断面，不明焼土遺構内24号土壙石臼出土状況
不明焼土遺構内土壙群
図版６　不明焼土遺構及び24号土壙土層断面，不明焼土遺構全体，作業風景
図版７　旧調査区Ⅷ層（包含層）遺物出土状況，Ⅷ層（包含層）須恵器出土状況，
旧調査区Ⅸ層面全景
図版８　旧調査区Ⅸ層面全景，仮設道路部（調査区拡張部）Ⅸ層面全景（北東・南西から）
図版９　１・４号竪穴住居跡，１号竪穴住居跡内カマド土層断面
４号竪穴住居跡内土壙上面遺物出土状況
図版10　２号竪穴住居跡，３号竪穴住居跡（南・西から）
図版11　６・７号竪穴住居跡，６・７号竪穴住居跡及び７号掘立柱建物跡，８号竪穴住居跡
図版12　４号土壙上面須恵器出土状況（西・南から），４号土壙検出状況
図版13　４号土壙，６号土壙検出状況，６号土壙
図版14　旧調査区２号溝跡，作業風景，仮設道路部（調査区拡張部）２号溝跡土層断面
図版15　仮設道路部（調査区拡張部）２号溝跡近景（南東・東から），作業風景
図版16　Ⅴ層面瓦質土器（擂り鉢他）
図版17　Ⅴ層面土師器（坏類），陶磁器
図版18　Ⅴ層面土師器（坏類）
図版19　Ⅴ層面瓦質土器（擂り鉢他）
図版20　Ⅴ層面土師器（坏類）
図版21　整地層下層出土瓦質土器
図版22　不明土壙出土陶磁器，須恵器（蓋）
図版23　Ⅷ層（包含層）出土須恵器，土師器
図版24　Ⅷ層（包含層）出土土師器
図版25　Ⅷ層（包含層）出土須恵器，土師器
図版26　Ⅷ層（包含層）出土土師器，須恵器
図版27　４号竪穴住居跡内土壙上面出土遺物
図版28　４号土壙上面出土遺物（須恵器）
図版29　Ⅷ層（包含層）出土土師器，須恵器
図版30　Ⅷ層（包含層）出土須恵器，石器，不明焼土遺構内24号土壙出土石臼
図版31　Ⅴ層面出土鉄器
図版32　攪乱層からの遺物

第Ⅰ章　調査の概要

第１節　調査に至る経緯

『阿蘇町道内牧中央線景観計画・設計報告書』が町より出されたのは、平成４年度のことである。これまでの内牧は、城下町・宿場町・温泉地として発展してきたが、広域交通（大分～熊本～宮崎～長崎県）のターミナルポイントの地にありながらも、町並の発展過程から幹線道路は外周部にあって、内牧中心部とのアクセス性がないため、公共交通の大型バスと市街地内交通との混乱が年々高まって来ている。内牧中央線は内牧市街地の中央部を貫通することで、町民の生活に密接に結び付いた生活道路としての市街地内交通環境の改善と、阿蘇の自然と文化に誘う広域幹線道路とのネットワーク化を果たす広域観光道路として、重要な役割を担っている。

この内牧中央線道路改良工事に伴い、町は平成４年12月に、県文化課へ現地調査を依頼した。計画路線が周知の埋蔵文化財包蔵地である「内牧城跡」及び豊後街道に付随する「内牧御茶屋跡」を縦断する形で計画されているので、確認調査が必要と判断された。直ちに町教育委員会は県文化課に確認調査を依頼し、県文化課が確認調査を行った。調査は、町立図書館移転に伴う解体等があったため、平成５年10月，12月，平成６年３月の三次となった。その結果、過去の開発により攪乱されている部分もあるが、整地層及び柱穴、陶器・鉄製釘等、また土師器片が下層より検出され、発掘調査が必要となった。この確認調査の結果をもとに同年11月～12月の２カ月間の予定で、対象区域である約433㎡について事前調査を行うこととなった。しかし、調査を進めて行くなかで、調査対象区西側の仮舗装されている部分にも遺構の展開が推測され、急遽、調査区の拡張を計画し、県文化課との協議の末、仮舗装部分約257㎡を拡張した（調査総面積約690㎡）。

一方、道路改良工事及び上下水道排水管付設替工事は、平成６年度に繰り越しているが、補助事業の制約上、工期は同年９月までを限度とされていたが、再延長した。

第２節　調査の組織

調査主体	阿蘇町教育委員会		
調査責任者	阿蘇町教育長		森　今朝一
事　務　局	阿蘇町教育委員会事務局長		江入　鐵雄
	〃	事務局次長	井　　剛昭
	〃	社会教育係長（平成７年度）	種子野謙二
	〃	参事（平成６年度）	家入　幸一
	〃	参事（庶務担当）	石本　勝代
調査担当者	〃	学芸員（平成７年度）	緒方　　徹
調査協力者	松本　健郎，高木　正文，高谷　和生，木崎　康弘，西住欣一郎，古城　史雄 濱田　彰久，美濃口雅朗，網田　龍生，白井　勝子，戸田　清恵，古嶋　章 山田　大輔，清田雄一郎，渡辺　麻野，町建設課，町文化財保護委員 （有）埋蔵文化財サポートシステム		

発掘作業員　渡辺スイ子，工藤　フキ，山部アイ子，山部　シナ，山部ケサミ，高宮そい子
岩下タミ子，岩下　ラク，村上　美子，岩下シマエ，高宮　サヨ，甲斐　ヨキ
山本カズコ，和田勢伊子，甲斐　邦子，橋本　尚子，岩永タマエ，家入ミヤ子
市原いつみ，後藤ちえ子，河原ウメ子

整理作業員　成瀬　和彦，小西　文博，佐藤　盛樹，甲斐龍太郎，竹原　由香，赤尾真由美
（以上町）
後藤　直美，淵上　慶子，吉田　律子，山元　友子，村山　紀子，上田　律子
上村　孝子，水本寿美子，今福　英子，荒牧　陽子，河崎　節子，山野　孝子
山内　洋子，尾方マサミ，米倉　五月，吉永恵美子，早野　弘子，大塚　磯子
塩田喜美子，宇野　玲子，増田　久子，境　美恵子，江島　園子，吉本　清子
宮本　幸子，橋本由美子，徳永みどり，重永　照代，山下千栄子，山切　律子
（以上県文化財収蔵庫）

現地踏査担当　熊本県教育委員会　文化課　調査２係長（主幹）　松本　健郎

確認調査担当　熊本県教育委員会　文化課　文化財保護主事　西住欣一郎
（敬称略）

第３節　調査の経過（調査日誌抄）

平成６年11月３日　表土剥ぎ第１日目。調査区北側は攪乱が酷く調査から除外する。
県文化課より西住氏来跡、表土剥ぎに立ち合って頂く。

４日　表土剥ぎ第２日目。調査区南側に整地層を検出、他の遺構も見え始める。
整地面から調査を始めると同時に攪乱掘りをする。メッシュ杭を５Ｍで設定する。

９日　整地面より鉄製釘，陶磁器等が出土する。

11日　写真機材が届いておらず、Ｅ・ＦグリッドのＶ層面遺構検出から行うことにする。
Ⅳ層を埋土とした柱穴を確認する。遺構の埋土が攪乱土と類似しており、遺構検出に苦労する。

15日　小雨が降り続き、この頃から寒さが厳しくなる。

17日　天気が優れない中、整地層の写真撮影をする。この一週間、天気がグズついた。
掘立柱建物を検出。

25日　Ｈ～Ｊグリッド遺構検出・遺構掘り。不明溝状遺構検出。

30日　整地層の実測を終え、掘り下げる。久しぶりに天気が晴れとなり、暑いぐらいの日和であった。作業が予定通りに進まず、能率を上げるために作業員を８名から12名にする。11月は雨が多く作業性が悪かった。

平成６年12月１日　２号掘立柱建物の柱穴を攪乱下部より検出。整地層部分Ｖ層遺構検出。

５日　阿蘇山初雪。遺構検出面（Ｖ層）が砂層のため風化が著しく、写真撮影・遺構実測を急ぐ。毎日のように小雨が降り、思うように作業が進まない。
整地層下層から、磨製石斧・不明銅製品出土。

平成６年12月６日　Ａ～Ｄグリッド、遺構掘り。朝は霜が酷く、霜を取り除くのに一苦労だ。

７日　町文化財保護委員現地説明会を開く。現時点での、調査の成果を説明。

８日　遺構の実測が残り、埋文サポートシステムと夕方遅くまでかかり、Ｖ層面の調査を終了する。不明焼土遺構の写真撮影のみ残った。

10日　Ｖ層以下Ⅷ層面まで重機にて取り除く。この時点で遺物の集中具合が、はっきりと分かる。Ⅷ層面の調査を開始する。現調査区西側の仮設道路部分は、下部まで攪乱が及んでいると考えられていたが、意外に残りが良いことが分かり、調査区拡張を計画する。

12日　Ⅷ層（包含層）掘り下げ。遺物は単位性をもって出土し、下部に遺構が存在することを確信する。

14日　調査区拡張部にメッシュ杭設定。作業員を17名に増員する。

16日　調査進行状況を視察するため、県文化課より濱田氏来跡。当初の調査予定期限は12月までとなっていたので、町より建設課・教育委員会・文化財保護委員会を交えて今後の調査期限、調査区拡張について協議を行った。

20日　Ⅷ層遺物取り上げ及び遺構検出。須恵器の長頸壺，横瓶出土。遺構は思ったより見えにくく、Ⅸ層を３㎝程掘り下げて遺構確定を行った。

22日　県文化課より西住氏来跡。しばらく調査の援助して頂くことになった。遺構を掘り始める。竪穴住居跡のカマドの残りは悪いようである。

27日　年内の作業が本日で終わりのため、遺構実測を急ぐ。当の調査員は明日から農村公園予定地の試掘である。

平成７年１月６日　現場作業の仕事始めから早朝より吹雪に見回れる。波瀾の年明けである。
県道路建設課来跡。今後の調査予定の協議を開く。
午後より作業が開始出来たが、ビニールシートに水が溜まりポンプにて汲み出しながらの作業となった。

９日　拡張部分表土剥ぎ第１日目。Ｖ層面まで重機にて掘り下げる。工事業者と期限等の打ち合わせを開く。

10日　拡張部分表土剥ぎ第２日目。攪乱されている部分が多いが、予想以上にＶ層面が残っていた。

13日　拡張部分Ｖ層遺構検出・遺構掘り下げ。不明焼土遺構も続きを検出。

14日　旧調査区にて、12日から行っていたⅨ層面遺構実測を終え、工事が開始される。

17日　拡張部分は南側からグリッド毎に、Ｖ層遺構掘り→写真撮影→実測→重機にてⅩⅢ層まで除去という方法をとった。随時にⅩⅢ層面になったグリッドから包含層掘り下げを行った。

25日　Ⅸ層遺構掘り下げ開始。調査区北側の不明段落ちに頭を抱える。

31日　作業員さんが現場作業中に転倒し骨折、公務災害扱いとなる。

平成７年２月２日　朝、積雪を見て驚いたが、期限が迫っており実測に精をだす。

３日　全体写真を撮り、調査用具等のかたずけを済ませ、調査終了。

第４節　調査の方法

本調査に先立ち、県文化課が平成５年10月28日、同年５年12月７日、平成６年３月17日に予定路線内の確認調査を行った。合計９本のトレンチを設定して行われ、その結果、遺構の存在及び遺物の出土が確認された。本調査ではこの結果をもとに調査区の設定を行った。

本調査は、平成６年11月から平成７年２月まで実施した。グリッドの設定は、縦長の調査区を縦断する形で４級基準点を用いて５×５ｍのメッシュを組んだ。調査区の南北方向をアルファベット、東西方向をアラビア数字で示した。調査区の拡張を計算に入れていなかったので、東方向のアラビア数字はマイナスで示すことにした。グリッド配置とグリット名は各遺構配置図に示した（第２～３図）。

本調査では、最初に重機により表土を取り除いた。調査区北側から表土剥ぎを始めたが、北側は攪乱が激しく一部調査区から除外した。表土剥ぎ時に、遺構が見えてはいたが、攪乱と見分けが付かず、基本層序を確認するまでは、遺構検出に苦労した。

戦国期の調査を終了し、平安期包含層までは遺物が含まれていないことを確認し（Ⅶ層の遺物はグリッド一括にて取り上げた）、重機にて掘り下げた。

調査区拡張部分に関しては、北側から遺構を検出し、遺構掘り下げをし、次のグリッドに移って前記を行い、その間に写真、実測とグリッド毎に終了させ、終了と同時に重機にて下層まで掘り下げた。遺構の実測はグリッドのメッシュに沿って20分の１の縮尺で実測を行い、一部を主軸に沿って、任意のポイントを設定し10分の１の縮尺で実測を行った。

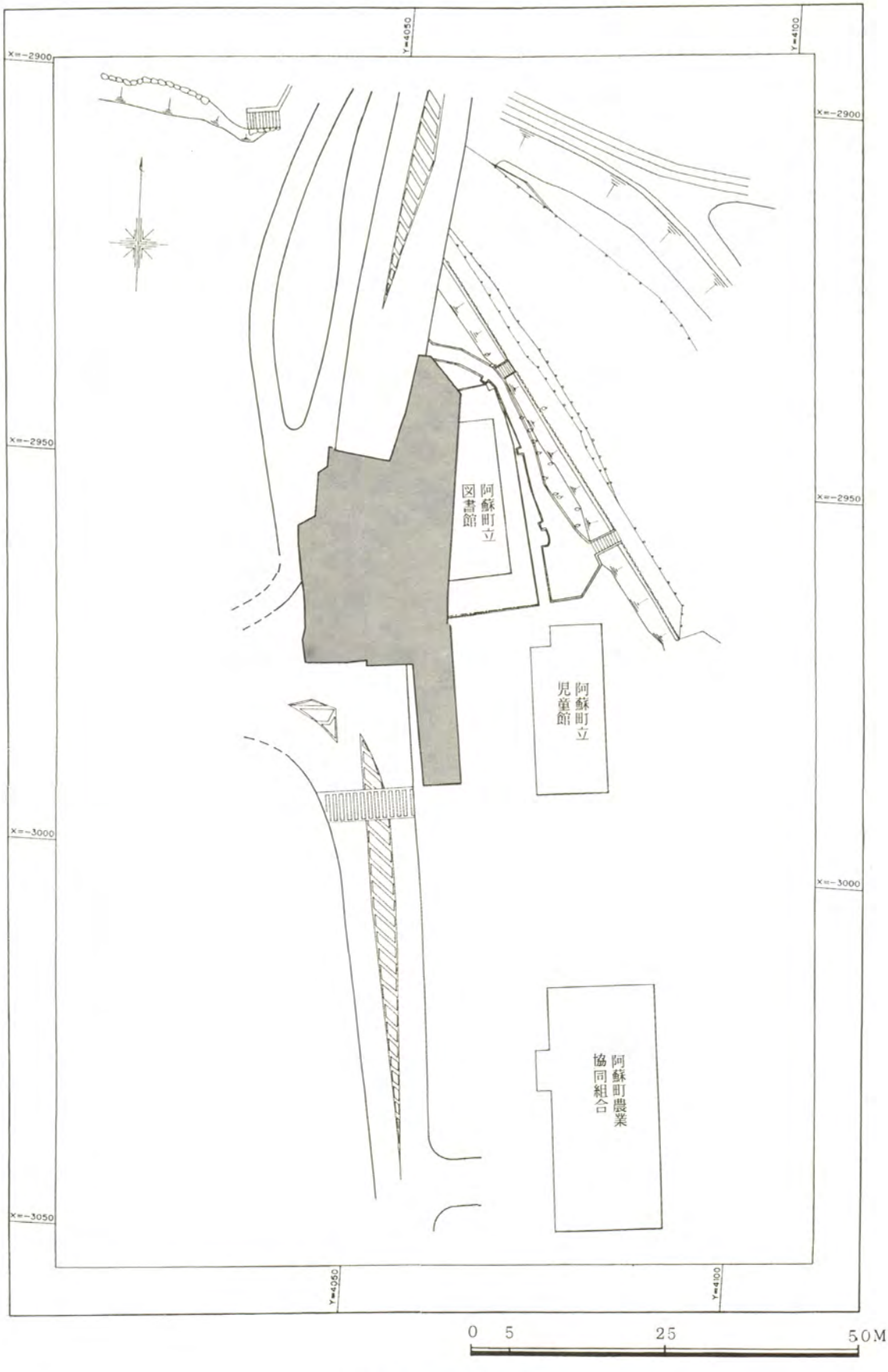
第５節　遺跡の層序

遺跡の基本的な層序は次のとおりである。

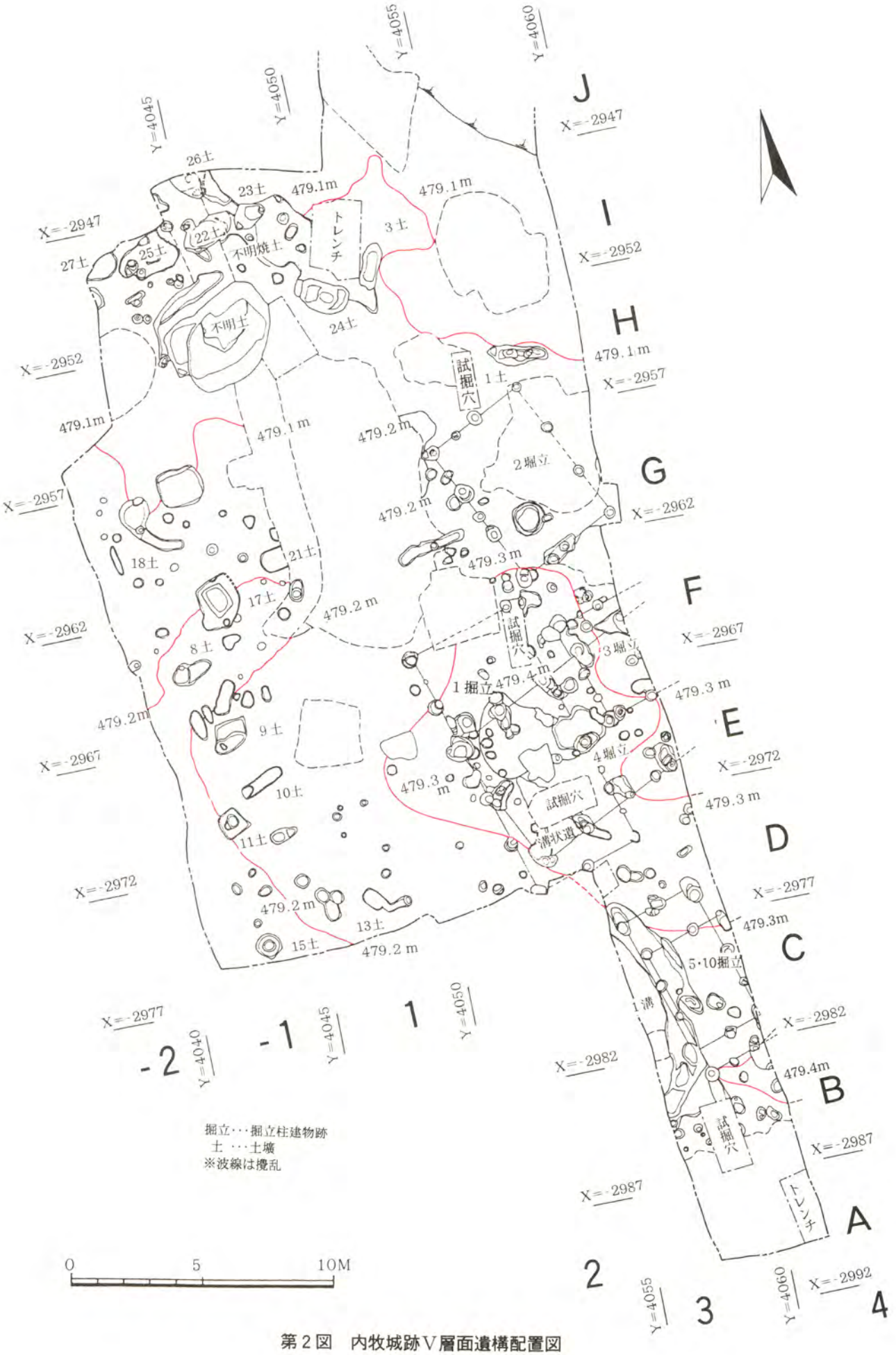
Ⅰ層　表土（クラッシャーラン）
Ⅱ層　砂層１
Ⅲ層　砂層２（小石混じり）
} 攪乱層

Ⅳ層　整地層（細かく分層できるが、一括してⅣ層とする）不明整地面。

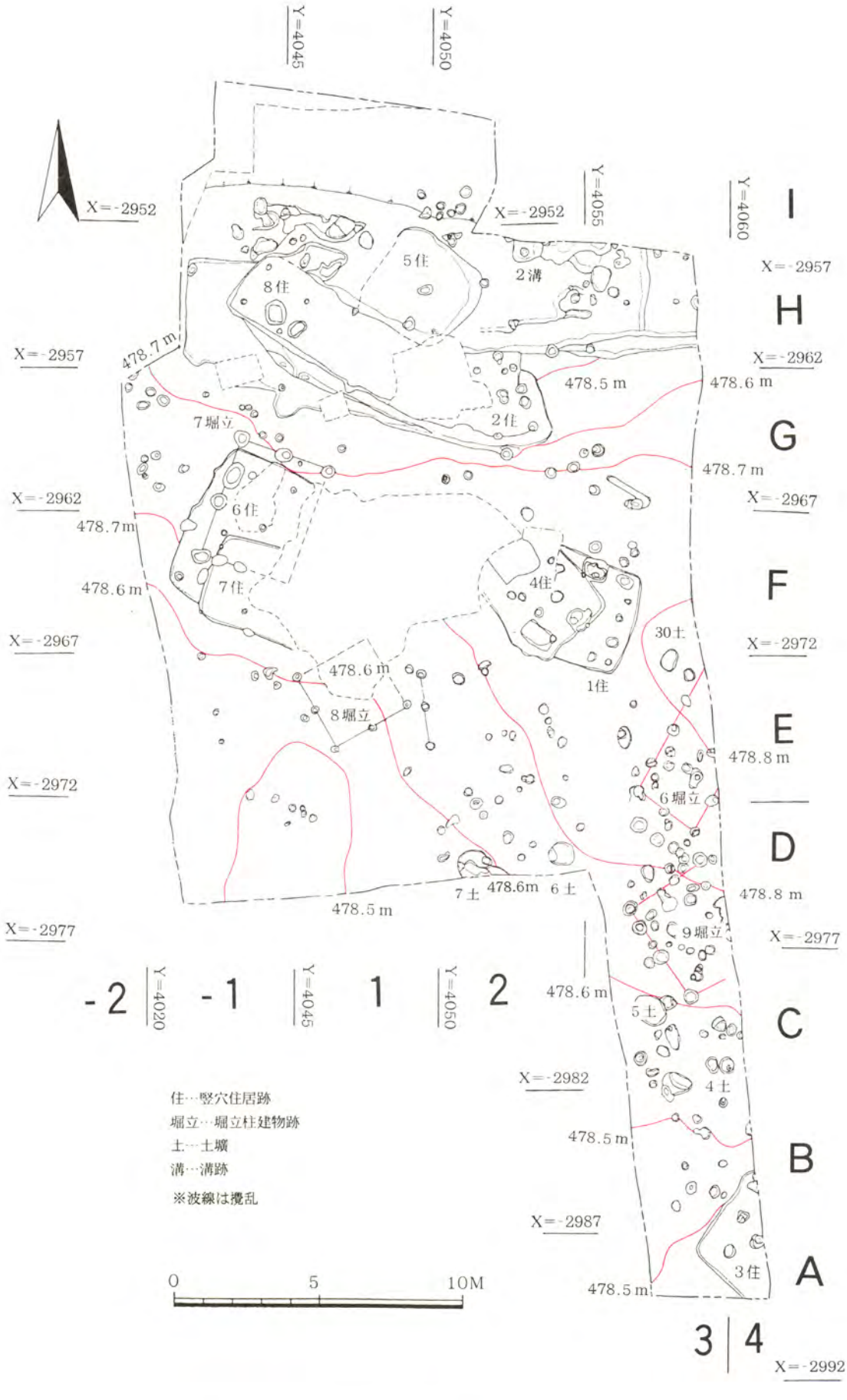
Va層	灰オリーブ色砂質土１	（　Y　5/2）	戦国期遺構検出面。遺物少量含む。
Vb層	灰オリーブ色砂質土２	（　Y　4/2）	Va層よりも色調が暗くなる。
Ⅵ層	灰色硬質土	（10ＹＲ6/1）	無遺物層。移植ゴテが曲がる程硬い。
Ⅶ層	灰黄褐色土	（10ＹＲ4/2）	鎌倉期遺物包含層。（少量の遺物が入る）
Ⅷ層	黒褐色土	（10ＹＲ3/1）	平安期遺物包含層。（縄文～古墳も混じる）
Ⅸ層	褐色粘質土	（10ＹＲ4/6）	平安期遺構検出面。
Ⅹ層	黄褐色粘質土	（10ＹＲ6/5）	白色砂粒状の火山灰が混じるローム層である。
Ⅺ層	黄橙色粘質土	（10ＹＲ7/8）	Ⅹ層よりも粘性が強くなる。


Y=4050
Y=4100
X=-2900
X=-2950
X=-3000
X=-3050
Y=4050
Y=4100
阿蘇町立図書館
阿蘇町立児童館
阿蘇町農業協同組合
0 5 25 50M

第1図　調査遺跡位置図



第２図　内牧城跡Ⅴ層面遺構配置図



第3図　内牧城跡Ⅸ層面遺構配置図

第Ⅱ章　遺跡の概要

第１節　地理的環境

内牧城跡は、熊本県阿蘇郡阿蘇町大字内牧字中町に所在する。

阿蘇町は、熊本県の北東部に位置し、東は一の宮町・高森町・南は白水村・長陽村、西は菊池郡大津町・同旭志村・菊池市、北は大分県日田郡上津江村・南小国町に接する。西から北は標高1,000m前後の阿蘇外輪山、南は標高1,200~1,500mの阿蘇山系からなり、中岳及び中岳火口がある阿蘇外輪山と阿蘇山系の間には通称阿蘇谷（東西約18km，南北25km，周囲128kmの雄大さを誇る、阿蘇カルデラの北半を阿蘇谷、南半を南郷谷と称する）と呼ばれる平坦地が開けている。田畑と原野からなる平坦地を白川支流の黒川が東から南に貫流する。内牧は阿蘇谷の北西部、黒川沿いのほぼ中央部に広がる標高480mの微高地（標高差２～３m）に立地している。

内牧は町の中央部に位置し、黒川に沿って温泉が各所に湧出し、旅館・商店が東西に軒を連ねる。南に阿蘇五岳を眺め、背後に外輪の山々を巡らし、温泉街及び観光地として明治の初め頃より栄えてきた。

第２節　歴史的環境

（１）旧石器・縄文時代

阿蘇町は各地にわたり多数の遺跡が分布し、その数は180カ所以上に及んでいる。最古の遺跡は、旧石器時代の大観峰遺跡である。旧石器時代の遺跡は、阿蘇山火口丘の北外輪山上に点在しており、近年では、カルデラ内を臨む外輪山内側の斜面からも石器が表採されている。

縄文時代の遺跡は北外輪山麓に沿った標高500~550m地域に密集している。この標高は、ほぼ水田地と畑・山林原野を区分する線をなしている。なかでも西湯浦二本松遺跡（野付遺跡）は比較的規模の大きなものである。このほか町内で出土した遺物には石鏃・石斧・石匙・磨石などの石器、押型文をはじめとする早期から晩期までの土器形式が間欠なくみられ、永年にわたり人々が居住していたものと推定される。折戸遺跡（三久保）からは、豊後水道の姫島で産出する黒曜石の剥片なども出土しており、この時期の交易の一端をうかがわせる。

阿蘇の縄文人は外輪山麓に居住し、山野での狩猟生活を営んでいたが、弥生時代には次第に低地での農耕生活へと移行していったものと思われる。

（２）弥生時代

弥生時代の遺跡及び遺物の出土地は、標高400~500mの外輪山麓部、黒川の自然堤防上、カルデラ内の微高地などに分布している。縄文時代のように、遺跡が北側の外輪山麓部に集中するということがなくなり、上記のような立地の背景には、稲作の普及と耕地の拡大、それに伴う「ムラ」の分化などの事象があったと考えられる。阿蘇町の弥生遺跡の特徴として、前期及び後期の遺跡が少ないということ（実態が摑めていない）である。しかし、中期（黒髪式）の西小園前田遺跡の竪穴住居跡の床面から石包丁が出土しており、阿蘇谷の稲作関連資料としては最も古いものである。また狩尾遺跡群の方無田遺跡からも中期（城ノ越式）の竪穴住居跡地が検出されており、これからの発掘調査に期待したい。後期及び終末期に関しては、陣内遺跡（西湯浦）・下山西遺跡（乙姫）・宮山遺跡（赤水）・狩尾遺跡群など集落遺跡として著名である。

（3）古墳時代

阿蘇谷の古墳は、一の宮町の中通地区及び手野地区に密集しており、当初は阿蘇町には古墳は存在しないと考えられていたが、近年の調査で徐々に明らかになりつつある。

塔ノ木古墳群（小里）のほか、濱川（三久保）・御塚（南宮原）などにもみられ、源太ヶ塚（湯浦）・二本松（西湯浦）・古園村下（狩尾）・道尻（役犬原）に石棺群が残り、彷製鏡・銅戈・ガラス製の勾玉などが出土している。九州の中央山地にあって豪族の発生と広域にわたる文化の交流のあとをうかがい知ることができる。時期は、村下石棺群が４世紀末と最も古く、他は６・７世紀に属するものと考えられている。古墳時代の集落遺跡は、現在のところ阿蘇町では実態が判明していない。

（4）歴史時代

平安期の『和名抄』には、阿蘇郡のうちとして、波良・知保・衣尻・阿曾の４郷が見え、阿蘇町は波良郷に比定されている。阿蘇郡の郡衛については、その字名より阿蘇町役犬原字大正院に比定する説が有力視されている。肥後国府から阿蘇を経て豊後国府に至る古代の官道があり、「延喜式」には駅家として二重駅・蛟藁（かわら）駅などが見える。二重は阿蘇町の二重峠付近、蛟藁は一の宮町に比定されており、古代の交通の要地となっていたことが推察される。

現在の阿蘇山上神社から草千里の間にかけては、三十六坊（古坊中）の寺院跡とされている。年代に関しては、様々な解釈がなされている。（肥後國誌等）

昭和39年、この一帯で牧野改良が行われ、おびただしい数の石像物が出土したと伝えられており、高僧を葬ったと思われる入定甕も二基見つかっている。それに板碑や石像物が、今もなお点在している。昭和54年に県教育委員会が、古坊中の発掘調査を試みたが、阿蘇山噴火で調査の中止を余儀なくされた。しかし、調査報告書は資料・文献を発掘したことで、阿蘇の山岳仏教の世界がおぼろげながら浮かんできた。

古坊中は、山岳仏教の栄華の風景の全貌を閉ざしたまま、今もなお山上に眠っている。現在、坊中にある西巌殿寺は、明治期に学頭坊のあった跡に本堂を運んできたものである。

戦国期の城砦で、現在、阿蘇町に残っている城跡に二辺塚（二辺津嘉・贄塚）城跡・湯浦（野中）城跡・小倉（坪内）城跡・内牧城跡がある。

二辺塚城は『古城考』によれば、明応２年（1493）阿蘇氏の家臣蔵原志摩守が居城したという城跡は阿蘇谷の水田地帯にあって「本塚（標高573.8m・南側麓の水田面よりの比高約80m）」・「北塚（標高552.1m・北側麓の水田面よりの比高約60m）」と称される二つの独立丘陵地に位置している。両者とも現在原野であるが丘陵の背面は円形状の平坦地（本塚の直径30m、北塚の直径24m）となっており、さらに、これより３～４m下がった所にも円心円状の曲輪（幅５～15m）が観察される。

湯浦城は、『古城考』によると、阿蘇家家臣の小島三郎とその弟、小島次郎が居城していたという。城跡は高知川と恵良川の合流点にあって、「城山」と称される山稜末端部（標高560m・南側麓の湯浦（原・中島）の集落よりの比高約70m）に位置する。山頂部分は、南西方向に主軸を呈する長方形の平坦地となっているが、２条の堀切（幅５m・深さ３m）によって大きく２区画（南西側、長径125m・短径75m・北東側、長径120m・短径64m）分かれており、これより３～４m下がった所にも、平坦地を取り巻く幅６～７mの曲輪が観察される。

小倉城は、『阿蘇郡誌』の小倉神社の頃に「伝説によれば、本社は笹原美濃守守護職となり坪内に築城の際、小倉城鎮護の神として天神を観請し武運長久を祈り社殿を改修畜す。その後、天正年間九州兵乱に落城

」と記されている。城跡は字「坪内」にあって、南西方向に主軸を呈する帯状の山稜末端部（標高523.5m・南側麓の水田面よりの比高約40mに位置する。しかし山頂部分には人工的と思える様な平坦地はなく、北東側の鞍部に築かれた堀切（幅20m・深さ８m・現在、道路に使用されている）が、唯一の城跡関連遺構となっている。

内牧城は、『肥後國誌』に「阿蘇大宮司家臣辺春丹波守盛道天正ノ始在城ス薩州島津義久當郡乱入ノ時落城盛道自殺ス、天正十六年潤五月加藤清正候ノ領地トナリ家臣加藤右馬允正方城代トナル、正方出陣ノ間ハ林平之留守居タリ正方八代移城ノ後ハ加藤越後正直城代トナル、或記當城ハ慶長三年ニ清正候修建之元和二年石垣等崩壊スト云。」とあり、戦国期の築城とみられるが、近世、加藤清正領となり増築・補強されたと考えられる。城代は、初代・二代が加藤可重・正方父子、正方が八代城代に転じた後は加藤正直が三代となったが、一国一城令で廃城となった。この地は室町期には史料上に現れないが、黒川の自然堤防である微高地がその名の如く内牧として利用されたと思われる。城の周辺は低湿地で、加藤氏の時代に黒川を南に改流させたため、南北の掘りとなり、西は黒川・花原川の合流地で本丸の東に二の丸・三の丸を築いて備えていたという。現在は、旧温泉街の中心地であり、開発が進んでいるために、城跡としての面影をほとんど止めていないが、「本丸」・「二の丸」・「三の丸」という小名が現存しており、また、水濠の役目を果たしたと伝えられる古川の残存部があるので、おおまかな城跡の範囲がつかめる。古川を城跡の北限とする各区画の状態は、下記の通りである。「本丸（長方形状の平坦地をなし、東西175m・南北100m）」は現在、町立体育館となっている。部分的な発掘によると地下２～３mの所で、石垣の基礎部と思われるものに接するという。昭和19年、内牧小学校の校庭開墾の折り、「かたばみ（加藤可重の旧姓、片岡の紋所）の紋入の瓦」の破片が多量に出土したという記録がある。

昭和60年２月、内牧字広町（今回の調査区から南西方向約１K地点）の下水道工事において、内牧城の本丸側の石垣から２M離れた堀（現地表面からの深さ６M）から２体分の頭骨が出土した。鑑定結果（産業医科大学第１解剖学教室　教授　北條暉幸氏）から、その頭骨（20代男性，30歳前後男性）は斬首の可能性が高く内牧城との関連性について様々な見解が成されている。

一方、「二の丸（舌状形の平坦地をなし、東西75m・南北250m）」は現在、阿蘇町役場等になっている。「三の丸」は、現在、田畑、民家となっている。中央部分に堀切状の溝が走っており東側区画（東西100m・南北150m）と西側区画（東西75m・南北150m）に分かれる。このようなことから、内牧城は阿蘇地方唯一の典型的平城である。町役場前や民家の石垣の中には、城の石垣を再利用したと伝えられるものもある。

なお、廃城の際に、城門は浄信寺と内牧の明行寺の寺門になったとそれぞれの寺で言い伝えられている。

加藤右馬允可重の墓所は湯山にあり、菩提寺は内牧浄信寺にある。

この他阿蘇町には、牛の頸城があるが、『古城考』と『肥後國誌』に「端多邊（端辺）山にあり城主年代等不分明」と記されているが、現在その所在地については不明確である。

（５）近世

江戸時代になり、参勤交代が始まり豊後街道に伴い管内の交通網は発達した。細川氏は的石と廃城後の内牧城本丸跡に御茶屋を設けた。さらに、二の丸跡に内牧手永の会所を置いて町並みを整え、小里の北の地に藩倉を設け、内牧は阿蘇地方の中心地となった。

また、下町・新町・手永会所前（現役場前）に残る火除碑より、正保元年（1644）、文化５年（1808）、文政７年（1824）と内牧が全焼する大火が頻発しており、防火対策として火除けの空地６か所の設置、防火用水路の開通、家造の改善、消防組の組織、夜警などを実施施行した。これらの施策は、今日も火除委員会として名を残している。内牧御茶屋に関する古文書、記録等は大火で消失しており、一切残っていない。現在残っている茶屋絵図は写しである。

第４図　阿蘇町著名遺跡地図

第 1 表　阿蘇町著名遺跡地名表

番号	遺跡名	時代	備考
1	内牧城跡	縄文～近世	内牧御茶屋・城跡・平安時代集落
2	無田遺跡	弥生中期	昭和56年県教委調査
3	西小園前田遺跡	弥生中期	集落
4	野付遺跡	縄文	
5	二本松遺跡	縄文早～晩期・弥生中～後期 古墳・中世	
6	陣内遺跡	弥生終末・古墳後期・中世	昭和56年町教委調査・弥生集落
7	横石遺跡	縄文中・後期	
8	湯浦城跡	中世	城郭
9	湯浦遺跡	縄文早期	
10	波寄ヶ原遺跡	縄文	
11	大観峰遺跡	旧石器	昭和59年県教委調査
12	源太ヶ塚古墳	古墳	昭和59年熊本市教委調査
13	御塚古墳	古墳	
14	御塚横穴群	古墳後期	昭和50年熊本大学調査
15	湯山遺跡	縄文早期・弥生終末・古代・中世	
16	塔ノ木古墳群	古墳	昭和50年熊本大学調査
17	番出遺跡	弥生中期・古墳	古墳の墳丘は不明
18	新町遺跡	弥生	内牧小学校
19	小池遺跡群	縄文・弥生	松ヶ鼻・池の平・池の鶴遺跡
20	買込遺跡	縄文早・後期	
21	小倉城跡	中世	城郭
22	小倉古墳群	古墳	昭和55年県教委調査
23	村下石棺群	古墳	県教委調査
24	本村遺跡	古墳中期	昭和45年町教委調査（一部）
25	道尻石棺群	古墳	県教委調査
26	二辺塚城跡	中世	城郭
27	濱川古墳群	古墳	3基現存
28	折戸遺跡	縄文前期	
29	北請遺跡	弥生	青銅製武器型祭器出土
30	下ノ原遺跡	弥生中期	〃
31	古園石棺群	古墳	県教委調査
32	池田遺跡	弥生後期・平安	集落・平成3年県教委調査
33	古園遺跡	弥生後期・近世	集落・平成4年県教委調査
34	明神山遺跡	弥生	昭和62年丸木船出土
35	産神社遺跡	縄文後・晩期・弥生終末期	
36	狩尾前田遺跡	弥生後期	集落・平成3年県教委調査
37	方無田遺跡	弥生中・後期	集落・平成3年県教委調査
38	湯の口遺跡	弥生後期・平安	〃
39	宮山遺跡	弥生終末・古墳	集落・昭和46年町教委調査
40	宮前遺跡	弥生	
41	松山遺跡	弥生中期・終末	
42	下山西遺跡	弥生終末	集落・昭和58年県教委調査
43	鏡山遺跡	弥生	大正14年青銅製武器型祭器出土
44	西厳殿寺（学頭坊跡）	中世	県文化財調査報告書第49集
45	古坊中跡	中世	〃

第Ⅲ章　調査の成果

内牧城跡の総調査面積は、約690mである。当初は江戸期の参勤交代道に付随する内牧御茶屋の建物跡及び庭園等の出土が予想されたが、近世の開発によりかなりの攪乱を受けており、これらの遺構の出土はみられなかった。しかし、内牧城跡の下層に平安期の文化層の存在を確認することができた。

今回の調査では、大きく分けて黒褐色土，赤褐色土，黄砂の３つのブロック単位で形成される整地層（基本土層Ⅳ層）、Ⅴ層面では掘立柱建物跡６軒，土壙10基，溝状遺構３条などの遺構を検出した。遺構内の出土遺物から中世戦国期の内牧城跡の一部若しくは、内牧城跡に伴う施設と考えられる（第２図）。

Ⅷ層面では、主として平安期の遺物を含む包含層であり、またⅨ層面では８～９世紀が中心となる平安期の竪穴住居跡８軒，掘立柱建物４軒，土壙５基，その他の遺構を検出した（第３図）。

以降面を追って掲載する。

各遺構及び包含層から出土した遺物の説明は観察表に記載した。

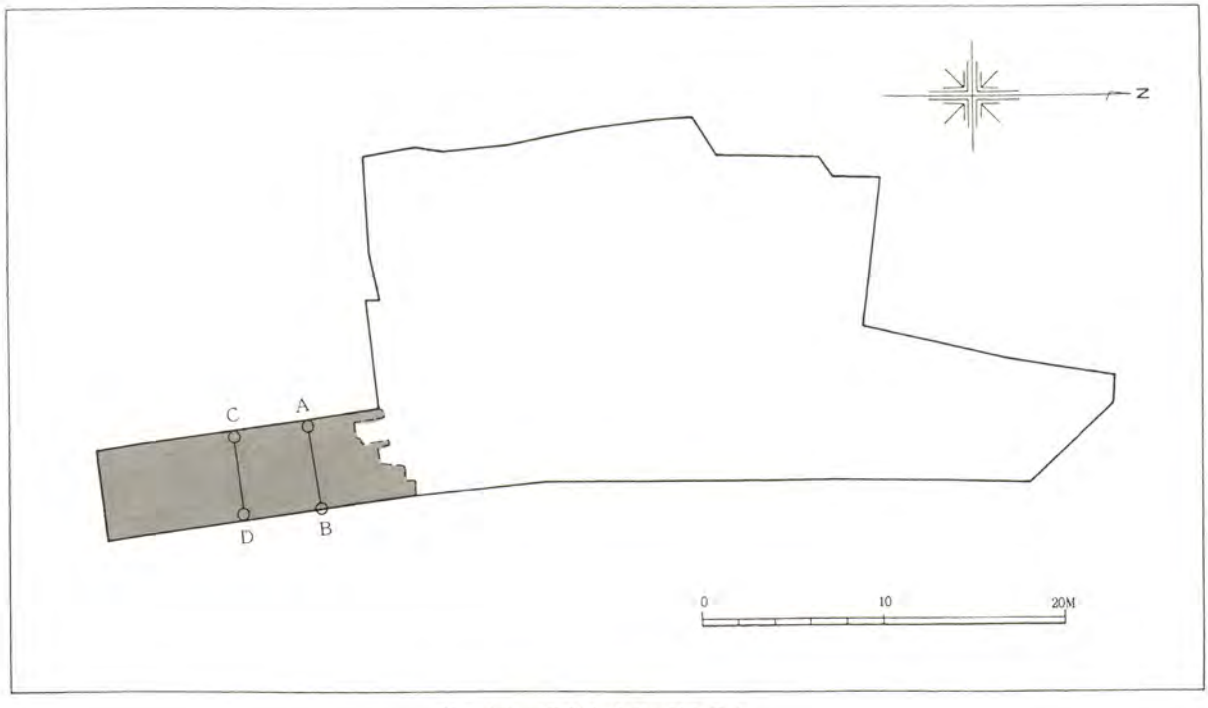
第１節　整地層について

確認調査にて検出されていた整地層は、基本層序としてⅣ層に値するが、表土剥ぎ時に攪乱層と見分けが付かず、また移植コテが曲がるほど硬く検出に苦労した。面的な残りは調査区南側のみであり、整地層の直上まで攪乱層が及んでいる。調査区壁の土層でも調査区南側以外は確認できず、部分的にしか残っていない。これは、攪乱されたのか、当初からないのかは不明で、整地面の全体範囲を掴むことは困難である。

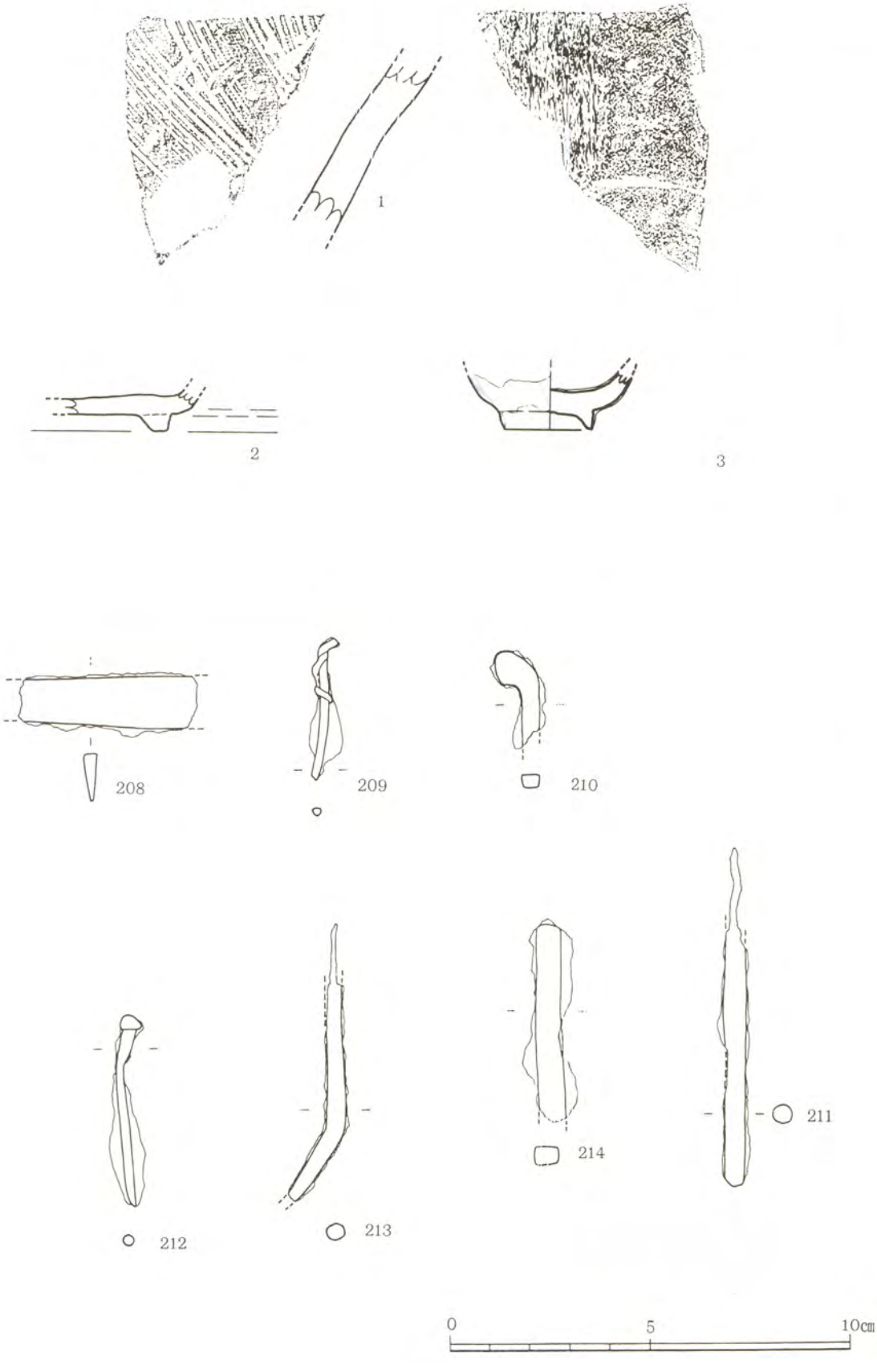
整地層は幾層にも分層できる（付録）。全体的に砂質で硬くしまり、部分的に鉄分が沈殿している。各層ともブロック状になっており、整地の跡を窺える。下層には、焼土・カーボン・灰を含んでいる。

遺物の出土が見られたが、上・中・下層の一括で取り上げている。（第６図～第８図）

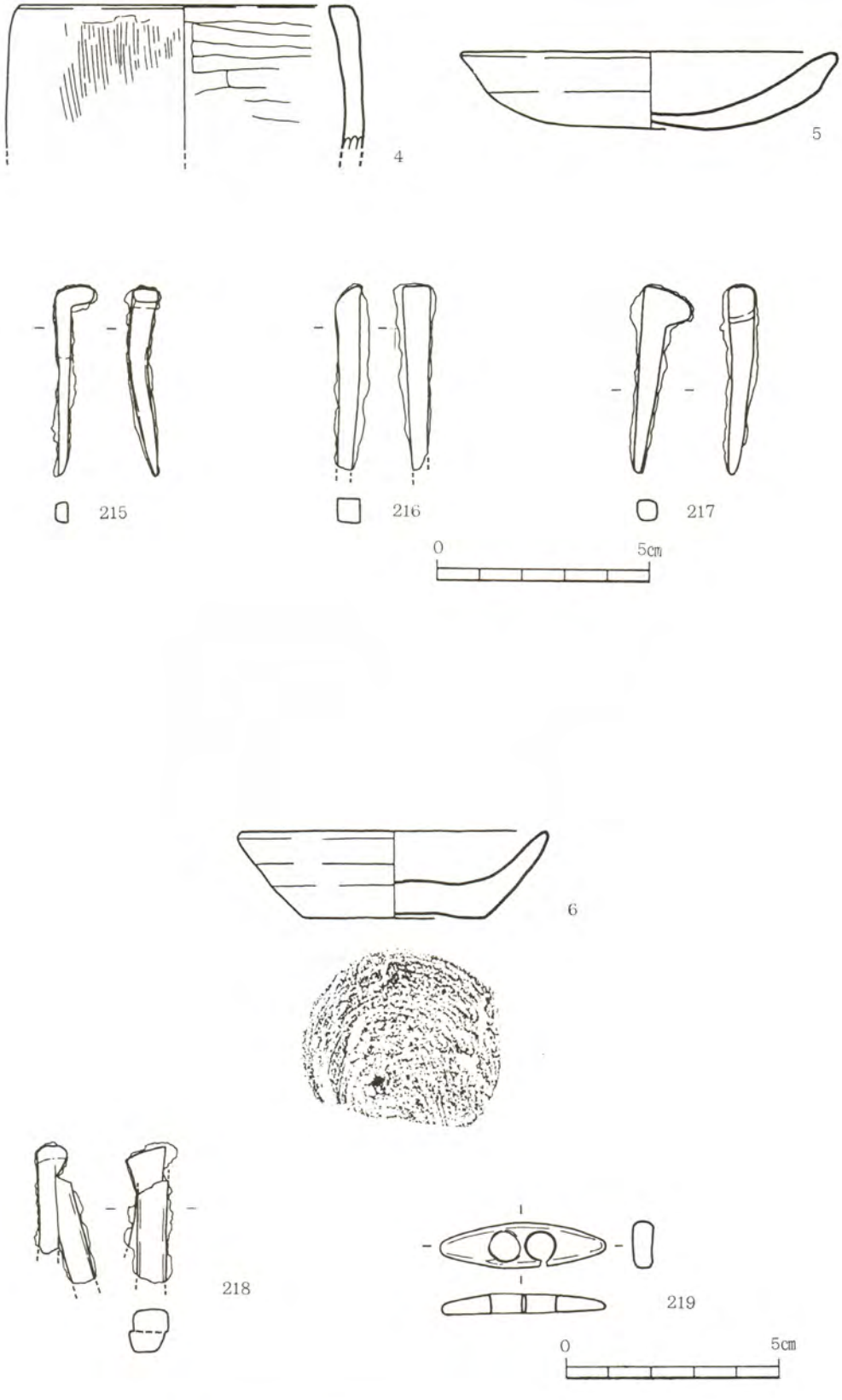
整地層下層の土は、Ⅴ層面の掘立柱建物・土壙・溝上遺構などの埋土になっている。その埋土より戦国期の遺物が出土しているため、整地層も同年代ではと推定できる。



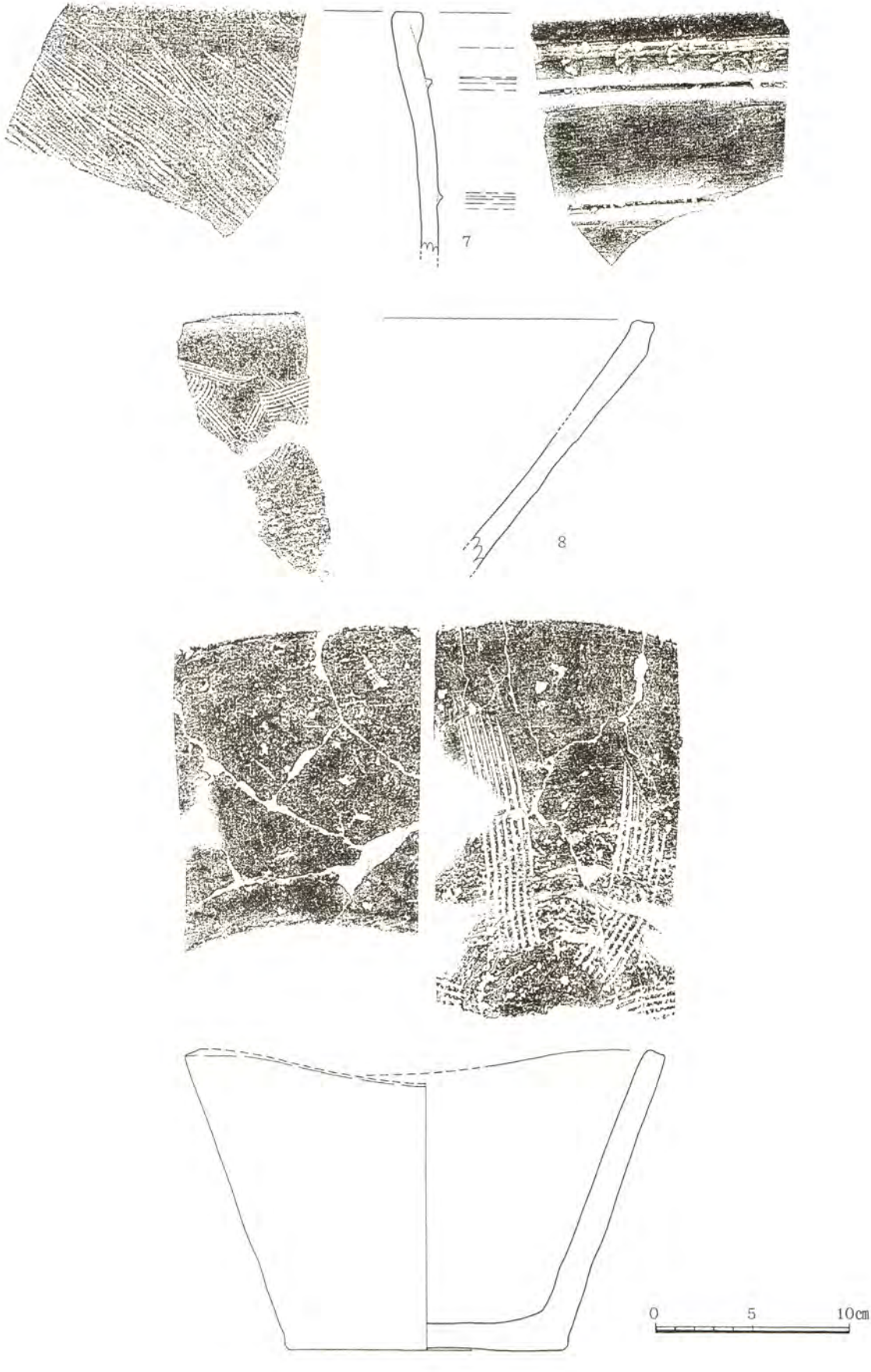
第５図　整地層平面範囲図



第６図　整地層出土遺物実測図（１）上層一括



第７図　整地層出土遺物実測図（２）上段下層一括，下段中層一括



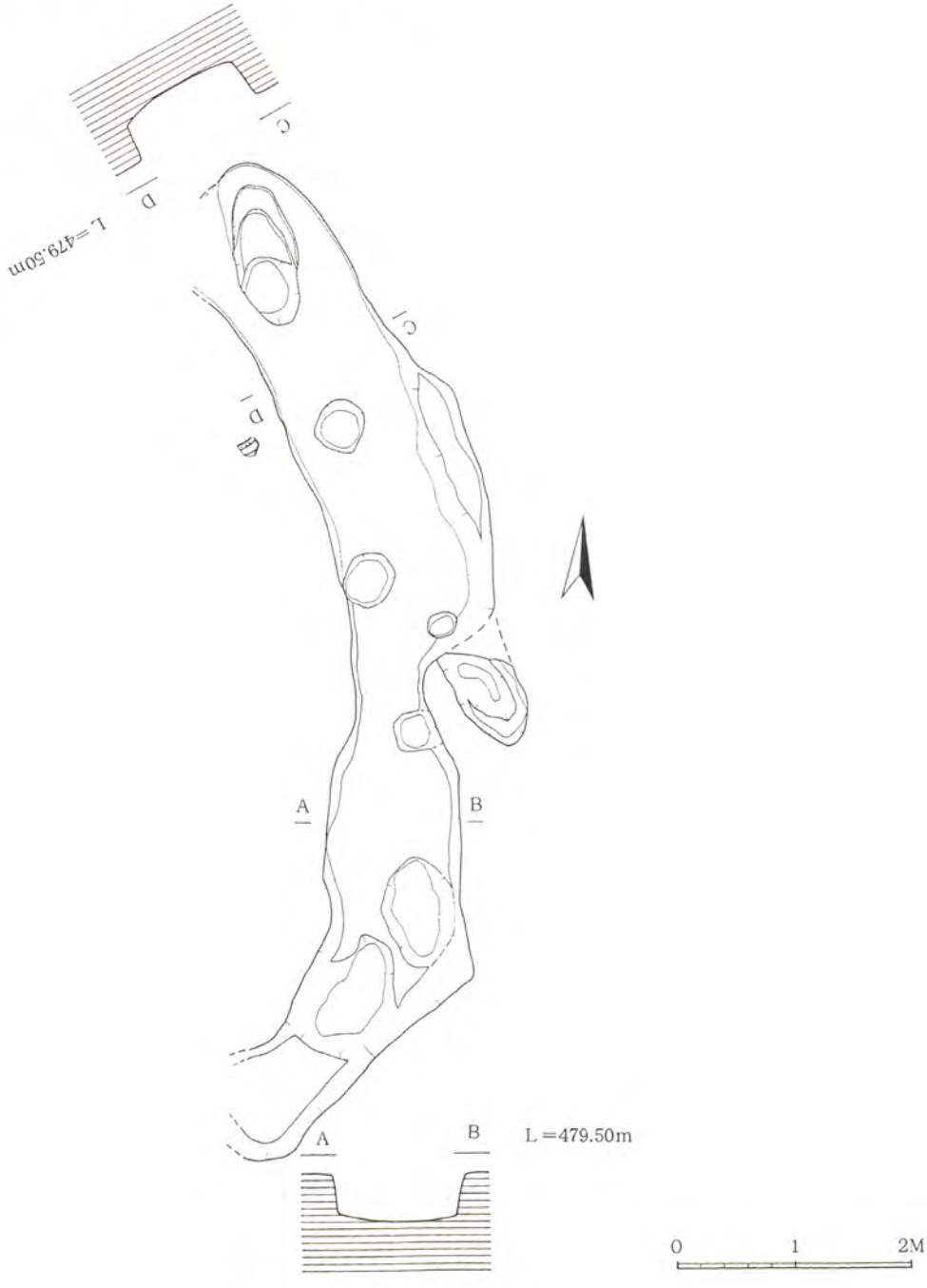
第８図　整地層出土遺物実測図（３）下層一括

第２節　戦国時代の遺構・遺物

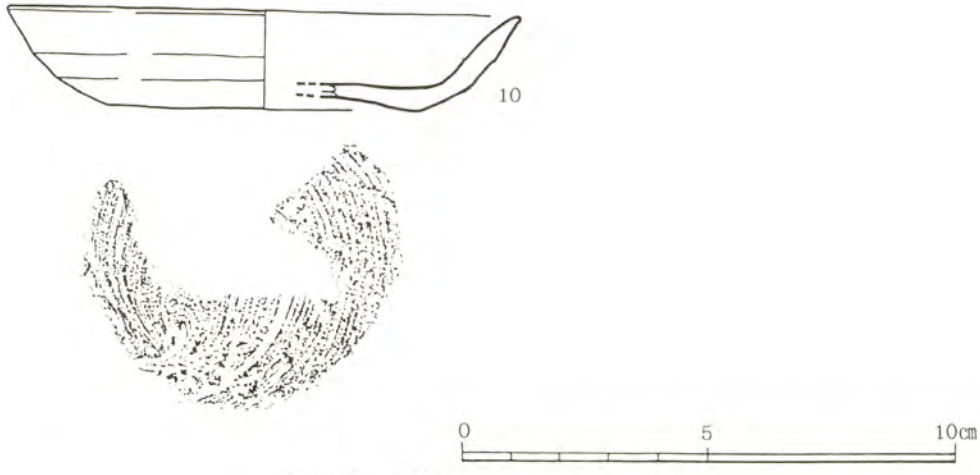
１．溝跡

１号溝跡（第９図）

１号溝跡は、調査区南側に位置し、５・10号掘立柱建物の柱穴が溝内にある。１号溝の埋土に掘立柱建物の柱穴の掘り込みがあったため１号溝が古いということになる。検出部は緩やかに弧を描いており、両端は調査区外へとのびる。検出部全長840㎝，幅60～140㎝，深さ40～60㎝である。遺物は、土師器の坏が出土した（第10図）。注：（土層図は付録の整地層断面図参照）



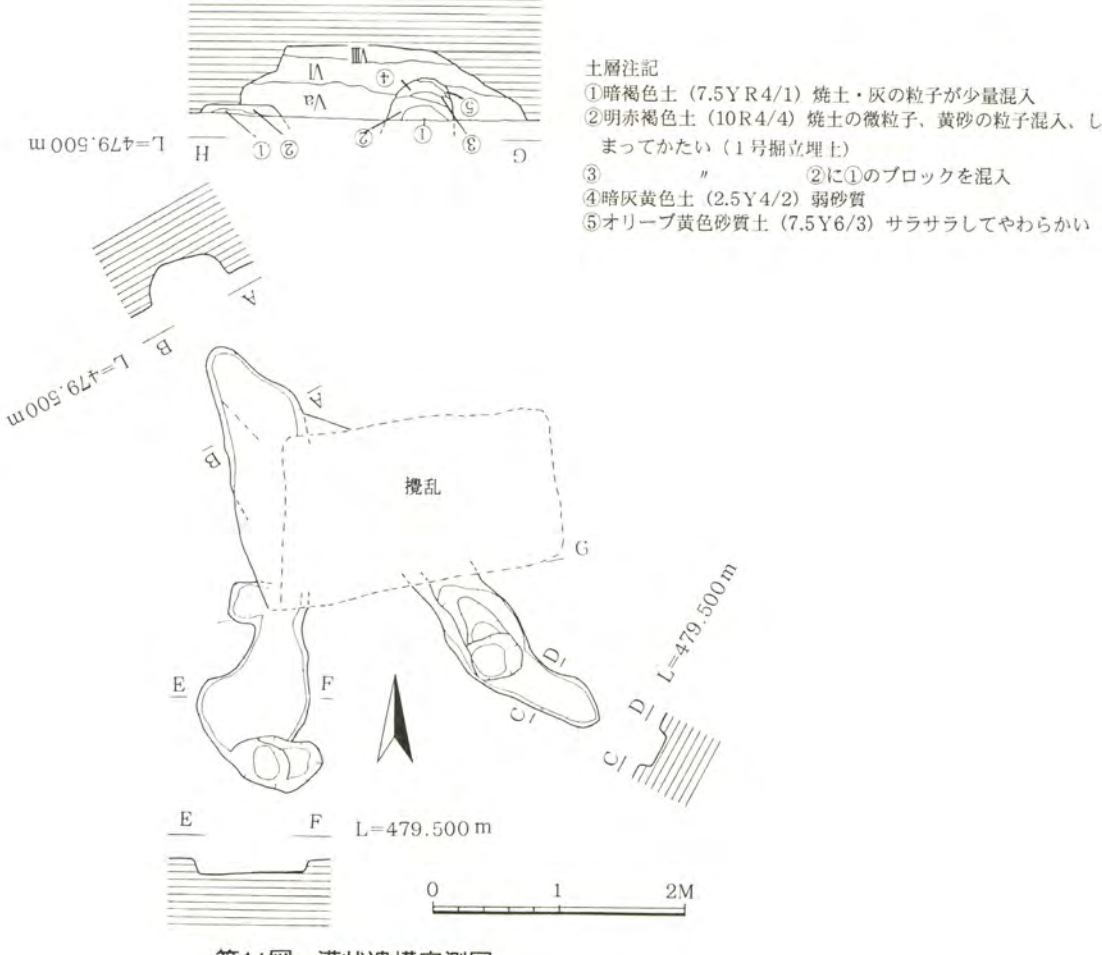
第９図　１号溝跡実測図



第10図　１号溝跡内出土遺物実測図

溝状遺構（第11図）

溝状遺構は、掘り下げ時の不注意及び中央部を攪乱され、溝状になっているのか、土壙なのか平面形は不明である。南側の２条は、４号掘立柱建物跡のＰ３・Ｐ４と重複関係にあるが、埋土の状態から、溝状遺構→４号掘立柱建物と推定できる。北側部分は攪乱掘り下げ時に掘り過ぎてしまい、遺構のラインを正確に掴めなかった。埋土の状態は各部同じである。遺物の出土はなかった。



第11図　溝状遺構実測図

2．掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡（第12図）

調査区中央部で検出。北側を攪乱されているが、梁間２間×桁行５間（10.05m×4.2m）掘立柱建物、或いは北東側の柱穴（Ｐ14）を伴うものと考えれば、廂付建物となる。

柱穴は直径約45㎝～60㎝，深さ約80㎝～90㎝のほぼ円形である。柱痕跡は確認することができず、埋土は赤褐色土（10R4/4　固く締まり、黄砂・焼土の粒子が混じる）である。Ｐ３は４号掘立柱建物跡のＰ５と重複している。北東コーナー及び南東コーナーの柱穴は試掘杭下部に確認できた。両妻部の柱間は同じ寸法をとられているが、両桁部はトータルは同じであるが東側にバラツキがある。柱痕跡は確認できず、Ｐ11の埋土内より遺物が出土した（第14図）。

2号掘立柱建物跡（第13図）

１号掘立柱建物跡の北側に位置している。東側柱列が攪乱されていたが、その下部から確認することができ、調査区外から南東コーナーを確認できた。基本的に梁間２間×桁行３間の掘立柱建物だが、柱列上に並ぶ柱穴（Ｐａ～Ｐｄ）も伴うものとも考えられ、梁間３間×桁行５間（4.5m×６m）の掘立柱建物であるともいえる。

主軸が４号掘立柱建物跡と直交しており、埋土も同一である。埋土は黒褐色土（2.5Y3/2）で黄砂・小石混じりの砂が少量混入している。柱痕跡は確認できなかった。柱穴はＰ１～Ｐ10までは径約40～80㎝，深さ約100㎝（Ｐ７～Ｐ９は上面から推定）で均一がとられている。Ｐ５とＰｄは土壙状掘り込み内にそれぞれ柱穴を成している。Ｐ１の埋土内より遺物が出土した（第14図）。

3号掘立柱建物跡（第15図）

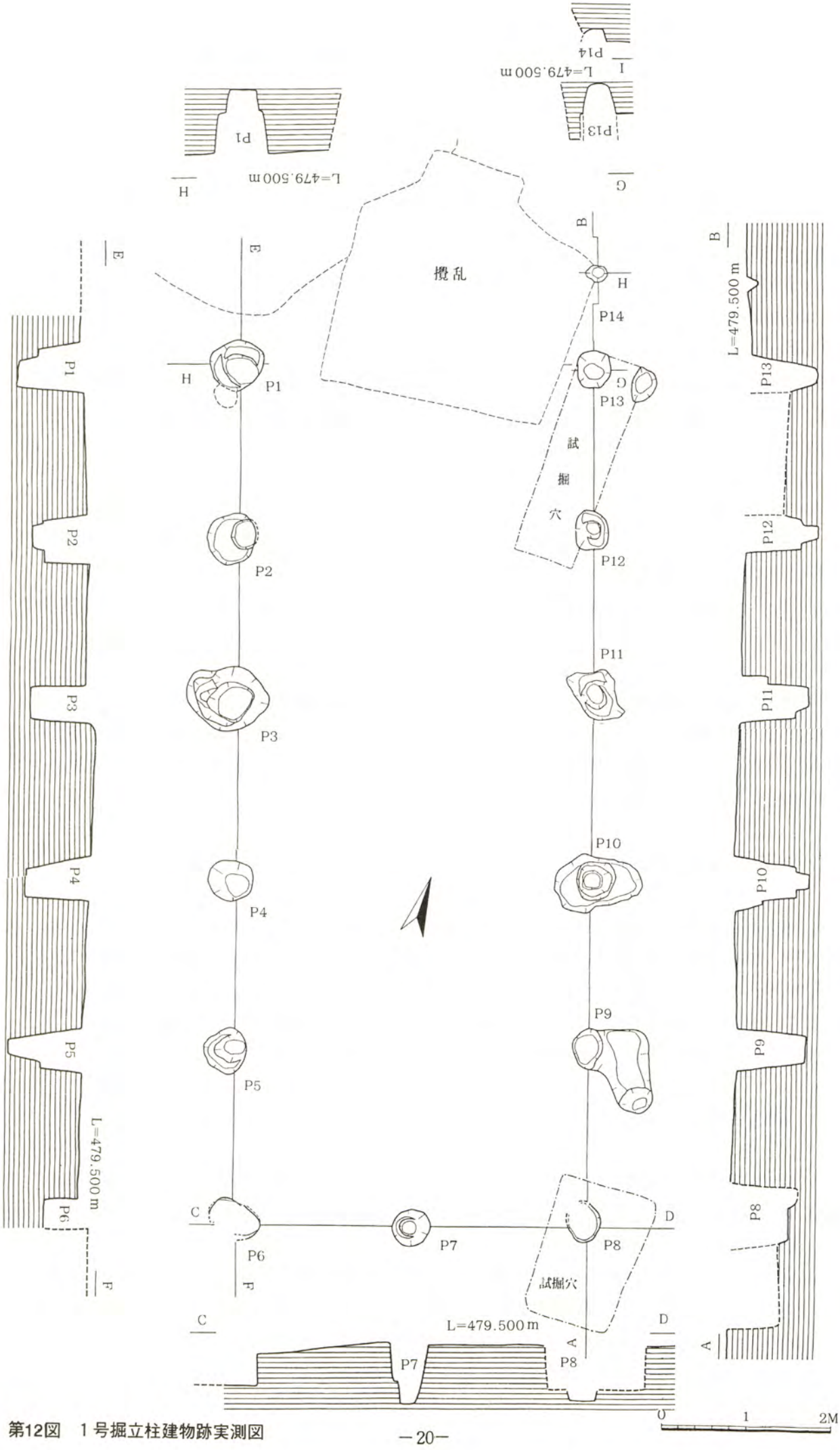
３号掘立柱建物は、桁行方向が調査区外へと延び、検出したのは両桁行１間分（北側約165㎝，南側約180㎝，Ｐａ～Ｐｃを含めると２間の可能性有り）、西側梁行２間（約210㎝）である。主軸は１号掘立柱建物と直交しており、埋土は赤褐色土（10R4/4　固く締まり、黄砂・焼土の粒子が混じる）で１号掘立柱建物と同一である。

柱穴は、約25～60㎝のほぼ円形で、深さは北側桁行のＰ１・Ｐａ，南側桁行のＰ５が約60～70㎝と深く、他は約25～50㎝となっている。柱痕跡は確認できず、柱穴からの遺物の出土もなかった。

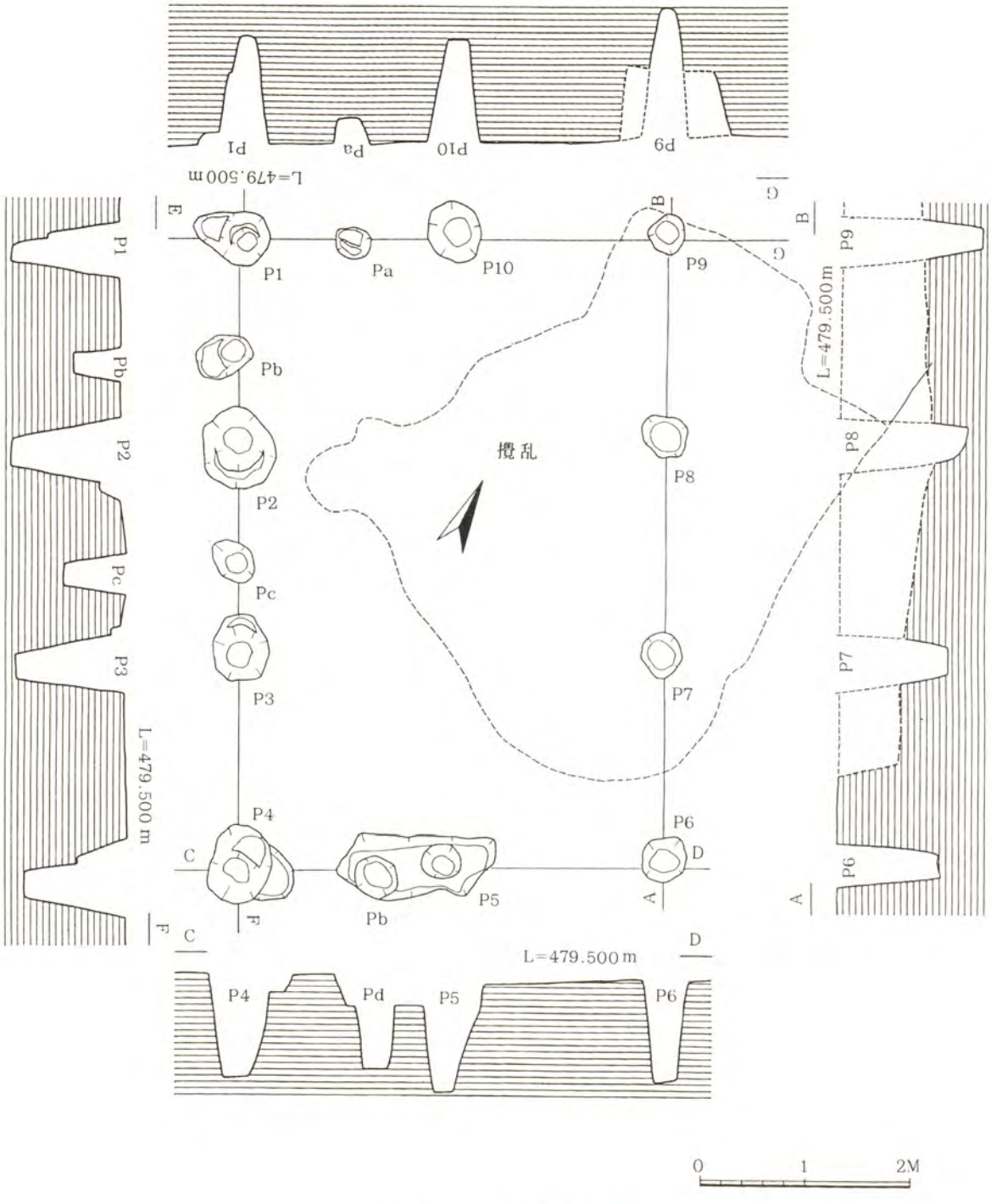
4号掘立柱建物跡（第16図）

４号掘立柱建物は、東側部分が調査区外に延びており、検出したのは西側梁間２間、北側桁行４間・南側桁行３間を確認できた。西側梁間の内、柱穴Ｐ５が１号掘立柱建物跡のＰ４と重複している。柱穴Ｐ７・Ｐ８は溝状遺構の埋土上面から掘り込んでいる（溝状遺構→４号堀立柱建物の順）。

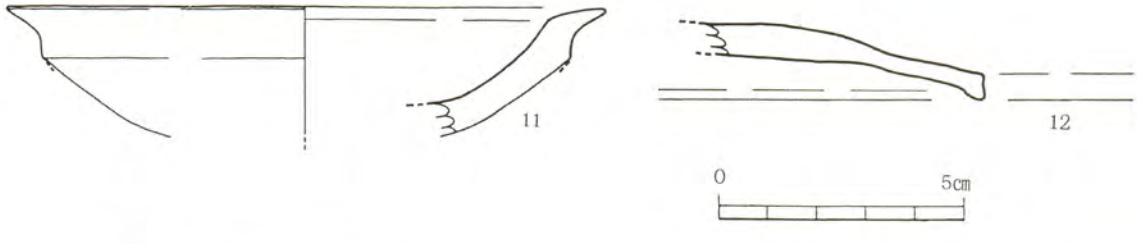
４号堀立柱建物の規模は不明であるが、検出した部分のみでも最大である。埋土は２号掘立柱建物と等しく（黒褐色土2.5Y3/2　黄砂・小石混じりの砂が少量混入。）柱痕跡は確認できなかった。主軸も直交しているので、ほぼ同時期と推定できる。柱穴の平面形状は様々であり、深さはＰ２が64㎝，Ｐ10が40㎝と浅く、それ以外は約80～90㎝と均一になっている。柱穴内からの遺物の出土はなかった。



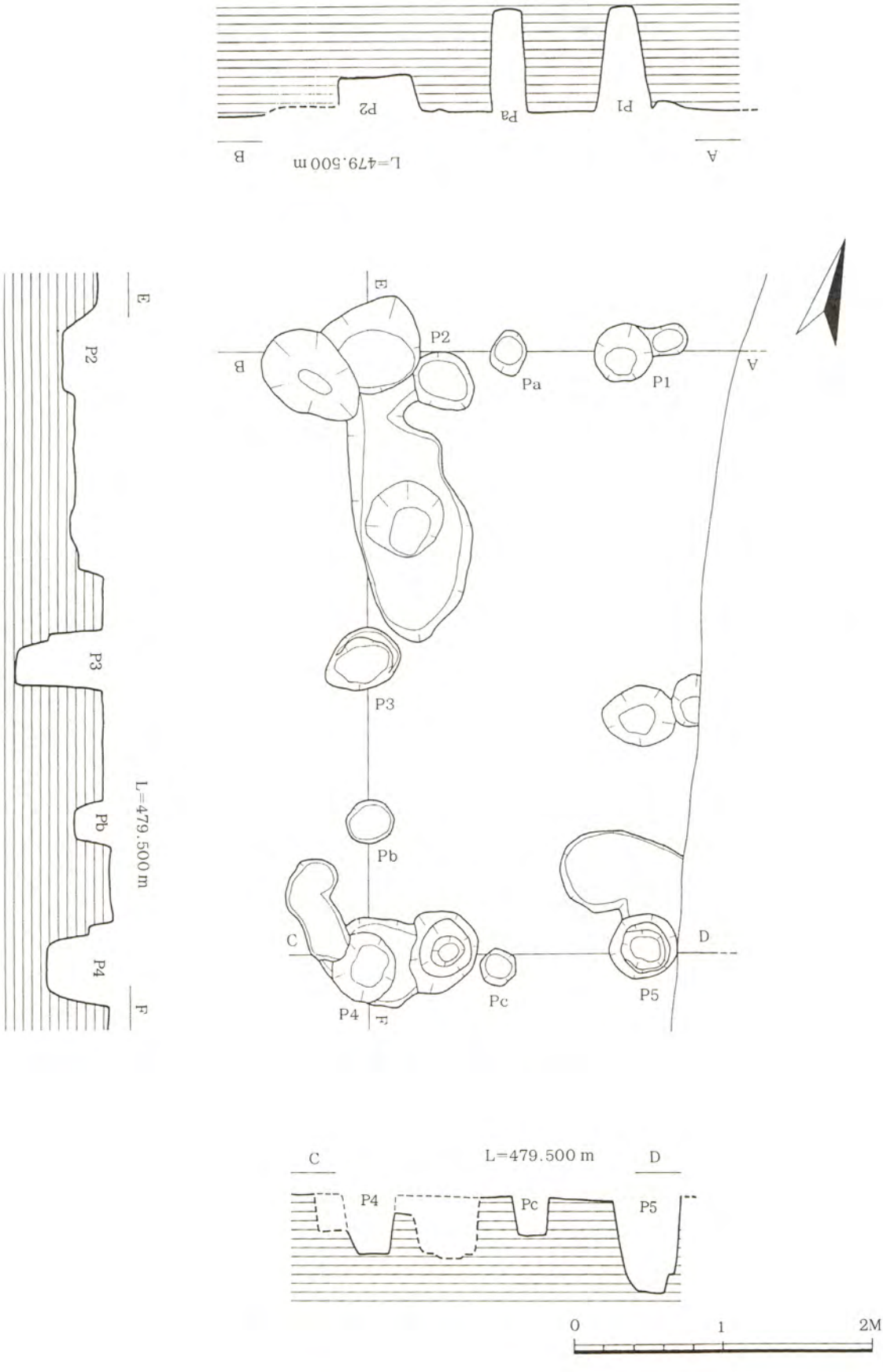
第12図　1号掘立柱建物跡実測図



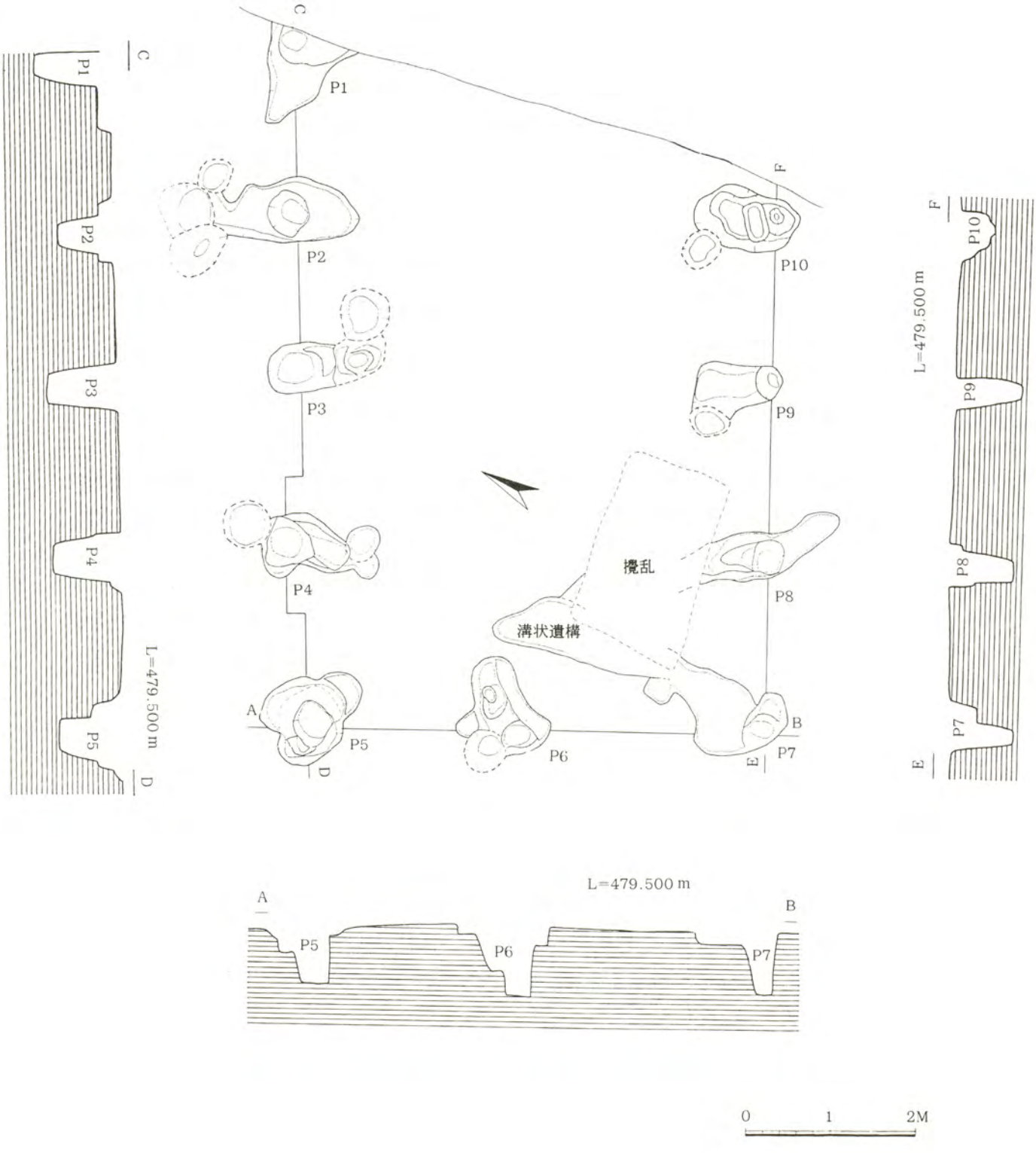
第13図　2号掘立柱建物跡実測図



第14図　1・2号掘立柱建物跡柱穴内出土遺物実測図（No.11・1号掘立，No.12・2号掘立）



第15図　3号掘立柱建物跡実測図



第16図　4号掘立柱建物跡実測図

5号掘立柱建物跡（第17図）

5号掘立柱建物跡は、南東部コーナーの柱穴が調査区外にあると推定でき、桁行2間×梁間2間（推定約540×300㎝・約18尺×約10尺）の規模になる（P8が伴えば、東側桁行は3間となる）。東側桁行は1号溝跡と重複関係にある。1号溝跡埋土上面から5号掘立柱建物の柱穴の掘り込みがあったため、1号溝埋没後、5号掘立柱建物が建てられたと考えられる。柱穴の平面形状は様々であり、P1は2基の柱穴が切り合っており、P3及びP5は土壙状を呈する。柱穴の深さは（溝内の柱穴も検出面と同じレベルで算出すると）約90～100㎝であるが、P2が約140㎝とかなり深く、P6が約45㎝で浅い。埋土は1号掘立柱建物と等しく（赤褐色土10R4/4　固く締まり、黄砂・焼土の粒子が混じる）、主軸もほぼ同じである。柱痕跡は確認できず、遺物の出土はなかった。

10号掘立柱建物跡（第17図）

10号掘立柱建物跡は、東側柱列が調査区外へと延びているため、建物の規模は不明である。検出できたのは西側柱列2間（約515㎝）、北側柱列1間分（約335㎝）、南側柱列1間分（約230㎝）のみである。南側柱列のP5が伴えば、2間分となる。5号掘立柱建物と同じく西側柱列が1号溝跡と重複関係にあるが、1号溝埋土上面から掘り込んでいることから、1号溝埋没後、10号掘立柱建物が建てられたと考えられる。5号掘立柱建物と10号掘立柱建物の前後関係は、埋土が同一（赤褐色土10R4/4　固く締まり、黄砂・焼土の粒子が混じる）なので不明である。主軸もほぼ同一である。柱痕跡は確認できず、遺物の出土はなかった。

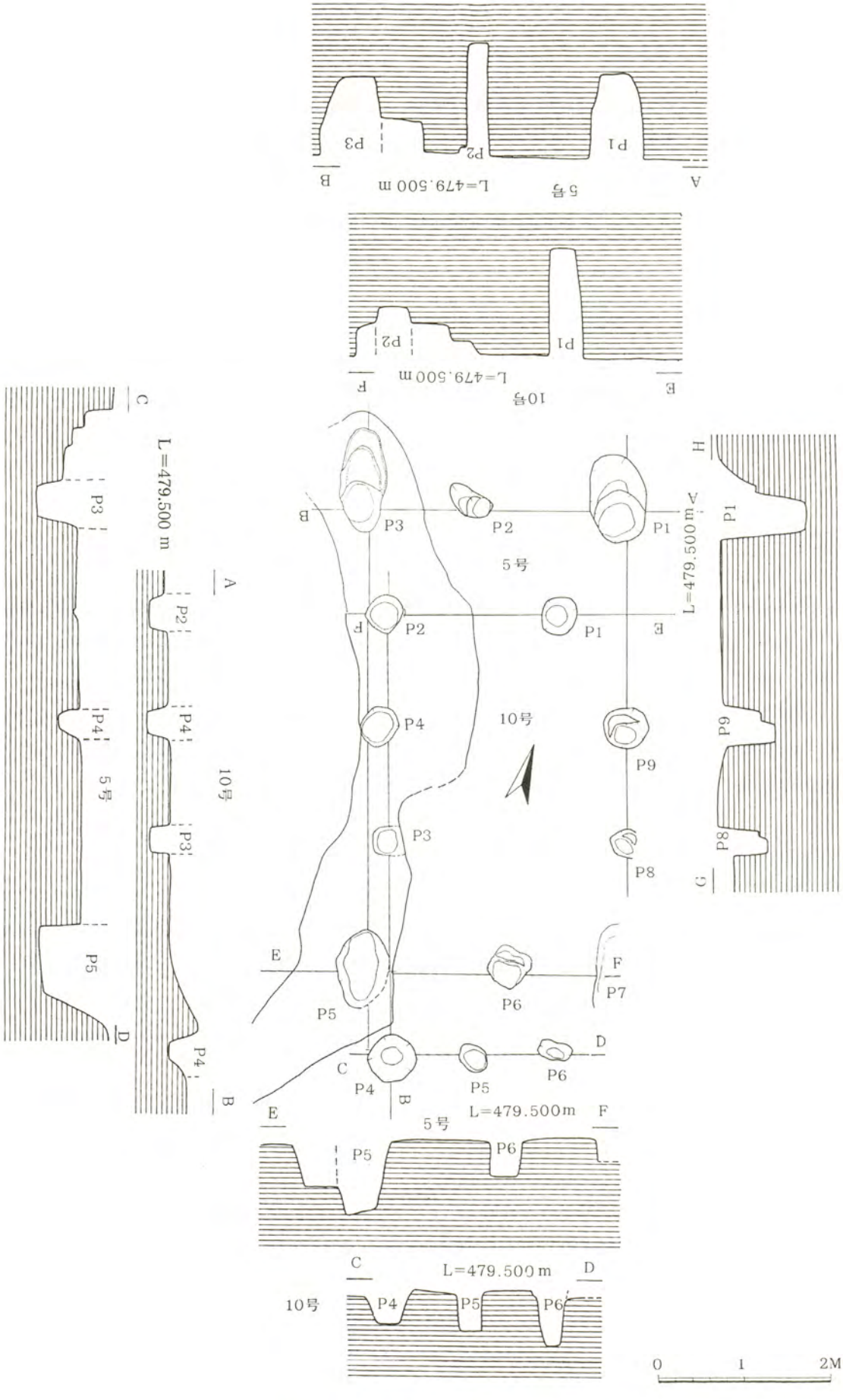
3．土壙

1号土壙（第18図）

調査区北側にて検出。平面形は、長軸は約230㎝，短軸約76㎝の歪長円形を呈する。土壙の深さは約22～30㎝を測る。土壙内には柱穴が2基あり、底面西側にテラスを持つ。2基の柱穴は、埋土に違いが見られなかったので別遺構かどうかは不明である。土壙の埋土は分層できず、黒褐色土（2.5Y3/2）で黄砂・灰・焼土の粒子・カーボン・小石混じりの砂が混入している。特に灰の割合は多量である。埋土より遺物が出土した（第19図）。

2号土壙（第18図）

調査区東側の中央寄りで検出。東側を柱穴P1（径44×26㎝，深さ約34㎝）に切られているが、土壙の平面形は円形を呈する。底面はほぼ平面的であり、断面形状は2段掘りとなっている。土壙の埋土は、分層できず、赤褐色土（10R4/4）で1㎝大の黄砂のブロック及び、焼土の微粒子が混じる（1号掘立柱建物跡の埋土と類似）。柱穴P1の埋土は、黒褐色土（2.5Y3/2）で2号掘立柱建物跡の埋土と類似する。遺物の出土はなかった。



第17図　5・10号掘立柱建物跡実測図

3号土壙（第18図）

調査区北側中央部寄りで検出。不明焼土遺構を切っている。土壙北側を掘り過ぎたが、平面形は長円形を呈する。長軸約150㎝，短軸約74㎝，底面までの深さ約34㎝を測る。底面形状は、ほぼ平坦である。埋土には灰・炭・焼土の粒子を多量に含む。遺物の出土はなかった。

8号土壙（第18図）

調査区西側端部中央寄りで検出。8号土壙の平面形は不整長楕円形を呈し、全長軸約158㎝，短軸約58㎝，深さ約36～42㎝を測る。西側に楕円状の掘り込みがあり（径約76×64㎝，壙底面からの深さ約8㎝），楕円形掘り込み底部北側に土壙埋没後と思われる小穴がある（径18㎝，掘り込み底面からの深さ約48㎝）。埋土は2号掘立柱建物跡と同一で黒褐色土（2.5Y3/2）黄砂・小石混じりの砂が少量混入している。埋土内から遺物が出土した（第19図）。

9号土壙（第18図）

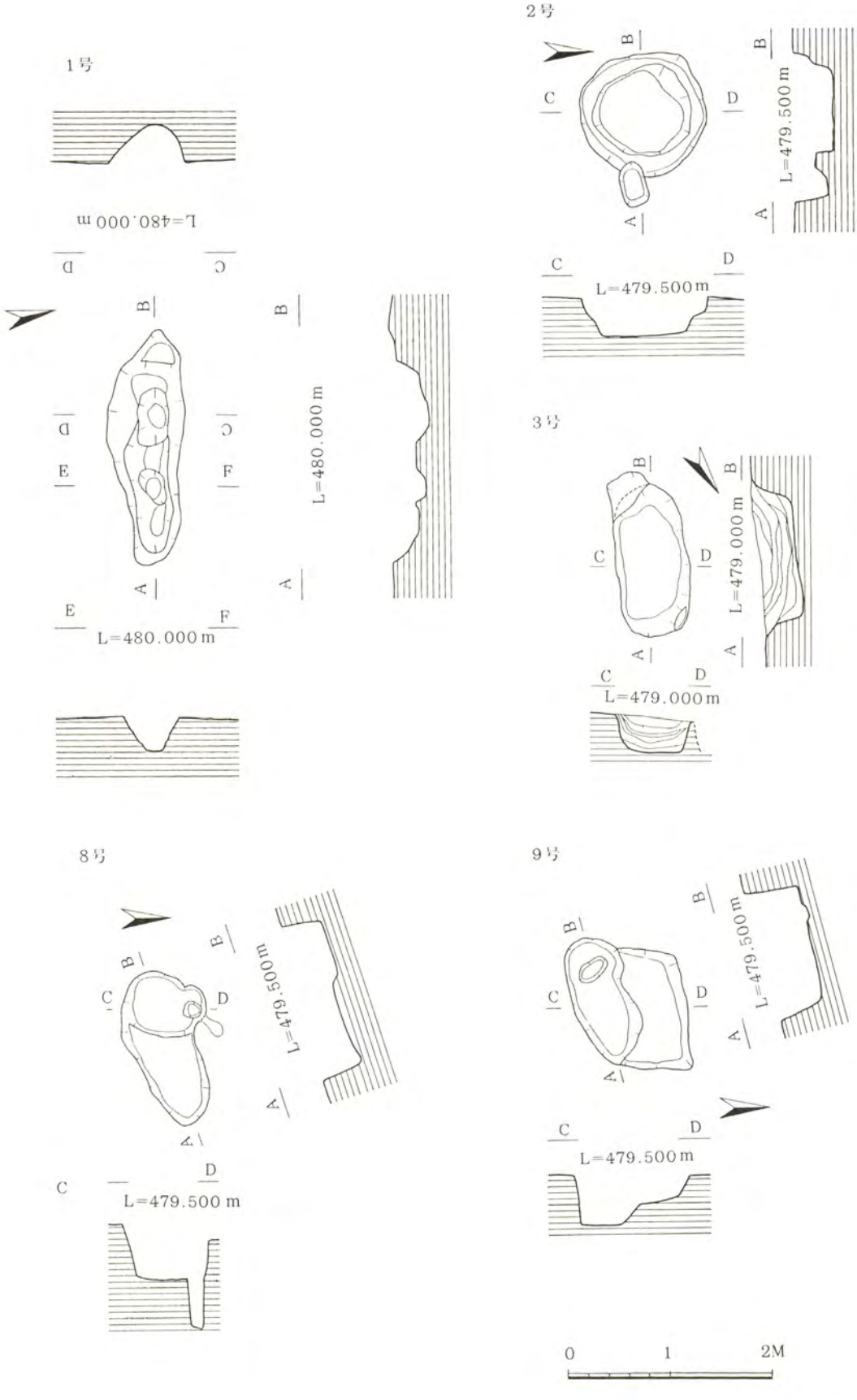
調査区西側端部中央寄りで、8号土壙の南側約3Mに位置する。9号土壙の平面形は北東及び南西側が突出し、やや歪な方形を呈する。2つの遺構が切り合っていると考えられ、南側約1/2が長楕円形状に落ち込んでいる。その底面西側に、長楕円形状の掘り込み（径約30×18㎝，深さ約4㎝）がある。土壙規模は、北側部・長軸約120㎝，残存短軸約46㎝，深さ約20～26㎝，南側部・長軸約125㎝，短軸約56㎝，深さ約50㎝を測る。埋土は北・南側部共に黒褐色土（2.5Y3/2）で黄砂・小石混じりの砂が少量混入している。埋土内から遺物が出土した（第19図）。

10号土壙（第20図）

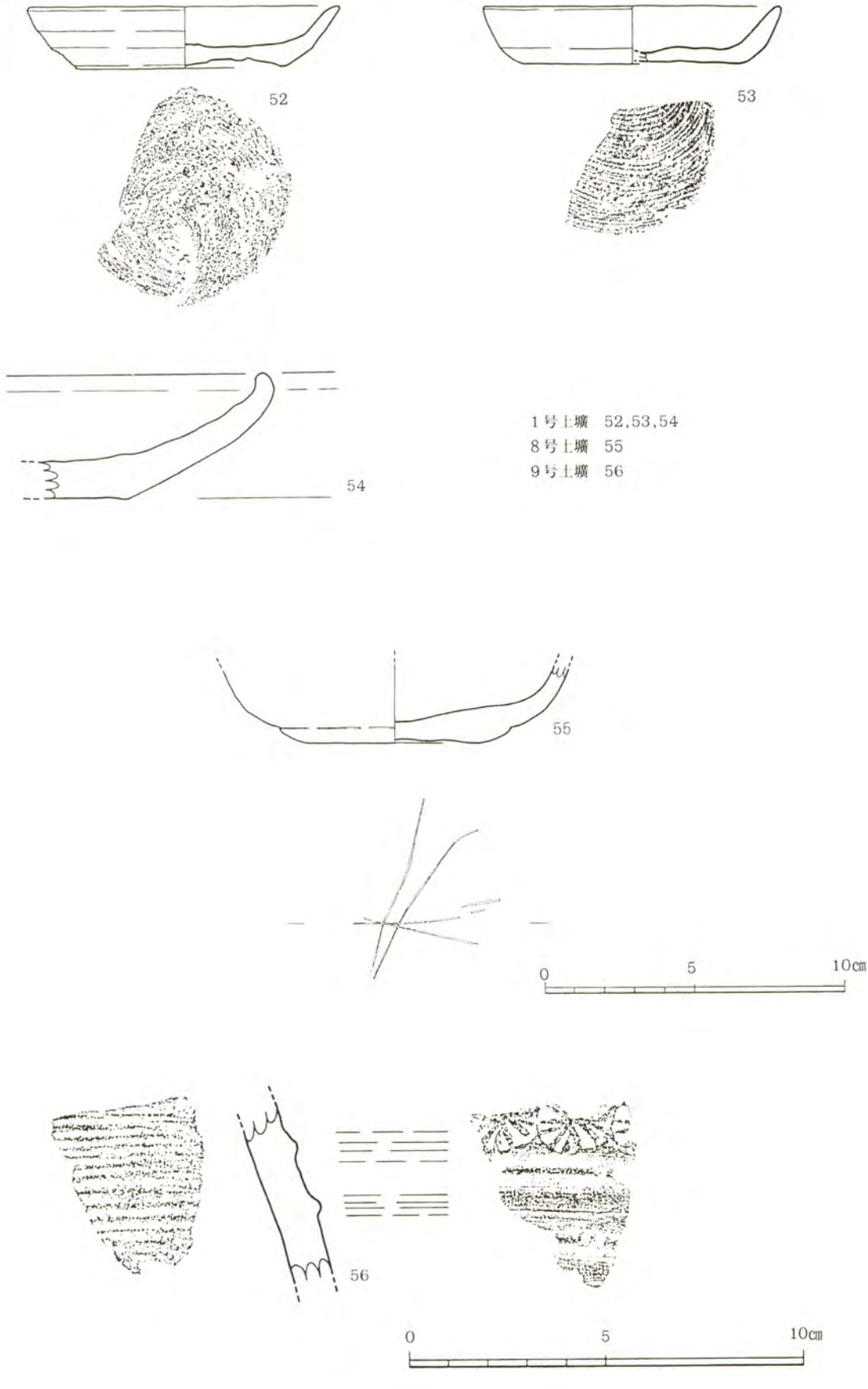
10号土壙は調査区の西側、中央から南寄りに位置する。長軸約170㎝，短軸約50㎝の長楕円形の平面形を呈する。壙の深さは約44～50㎝を測る。壙底部北側に半楕円形状の掘り込みがあり、深さは約30㎝を測る。この掘り込みは、埋土の若干の違いから、土壙には伴わないと考えられる。10号土壙の埋土の状態は、黒褐色土（2.5Y3/2）黄砂・小石混じりの砂が少量混入している。掘り込みの埋土は、10号土壙の埋土に砂の割合が多くなっている。遺物の出土はなかった。

11号土壙（第20図）

11号土壙は、調査区南西部、15号土壙と東西方向で平行し位置する。11号土壙は上縁部約100×100㎝，底面約90×85㎝の略方形の平面形を呈する。壙の深さは約28～32㎝を測る。壙底面中央に、西側テラス付きの長円形の掘り込みがある（径50×40㎝，深さ約22～26㎝）。断面形はバケツ状を呈する。全体の断面形はほぼ直立の壁から、中央にしたがって内湾ぎみの底面となる。埋土は黒褐色土（2.5Y3/2）で黄砂・小石混じりの砂が少量混入している。遺物の出土はなかった。



第18図　1～3・8・9号土壙実測図



第19図　1・8・9号土壙内出土遺物実測図

13号土壙（第20図）

13号土壙は調査区南壁沿いに位置する。平面形は不整形で、壙の断面形は筒状になり深さ約30～35cmを測る。東端部に、径42×35cm、壙上縁部からの深さ約63cm，壙底面からの深さ約25cmを測る柱穴状の掘り込みがある。埋土は互いに黒褐色土（2.5Y3/2）で、黄砂・小石混じりの砂が少量混入している。遺物の出土はなかった。

15号土壙（第20図）

15号土壙は、11号土壙に平行して位置する。約90×90cmの隅丸方形の平面形を呈し、深さ約75cmを測る。中央部に径約40cm，深さ約60cmの掘り込みがあり、２段掘り形状となっている。他柱穴よりも規模が大きく、深さもある。11号土壙と対と考えれば門柱の可能性がある。埋土は黒褐色土（2.5Y3/2）で、黄砂・炭・焼土・小石混じりの砂が少量混入している。柱痕跡は確認できず、遺物は鉄製品等が出土した（第21図）。

18号土壙（第20図）

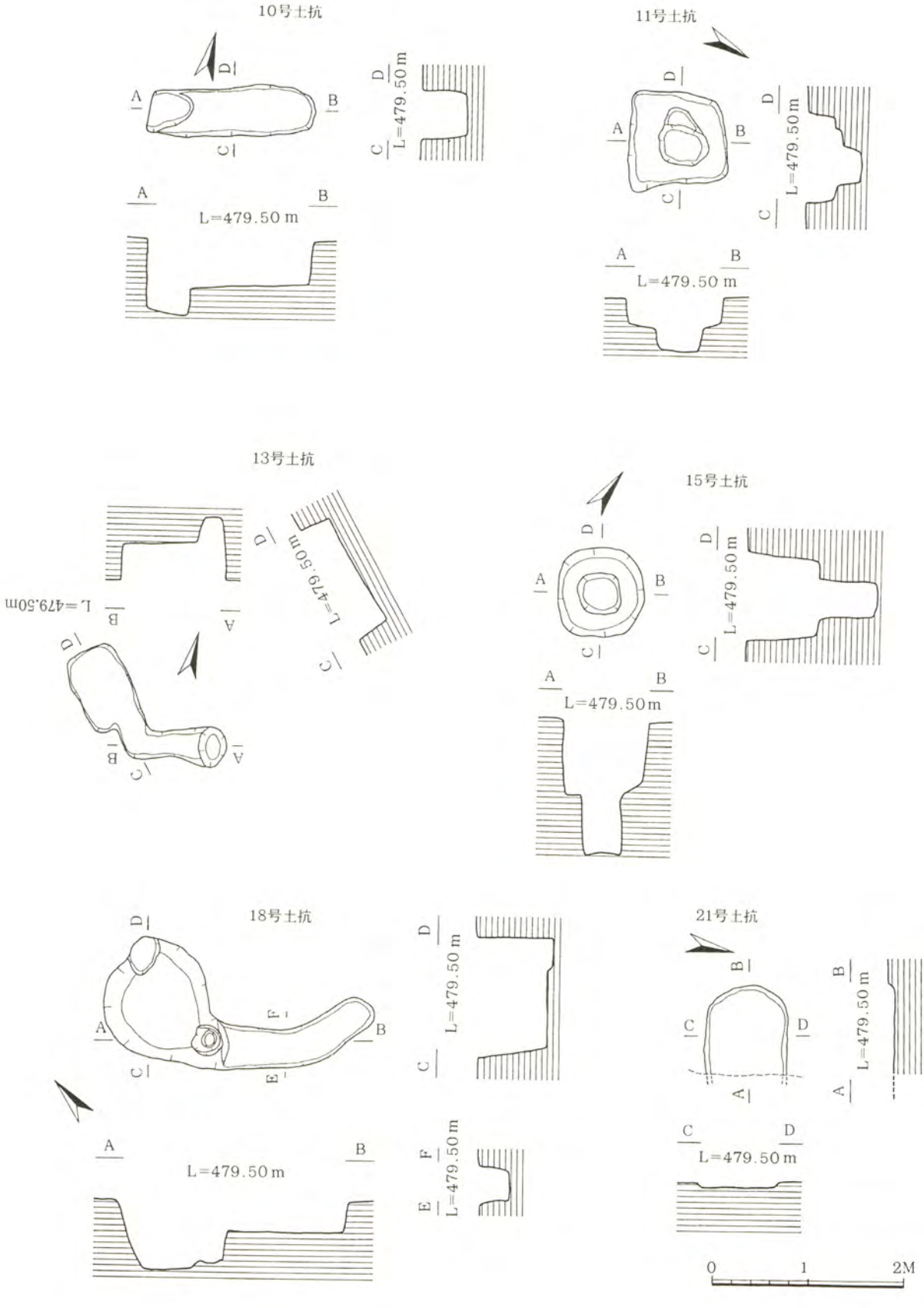
18号土壙は、楕円形状の掘り込み（径約125×約110cm）と方形の溝状掘り込みから成る杓状の平面形を呈する。楕円形状掘り込み内にＰ１（径40×30cm，深さ約５cm），Ｐ２（径30×30cm，深さ約５cm）があり、調査者の手違いで土層断面を残さなかったために埋没状態は不明である。楕円形状掘り込みの断面形は筒状に近く、深さ約70cmを測る。溝状部分の深さは約30cmを測る。埋土は黒褐色土（2.5Y3/2）で黄砂・炭・焼土・小石混じりの砂が混入している。遺物の出土はなかった。

21号土壙（第20図）

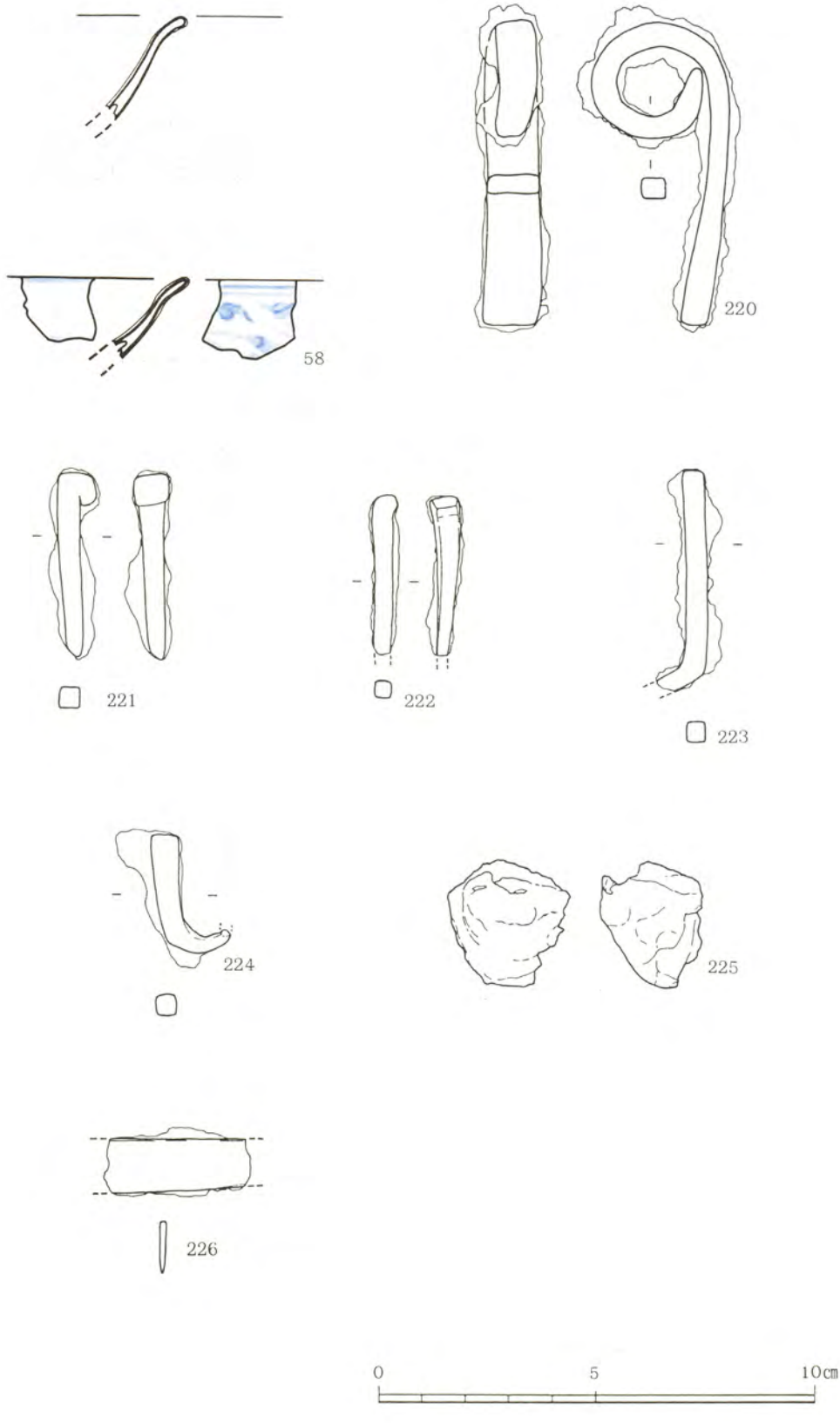
21号土壙は調査区中央からやや西寄りに位置し、東側を攪乱されている。現存で長軸約94cm，短軸約85cmの半楕円形プランを呈し、深さ約４～６cmを測る。埋土は１号掘立柱建物跡に等しく、埋土内から土師器の坏が出土した（第22図）。

17号土壙（第23図）

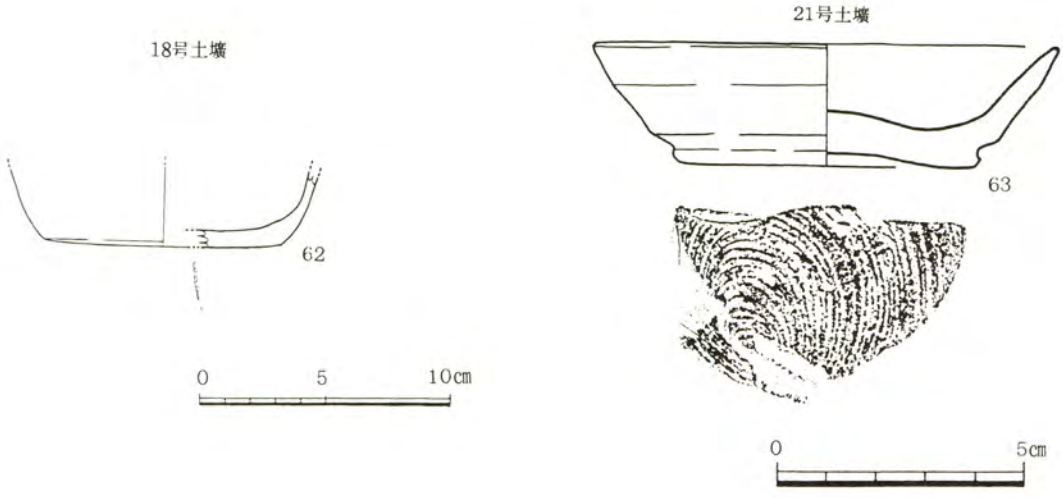
17号土壙の平面形は、上縁長軸約390cm，短軸約310cmであり、南西部に膨らみを持つ隅円長方形を呈する。北東部は樹根により攪乱されている。底面は２段構造となっており、２段上面長軸約103cm，短軸約94cm，上縁部からの深さ約45～50cmを測る。最底面は長軸95cm，短軸80cm，２段上面からの深さ約55～64cmを測る。柱穴状の掘り込みを、土壙の２段上面北及び南側に各１基と上縁部南東側に１基、計３基確認した。段上面の北・南側の柱穴状掘り込みは、Ｐ１が径22cm，２段上部からの深さ28cm，Ｐ２が径26cm，２段上部からの深さ31cmでほぼ均一がとられている。Ｐ１・Ｐ２は２段上部から掘り込んであり、土壙に伴うものと考えられる。Ｐ３（径25cm，深さ７cm）は、土壙上縁部に切られており、直接的には伴わないと考えられる。遺構の下部、若しくは壁（段より下部）にかけて鉄分を多く含んだ赤褐色土（2.5Y4/6）が堆積していた。床面はXI層（黄橙色粘土［ローム層］10YR7/8）まで掘り込んでいる。土層断面は調査者の把握不足により取ることができなかった。埋土内より遺物が出土した（第24図）。



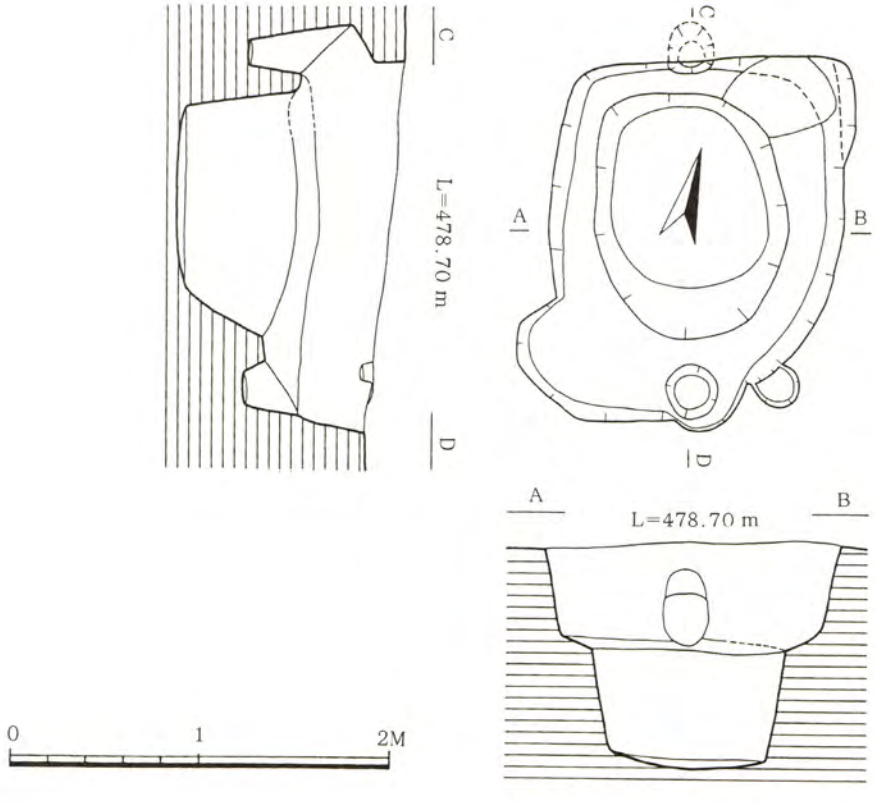
第20図　10～13・15・18・21号土壙実測図



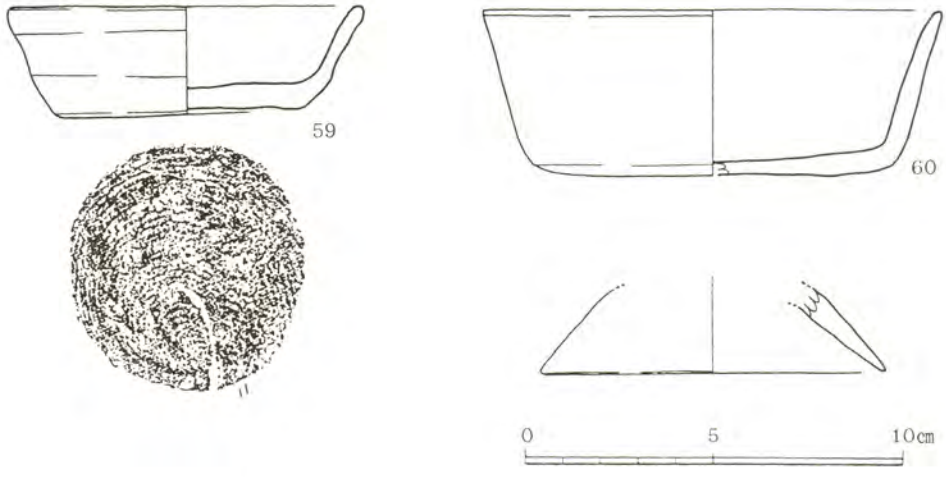
第21図　15号土壙内出土遺物実測図



第22図　18・21号土壙内出土遺物実測図



第23図　17号土壙実測図



第24図　17号土壙内出土遺物実測図

4．その他の遺構

不明焼土遺構（第25図）

当初の調査区では、東部端部を検出したが、表土剥ぎ時のトレンチにて部分的に消失させてしまった。調査区を拡張して遺構も広がりを見せたが、複数の土壙に切られており、平面的に遺構を捕えることができなかった。当初の調査区、拡張区の境壁の土層断面で観察すると、埋土上層部に炭・灰・焼土・焼土混入土の順で体積している。中でも、焼土の厚さは８～12㎝程有り、かなりの火災があったものと窺える。３号土壙（前記　第18図）・23号土壙は、土層観察上で焼土・灰・炭などが多量に混入しているため、不明焼土遺構との時期差はあまりないと考えられる。中央部付近にＰ１～Ｐ５があるが、不明焼土遺構埋土上面から掘り込んでいるため不明焼土遺構埋没後のものである。Ｑ－Ｒの断面を監察すると底面はレンズ状になっており、Ｑ側壁から落ち込み、Ｒ側壁に向かいなめらかに立ち上がっている。埋土上層より土師器小皿及び陶器片が出土した（第30図～第31図）。

不明焼土遺構内土壙群　22～28号土壙

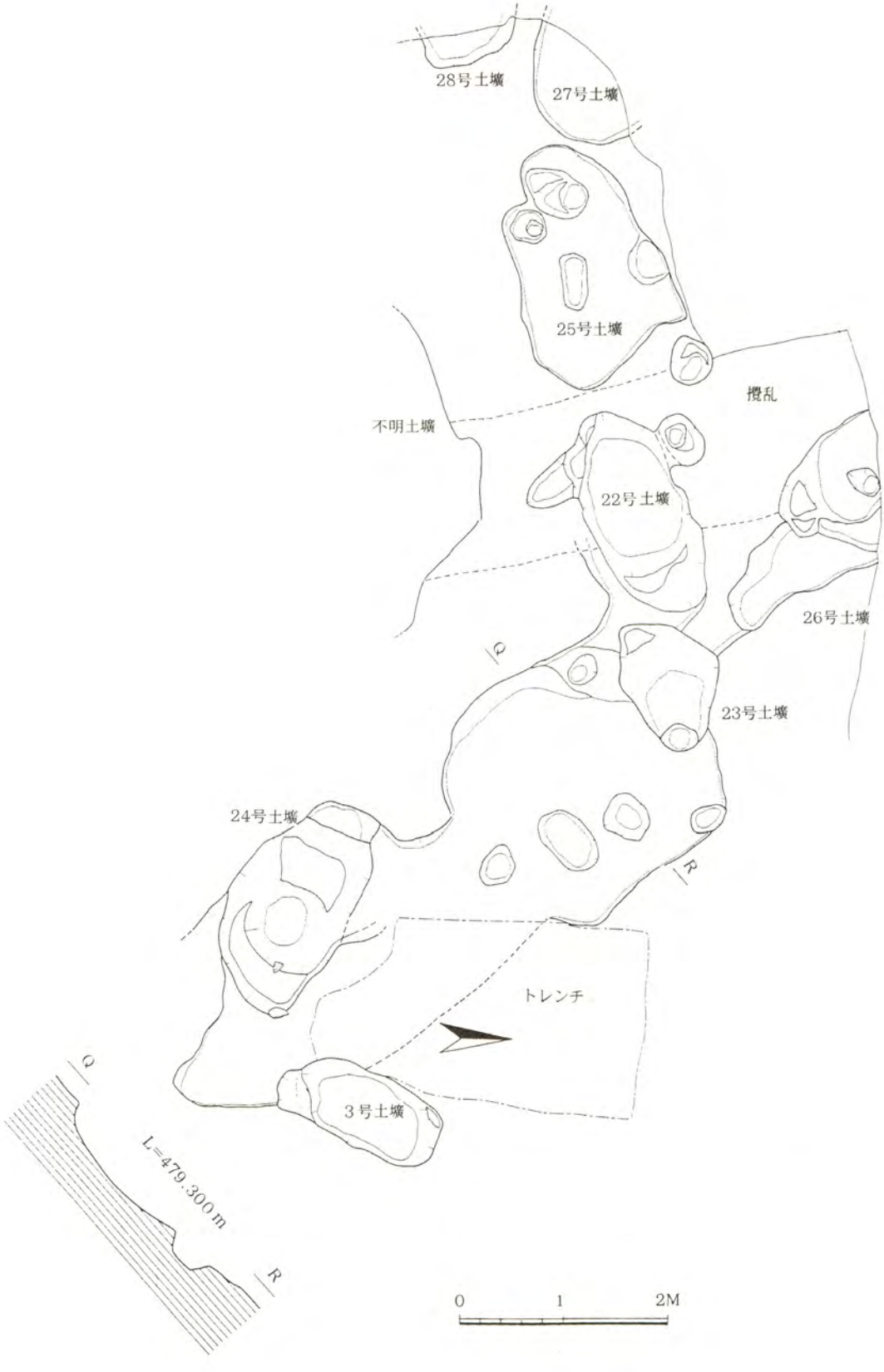
不明焼土遺構内には合計８基（内３号土壙は前記）の土壙群が存在する。いずれも埋土から不明焼土遺構と時期差はあまりないと考えられる。

22号土壙（第26図）

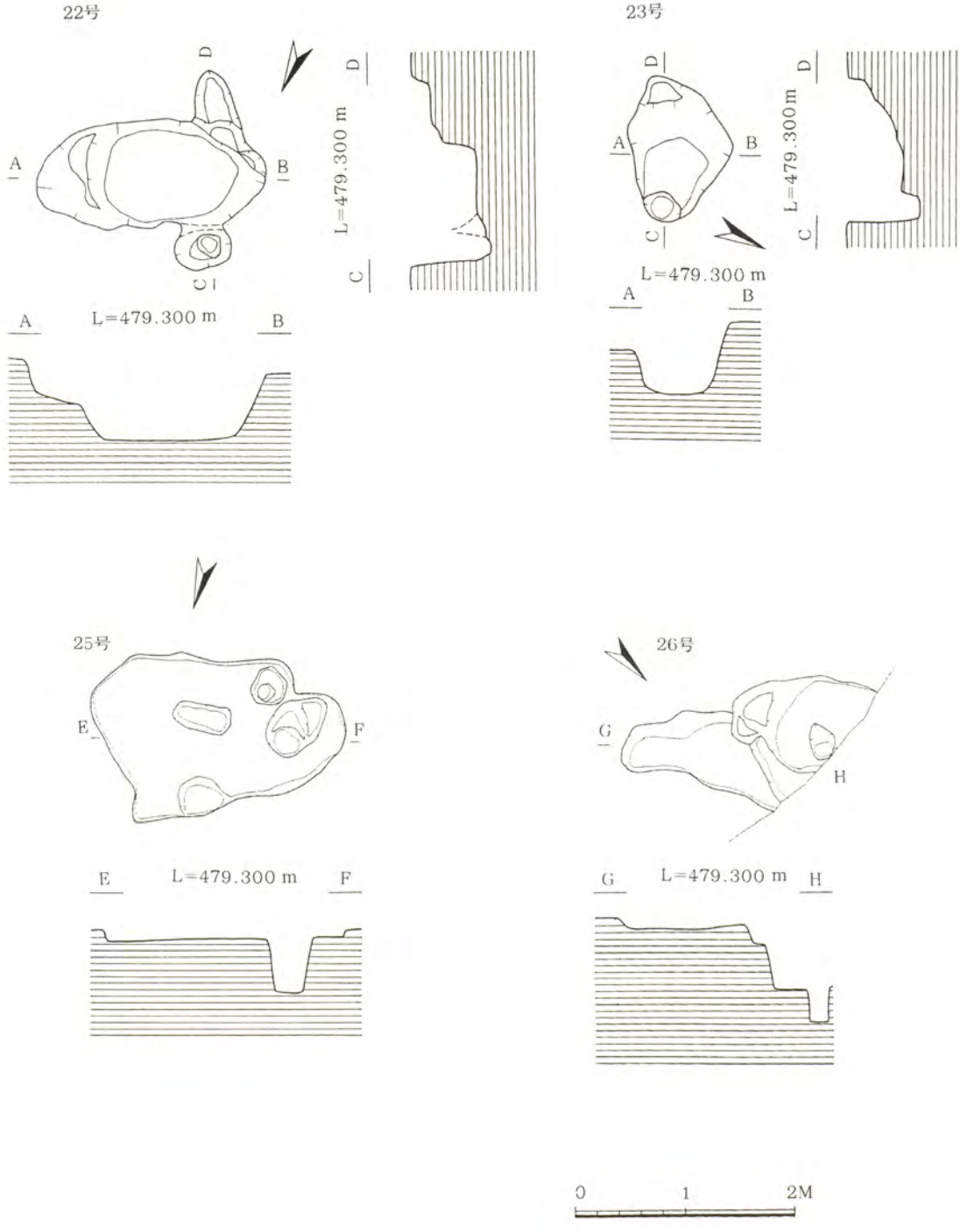
22号土壙は不明焼土遺構内中央部に位置し、長軸約210㎝，短軸約100㎝の楕円径プランを呈し、西側を２基の柱穴に切られている。深さ約78㎝を測る。埋土は焼土及びカーボン，少量の灰を含むＶ層ベースの砂質土である。遺物の出土はなかった。

23号土壙（第26図）

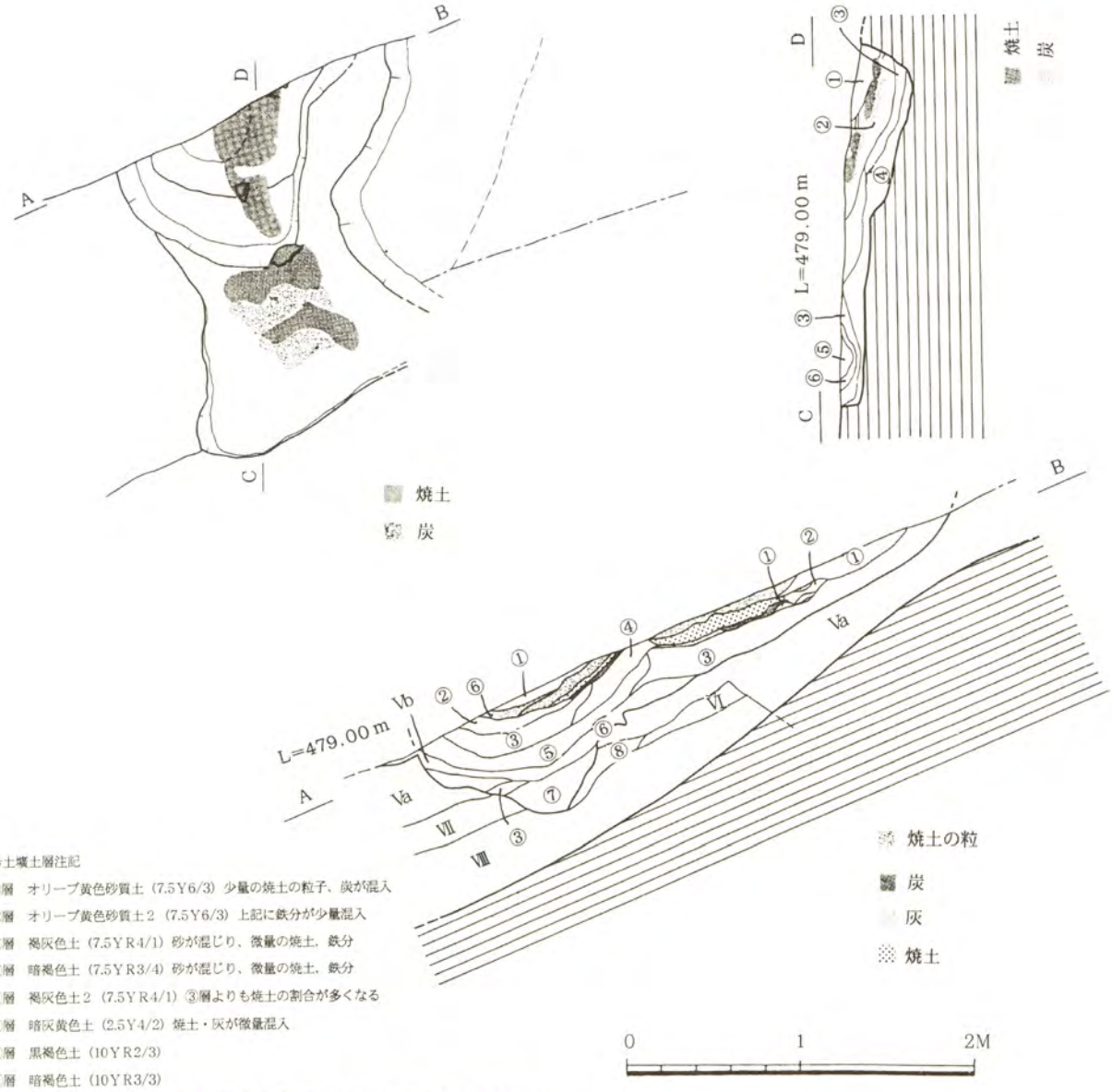
23号土壙は不明焼土遺構内中央部22号土壙の東側に位置し、長軸約130㎝，短軸約90㎝歪方形を呈し、西側



第25図　不明焼土遺構全体図



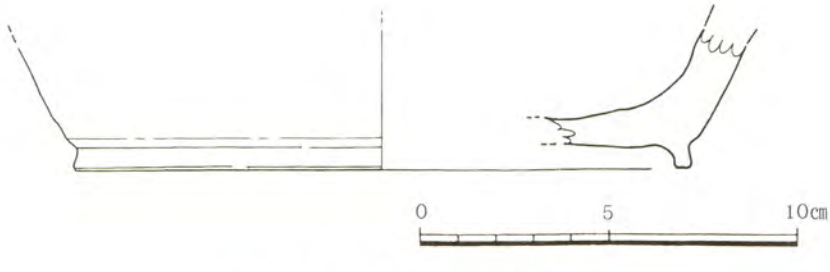
第26図　22・23・25・26号土壙実測図



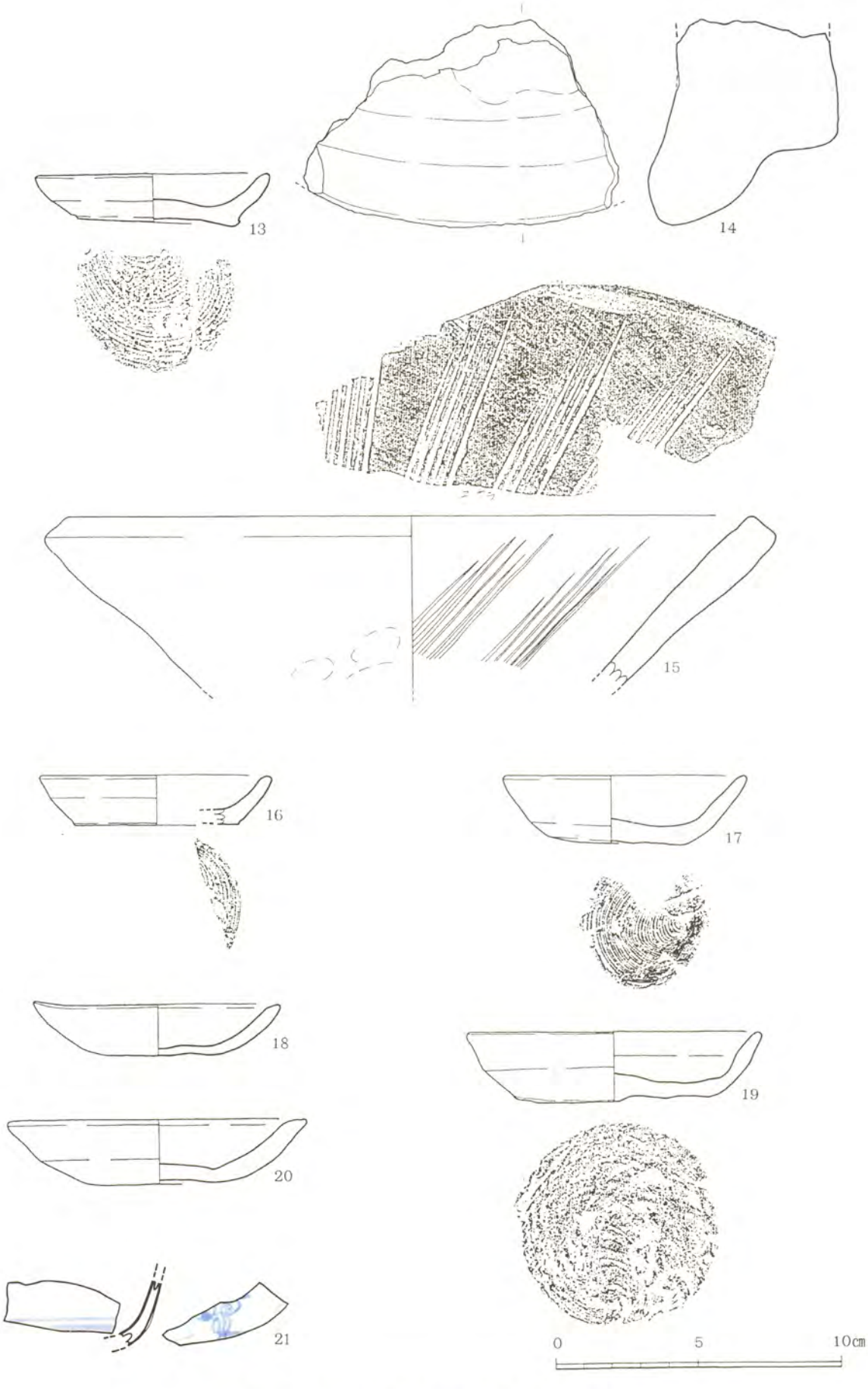
24号土壙土層注記

①層　オリーブ黄色砂質土（7.5Y6/3）少量の焼土の粒子、炭が混入
②層　オリーブ黄色砂質土2（7.5Y6/3）上記に鉄分が少量混入
③層　褐灰色土（7.5YR4/1）砂が混じり、微量の焼土、鉄分
④層　暗褐色土（7.5YR3/4）砂が混じり、微量の焼土、鉄分
⑤層　褐灰色土2（7.5YR4/1）③層よりも焼土の割合が多くなる
⑥層　暗灰黄色土（2.5Y4/2）焼土・灰が微量混入
⑦層　黒褐色土（10YR2/3）
⑧層　暗褐色土（10YR3/3）
⑤層以降、下層になるにつれ鉄分が多くなる。全体的に砂質で、①・②層は砂の割合が多い

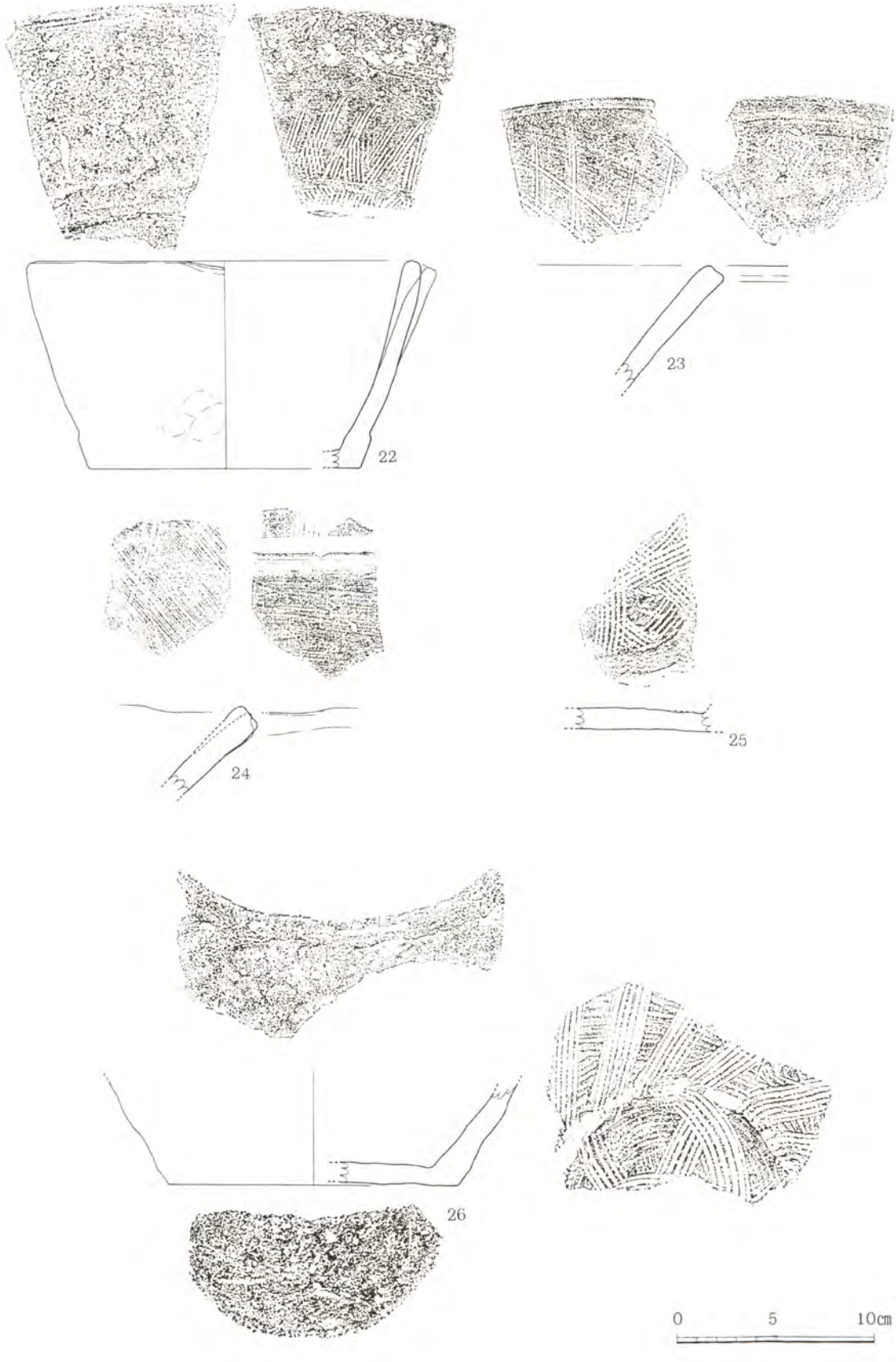
第27図　24号土壙平断面実測図



第28図　23号土壙内出土遺物実測図



第29図　不明焼土遺構内出土遺物実測図（1）



第30図　不明焼土遺構内出土遺物実測図（2）

に柱穴状の掘り込みがある。深さ約65cmを測る。埋土は焼土及びカーボン，少量の灰を含むⅤ層ベースの砂質土である。埋土内より遺物が出土した（第28図）。

24号土壙（第27図）

24号土壙は表土剥ぎ時から検出していたもので、旧調査区と拡張区の堺になる。断面で確認したので一部を表土剥ぎ時の掘削により破壊してしまった。不明焼土遺構内東端部に位置し、平面形は上縁長軸約210cm，短軸約120cmの歪長円形を呈する。底面は長軸Ｄ側に２段、Ｃ側に１段の段を持ち、最底部は50×40cmの長円形状を呈する。上縁部からの深さは約67cmである。埋土上層には多量の焼土が体積している。その焼土中より瓦質土器が出土し、土壙埋土中層より石製品が出土した（第29図～第30図）。

25号土壙（第26図）

25号土壙は不明焼土遺構内の西側に位置し、内部に４基の柱穴状掘り込みを持つ。歪楕円形を呈し長軸約240cm，短軸約130cm，深さ約10cmを測る（柱穴状掘り込み約30～50cm）。埋土は焼土及びカーボン，少量の灰を含むⅤ層ベースの砂質土である。遺物の出土はなかった。

26号土壙（第26図）

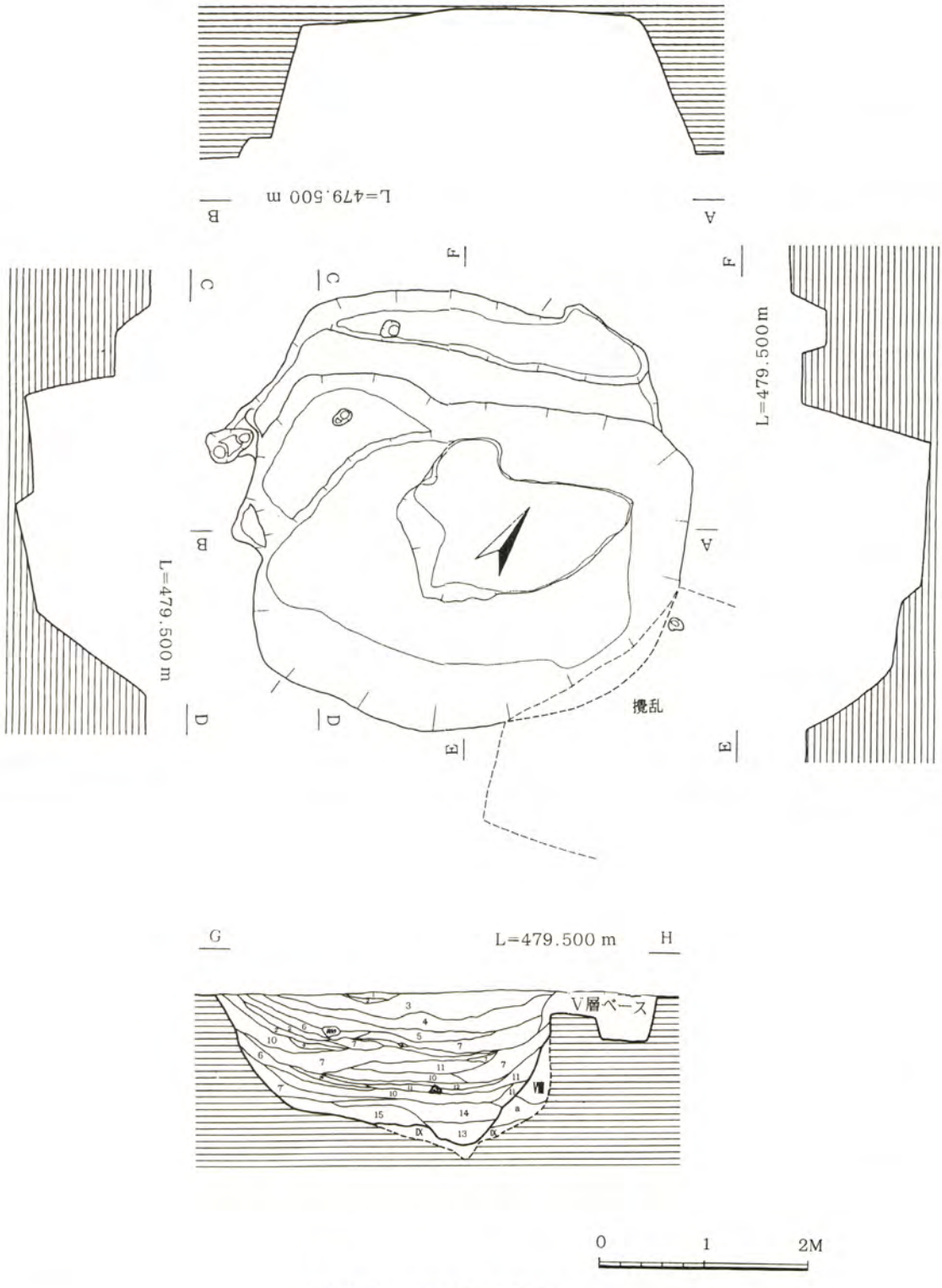
26号土壙は不明焼土遺構内北側に位置し、北側が調査区外へ延び、西半を若干攪乱されていた。歪細長円形を呈し、テラスを数段持つ段掘りになっており、検出北隅に柱穴状掘り込みがある（約35×20cm）。土壙の検出長軸約200cm，短軸約120cm，深さ10～100cmを測る。埋土は焼土及びカーボン，少量の灰を含むⅤ層ベースの砂質土である。遺物の出土はなかった。

27・28号土壙

27・28号土壙は不明焼土遺構内北側端部に位置し、互いに調査区外へと延びており部分的な検出となった。（不明焼土遺構全体図　第25図参照）

不明土壙（第31図）

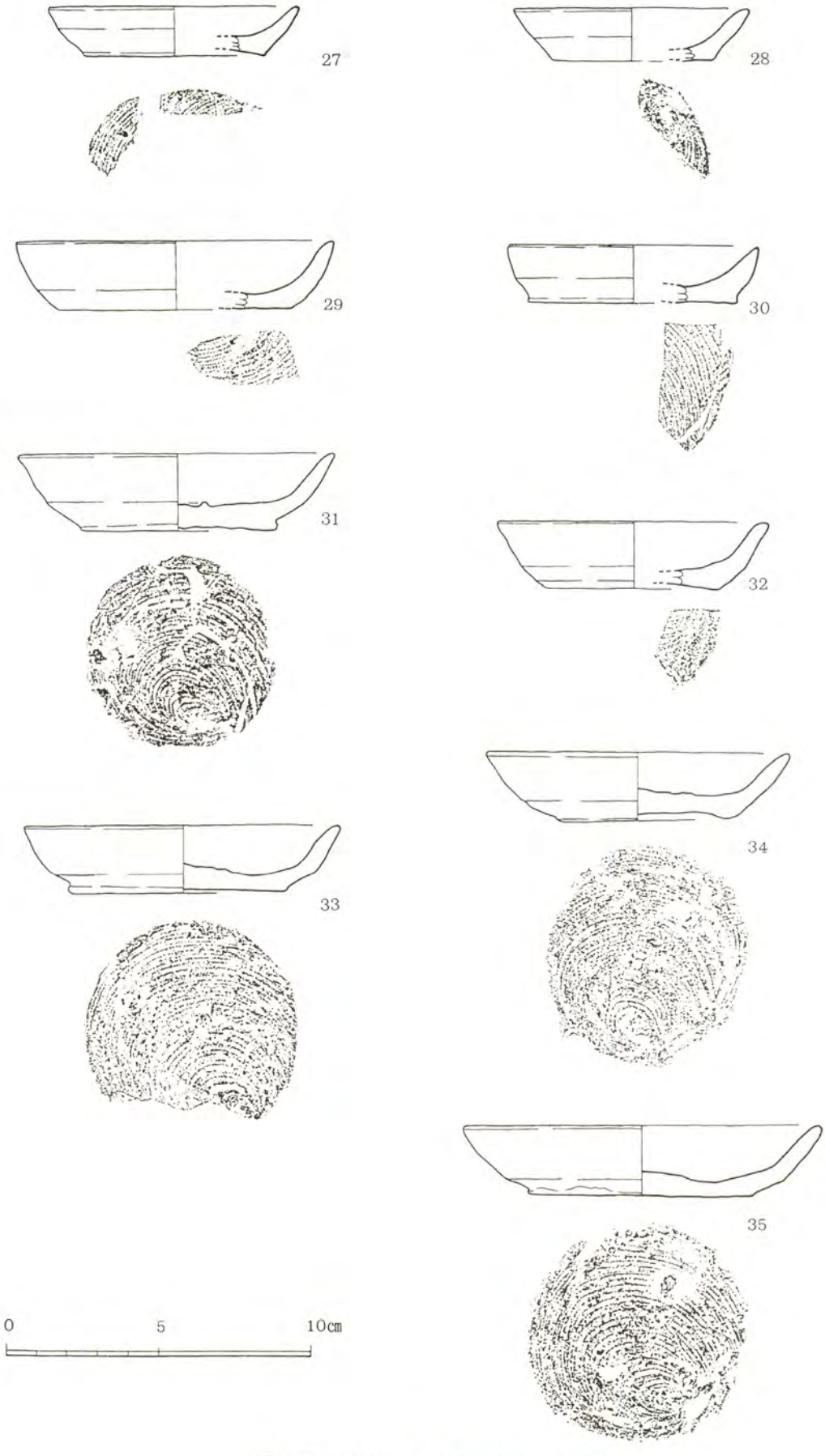
南東側を一部攪乱されているが、平面形は略楕円形を呈すると思われる。北側に細長い溝状の掘り込み（深さ約20～40cm程）があるが、別遺構と考えられる。よって土壙本体は上縁長軸約435cm，短軸約310cmの歪長円形の平面形を呈すると思われる。底面は南側に段を持ち中央部から東側にかけて少し落ち込んで２段となっている。底面１段目長軸約315cm，短軸約212cm，上縁部からの深さ約85cm，最底面長軸約225cm，短軸約105cmである。平面形は米粒形を呈し、断面はゆるく立ち上がり上縁につながる。土壙西側のテラス部及び東側攪乱底面に２基の小穴があるが（Ｐ１　径20×12cm，深さ約22cm），（Ｐ２　径16×12cm，深さ約16cm）、土壙に伴うかは不明である。溝状部分にＰ３（径20×16cm，深さ約60cm），土壙西側底面には２つの底面を持つＰ４（径45×30cm，深さそれぞれ約70cm）があるが、これも伴うかどうかは不明である。出土遺物は土壙本体上層から中層にかけて、土師器の坏が幾点も出土し、下層から美濃焼の皿が出土した（第32図～第34図）。埋土に関しては、中層以降かなり鉄分が多く含まれていた。



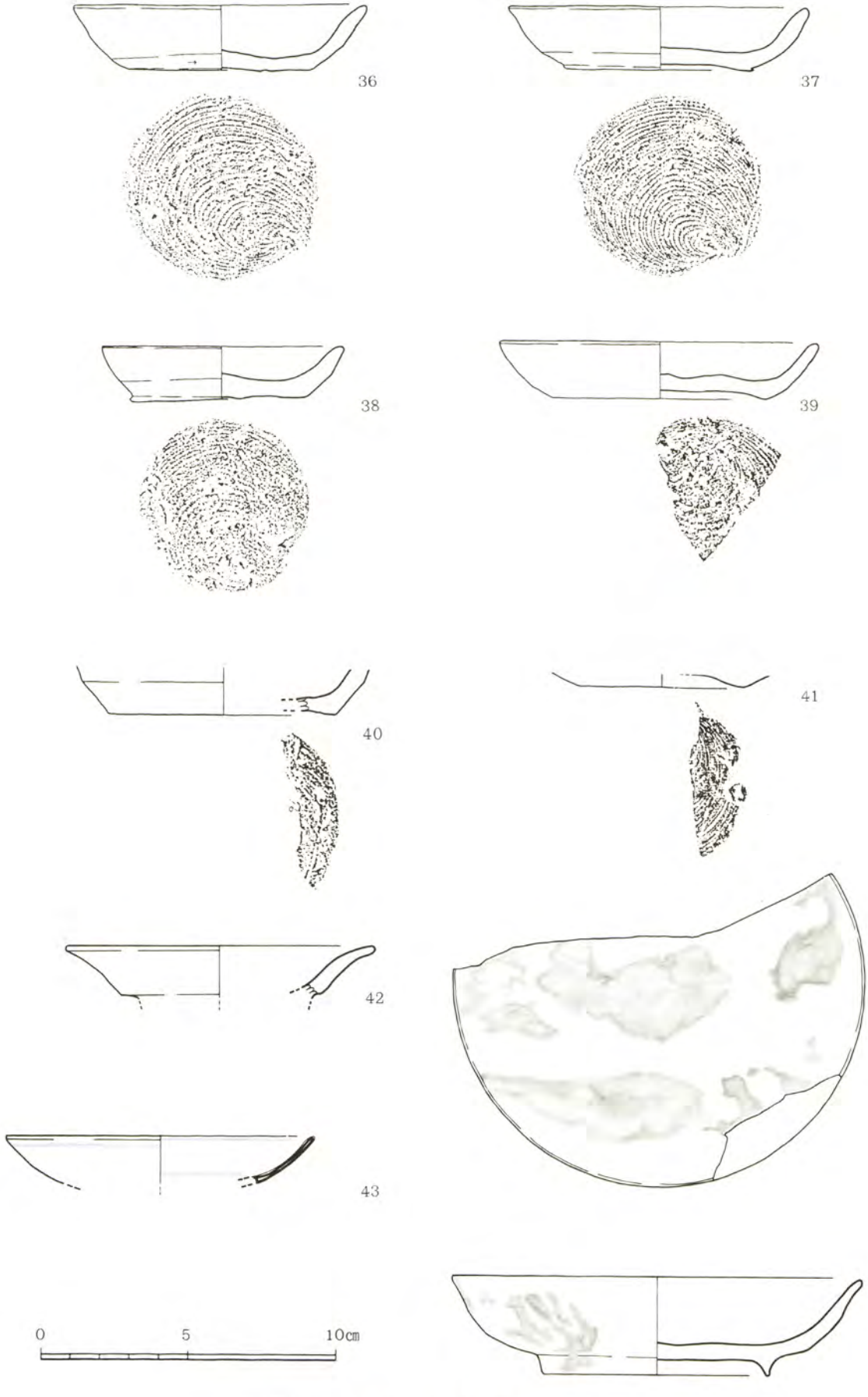
第31図　不明土壙実測図

不明土壙埋土注記

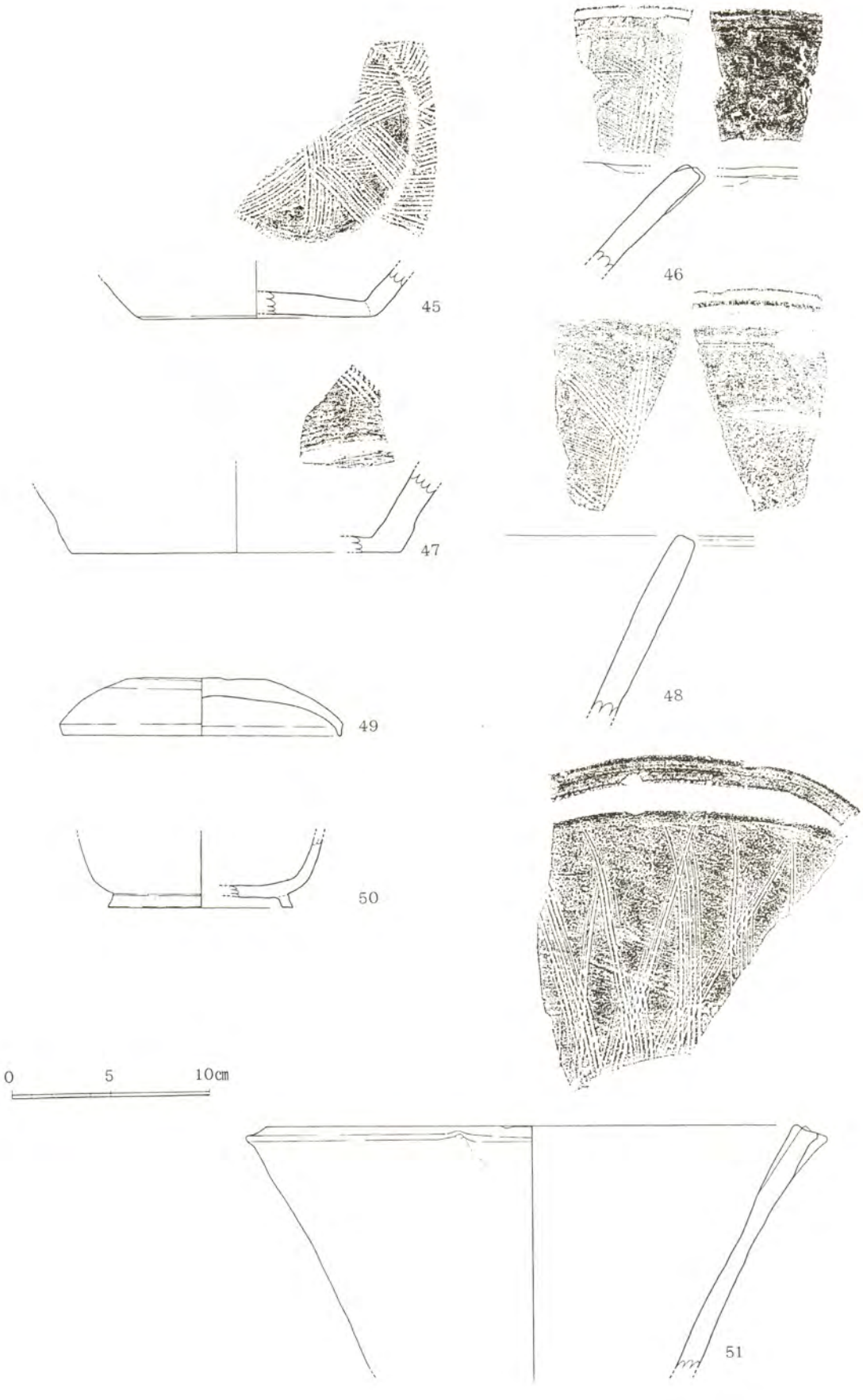
① 灰オリーブ砂質土1（7.5Y5/2）焼土の粒，炭を少量含む
② 灰オリーブ砂質土2（7.5Y5/2）①に鉄分を含む
②′ 灰オリーブ砂質土2（7.5Y5/2）②の鉄分が多くなる
③ 灰オリーブ砂質土3（7.5Y5/3）黄砂の粒を含む
④ 灰オリーブ砂質土1（7.5Y5/2）①の混入物なし
⑤ 灰オリーブ砂質土4（7.5Y4/2）黒色粘土のブロック（1㎝大）及び鉄分を含む
⑥ 灰オリーブ弱粘質土（7.5Y4/2）黒色粘土のブロックが増え、砂混じり、⑥以降粘性有
⑦ 灰色弱粘質土（7.5Y5/1）黄砂（2㎝大）ブロック、焼土の粒を含む
⑦′ 灰色粘質土（7.5Y5/1）⑦が粘性が強くなる
⑧ 暗灰色弱粘質土（N3）黄砂（2㎝大）ブロック、焼土の粒を含む
⑨ オリーブ灰砂質土（5GY5/1）鉄分を微量に含む
⑩ 灰色粘質土（N5）灰・鉄分を斑に含む（粘性強）
⑪ 灰色粘質土2（7.5Y6/1）鉄分を多く含む
⑪′ 灰色粘質土3（7.5Y6/1）⑪に砂を含む
⑫ 灰白色粘土（7.5Y7/2）強粘性
⑬ 暗灰黄色粘質土（2.5Y4/2）黒褐色ブロック、鉄分ブロックを含む（粘性強）
⑭ 黒褐色粘質土（2.5Y3/1）鉄分を斑に含む
⑮ 灰黄色粘質土（2.5Y4/1）鉄分，黄砂を斑に含む（粘性強）
⑯ 灰黄色粘質土（2.5Y5/1）弱粘質、砂混、鉄分微量



第32図　不明土壙内出土遺物実測図（1）



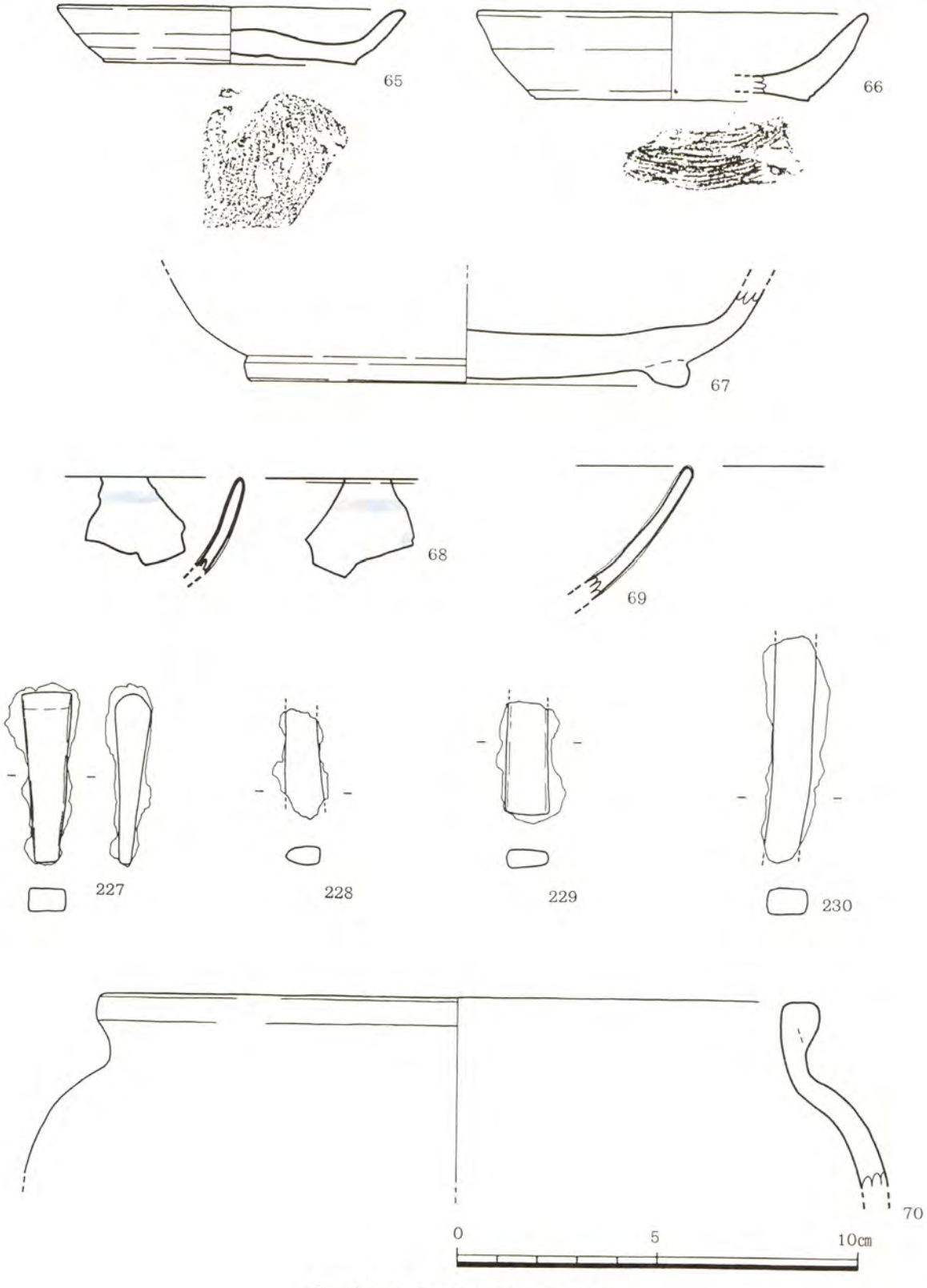
第33図　不明土壙内出土遺物実測図（2）



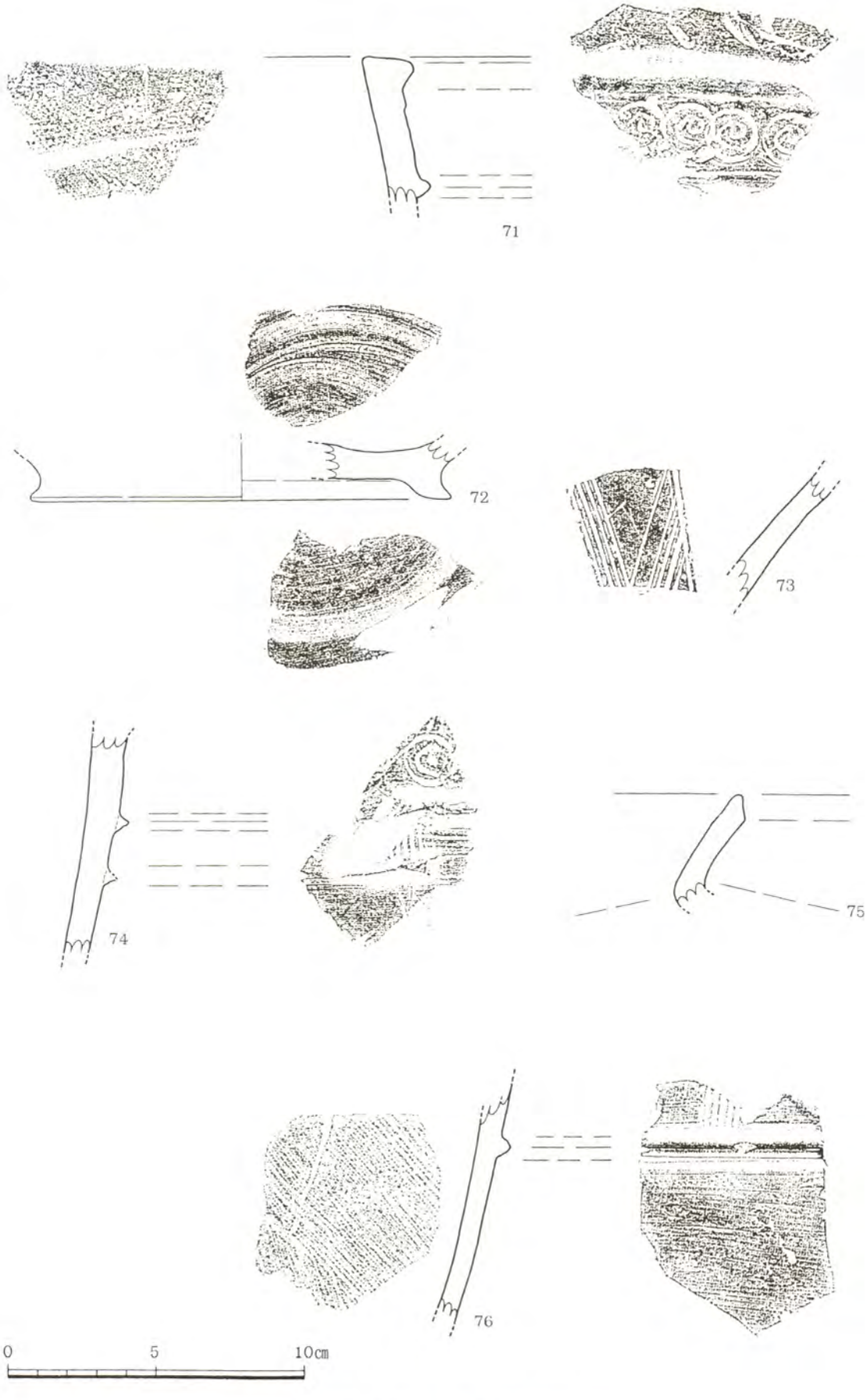
第34図　不明土壙内出土遺物実測図（3）

5．Ⅴ層出土の遺物（第35図～第36図）

遺構検出面であるⅤ層（灰オリーブ色砂質土）から土師器，須恵器，瓦質土器，鉄製品等の遺物が出土している。Ⅴ層面は乾燥すると遺構も崩壊していく程砂質であり、遺物が動いている可能性が高く、全て一括で取り上げた。



第35図　Ⅴ層出土遺物実測図（1）



第36図　V層出土遺物実測図（2）

第2表　　Ⅴ層面出土遺物観察一覧表（1）

No.	種類	器種	出土位置	層	色調(外面)	色調(内面)	焼成	調整（外）	調整（内）	胎土	備考
1	瓦質土器	擂り鉢	整地面(上層)	Ⅳ層	黒(5Y2/1)	にぶい黄色(2.5Y6/3) ～ 黄灰色(2.5Y4/1)	普通	口縁部回転ナデ, 他ケズリ後荒いナデ	ナデ	0.5~1㎜の砂粒を含み, 7㎜程の小石を含む。	残存状況 破片, 残存器高4.2㎝
2	須恵器	坏	整地面(上層)	Ⅳ層	黄灰色(2.5Y5/1)	黄灰色(2.5Y4/1)	普通	内外面共,回転ナデ		0.5㎜程の砂粒を 少量含む。	小破片,傾き不確実, ロクロ回転方向不明
3	染付	坏	整地面(上層)	Ⅳ層	胎土:アイボリーホワイト(5Y9.0/1.0) 釉　:パールホワイト(N8.5) 染付:ストレートグリーン(3G4.0/2.0)			両面施釉			残存状況1/2, 残存器高1.45㎝, 復元高台径2.2㎝
4	陶器	不明	整地面(中層)	Ⅳ層	胎土:アイボリーホワイト(5Y9.0/1.0) 釉　:リーリーホワイト(3G9.0/1.0) 染付:紺色(6PB2.0/5.0)		良	両面施釉		精砂粒	残存状況1/8, 残存器高11.9㎝, 復元高台径4.9㎝
5	土師器	坏	整地面(中層)	Ⅳ層	にぶい黄橙色 (10Y6/3)	にぶい黄橙色 (10Y5/4)	普通	ナデ,口縁部付近回転ナデ	ナデ,口縁部付近回転ナデ, 口縁部先端に煤付着	1~2㎜の砂粒, 赤褐色砂粒含む。	
6	土師器	坏	整地面(下層)	Ⅳ層	内外面共,橙色(5YR7/6)		普通	口縁部付近ナデ,以下回転ナデ, 後部分的にナデ, 底部糸切り後部分的にナデ	回転ナデ, 底面部分的回転ナデ後 ナデ	1㎜程の砂粒, 赤褐色砂粒,雲母粒を 含む。	ロクロ回転右方向, 破片
7	瓦質土器	火鉢(火舎)	整地面(下面)	Ⅳ層	内外面共,灰色(N4)		良	口縁部付近ヨコナデ, 印花文部ナデ,両突帯部ナデ, 下部ヘラナデ	上部ハケメ後ヨコナデ, 下部ナデ後ハケメ	1~3㎜の砂粒,及び 雲母カクセン石を含む。	破片
8	瓦質土器	擂り鉢	整地面(下層)	Ⅳ層	暗灰黄色(2.5Y5/2)	にぶい黄色(2.5Y6/3)	普通	口縁部付近両面回転ナデ, 他はナデ	ナデ後,櫛描文	1~2㎜の砂粒,雲母, 赤褐色砂粒を含む。	残存器高12.9㎝, 傾き不確実
9	瓦質土器	擂り鉢	整地面(下層)	Ⅳ層	内外面共,灰オリーブ(7.5Y6/2)~ 黒(7.5Y2/1)		普通	口縁部付近両面ヨコナデ, 他は底面までナデ	ナデ,7本1組の擂り目, 4組残存,推定全8組	2~3㎜の砂粒を含む。	残存状況1/3, 復元底径14.0㎝, 器高15.4㎝
10	土師器	坏	1号溝跡	埋土 一括	淡橙色(5YR8/4)	淡橙色(5YR8/4)~ 浅黄橙色(7.5YR8/3)	普通	口縁先端部に煤付着, 回転ナデ,ロクロ右回転糸切り, 底部付近回転ナデ後部分的にナデ	回転ナデ, 底面は回転ナデ後ナデ	1~2㎜の砂粒, 赤褐色砂粒を含む。	1/2残存,復元口径10.3㎝, 復元底径6.3㎝, 器高1.95㎝
11	不明	不明	1号掘立柱 建物跡柱穴	埋土 一括	内外面共,にぶい黄橙色(10YR6/1)		普通	口縁付近回転ナデ, 器面剥離	回転ナデ	0.5~1㎜の砂粒, 赤褐色砂粒を含む。	口縁~体部1/4残存, 復元器径12.0㎝, 残存器高2.6㎝
12	須恵器	蓋	2号掘立柱 建物跡柱穴	埋土 一括	灰色(7.5Y6/1)~ (7/5Y5/1)	灰色(7.5Y6/1)	普通	回転ヘラケズリ後回転ナデ, 口縁部付近回転ナデ, ロクロ回転右方向	ナデ	0.5~1㎜の砂粒を含む。	1/8残存, 残存器高1.55㎜
13	土師器	坏	不明焼土遺構		にぶい橙色 (7.5YR7/3) ~明褐灰色 (7.5YR7/2)	灰褐色(7.5YR6/2)	普通	回転ナデ,底部糸切り, 工具痕有 口縁先端部に煤付着	回転ナデ	1~2㎜の砂粒及び カクセン石を含む。	底部3/4,体部以上は1/3 残存,復元口径8.3㎝, 底部4.9㎝ 器高2.45㎝
14	石製品	石臼	不明焼土遺構								小破片
15	瓦質土器	擂り鉢	不明焼土遺構 焼土塊上面		内外面共,黒(5Y2/1)		普通	口縁部回転ナデ, 体部はナデ, 指頭圧痕有	ナデ, 擂り目	1㎜程の砂粒を含む。 カクセン石も含む。	口縁部~体部上半 1/6残存, 復元口径24.1㎝, 残存器高6.0㎝
16	土師器	坏	不明焼土遺構	上層 一括	内外面共,にぶい橙色(5YR6/4)		良	体部から口縁部は回転ナデ, 底部付近回転ナデ後部分的に ナデ,ロクロ回転方向不明, 底部糸切り	回転ナデ	1㎜程の砂粒, 赤褐色砂粒を含む。	底部一部 体部から口縁部 1/4残存,復元口径8.2㎝, 復元底径5.8㎝, 器高1.7㎝
17	土師器	坏	不明焼土遺構	上層 一括	にぶい橙色 (7.5YR7/3) ~明褐灰色 (7.5YR7/2)	灰褐色(7.5YR6/2)	普通	回転ナデ,口縁端部煤付着, 底部糸切り,ロクロ右回転, 底部工具痕有	ナデ, 口縁部付近回転ナデ, 口縁部先端に煤付着	1~2㎜の砂粒及び カクセン石を含む。	底部3/4,体部以上は1/3 残存,復元口径8.3㎝, 底径4.9㎝, 器高2.45㎝
18	土師器	坏	不明焼土遺構	上層 一括	内外面共にぶい橙色(5YR6/4)		普通	口縁部回転ナデ煤付着, 体部から底部にかけてナデ, 底部ハケメ状の工具痕有	回転ナデ後ナデ	1~2㎜の砂粒及び 赤褐色砂粒を含む。	完形,口径8.5㎝, 底形4.45㎝, 器高1.9㎝
19	土師器	坏	不明焼土遺構	上層 一括	浅黄橙色 (10YR8/4)	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	普通	口縁部から体部中央まで回転ナデ, 付着物有,底部にかけ回転ナデ後 ナデ工具痕有,底部糸切り後部 分的にナデ,板状圧痕有,煤付着	回転ナデ, 底部中央ナデ	1~2㎜の砂粒, 赤褐色砂粒を含む。	完形,口径10.2~10.6㎝, 底径6.1~6.6㎝,器高2.5㎝, 高縁部やや歪む, 底部調整未処理部分有
20	土師器	坏	不明焼土遺構	上層 一括	にぶい黄橙色 (10YR6/4)	橙色(7.5YR6/6)	普通	ナデ後回転ナデ, 紅斑有	ナ後回転ナデ	1~3㎜の砂粒, 赤褐色砂粒を含む。	完形,口径10.35㎝, 底径3.8㎝,器高2.25㎝ 口縁がやや歪む。
21	染付	不明	不明焼土遺構	上層 一括	胎土:スノウホワイト(N9.5) 釉　:灰汁色(5Y5.0/1.0) 染付:濃藍(3PB2.0/5.0)		普通	口縁付近回転ナデ, 器面剥離	回転ナデ	0.5~1㎜の砂粒, 赤褐色砂粒を含む。	口縁~体部1/4残存, 復元器径12.0㎝, 残存器高2.6㎝
22	瓦質土器	擂り鉢	不明焼土遺構	上層 一括	黄灰色(2.5Y5/1)	灰色(5Y5/1)	普通	口縁部回転ナデ,片口部分一 部ナデ,体部ナデ,体部指頭圧 痕跡有,底部付近回転ナデ, 底部ナデ	口縁付近ナデ,体部から 底部にかけ回転ナデ, ナデ,擂目	0.5~1㎜の砂粒を含む。	1/6残存, 復元口径18.8㎝, 復元底径13.4㎝, 器高10.4㎝
23	瓦質土器	擂り鉢	不明焼土遺構	上層 一括	黒(5YR2/1)	にぶい黄色(2.5Y6/3) ~黄灰色(2.5Y4/1)	普通	回転ナデ,体部ケズリ後粗い ナデ	ナデ,擂目	0.5~1㎜の砂粒を含む。 7㎜程小石を含む。	残存状況 破片, 残存器高6.1㎝

第3表　　Ⅴ層面出土遺物観察一覧表（2）

No.	種類	器種	出土位置	層	色調(外面)	色調(内面)	焼成	調整（外）	調整（内）	胎土	備考
24	瓦質土器	擂り鉢	不明焼土遺構	一括	灰黄褐色 (10YR6/2)	灰黄褐色(10YR4/2)	普通	口縁端部ナデ,体部摩耗のため調整不明	摩耗及び剥離のため調整不明	0.5~1㎜程の砂粒を含む.	残存状況,小破片
25	瓦質土器	擂り鉢	不明焼土遺構	一括	灰色(7.5Y6/1)	灰色(N4/0)	良	ナデ	ナデ,擂り目	1㎜程の砂粒を含む.	残存状況,小破片
26	瓦質土器	擂り鉢	不明焼土遺構	一括	内外面共,黄灰色(2.5Y6/1)		良	ナデ,底部付近ヘラケズリ,底部ナデ	ナデ,体部黒色の付着物有,擂り目	1~7㎜程の砂粒を多く含む.	1/3残存,復元底径14.6㎝,残存器高5.2㎝
27	土師器	杯	不明土壙	上層一括	内外面共,にぶい橙色(5YR7/4)		良	回転ナデ,底部付近ナデ底部糸切り,ロクロ回転不明	体部中央までナデ,以降底面まで回転ナデ後ナデ	1㎜程の砂粒及び赤褐色砂粒含む.	底部一部,体部1/3残存,復元口径8.2㎝,復元口径5.8㎝,器高1.6㎝
28	土師器	杯	不明土壙	上層一括	にぶい褐色 (7.5YR5/3)~灰褐色(7.5YR8/3)	灰褐色(7.5YR4/2)	普通	回転ナデ,底部ロクロ右回転糸切り	口縁部から体部回転ナデ,底部ナデ	0.5~1㎜の砂粒及び赤褐色砂粒を含む.	1/3残存,復元口径7.7㎝,復元底径5.2㎝,器高1.7㎝
29	土師器	杯	不明土壙	上層一括	内外面共,にぶい黄橙色(10YR6/4)		普通	口縁部から体部は回転ナデ,底部付近ナデ,底部糸切り,ロクロ回転方向不明	回転ナデ	1~2㎜の砂粒,カクセン石,雲母を含む.	1/4残存,復元口径10.4㎝,復元底径7.6㎝,器高2.2㎝
30	土師器	杯	不明土壙	上層一括	灰白色(7.5YR8/1)	明褐灰色(7.5YR4/2)	普通	回転ナデ,底部糸切り,残存部が少ないためロクロ回転方向不明	回転ナデ	0.5㎜程の砂粒を含む.	1/4残存,復元口径8.2㎝,底径6.9㎝,器高1.85㎝
31	土師器	杯	不明土壙	上層一括	内外面共,橙色(5YR7/6)		普通	回転ナデ,口縁部付近煤付着,底部付近工具痕有,底部粘土出張り有,ロクロ回転糸切り	回転ナデ工具痕有底部に工具でクボミをつけている.	1~2㎜の砂粒及び赤褐色砂粒を含む.	底部4/5,体部1/8,口縁一部,復元口径10.3㎝,復元底径6.45㎝,器高2.5㎝
32	土師器	杯	不明土壙	上層一括	内外面共,にぶい橙色(5YR6/4)		良	口縁部から体部にかけて回転ナデ,体部中央から底部にかけて回転ナデ後ナデ,ロクロ右回転,糸切り後部分的にナデ	回転ナデ	1~2㎜の砂粒を含む及び赤褐色砂粒を含む.	底部1/5,体部以上は一部残存,復元口径8.9㎝,復元底径5.3㎝,器高2.2㎝
33	土師器	杯	不明土壙	上層一括	にぶい橙色 (7.5YR7/4)~橙色(7.5YR7/6)		普通	回転ナデ,口縁先端付近煤付着,ロクロ右回転糸切り	回転ナデ,底部に工具によって段をつけている	1~2㎜の砂粒を含む及び赤褐色砂粒を含む.	1/2残存,復元口径10.3㎝,底径7.0㎝,器高2.3㎝
34	土師器	杯	不明土壙	上層一括	内外面共,にぶい橙色(7.5YR6/4)		普通	底部まで回転ナデ,体部下部回転ナデ後ナデ,ロクロ右回転糸切り後部分的にナデ,底部付近黒斑	回転ナデ,底部中央ナデ	1㎜程の砂粒及び赤褐色砂粒を含む.	1/2残存,復元口径10.0㎝底径6.15㎝,器高2.3㎝
35	土師器	杯	不明土壙	埋土一括	灰白色(10YR8/1)	灰白色(10YR8/2)	普通	底部まで回転ナデ,体部下部にナデ,体部に付着物有,ロクロ右回転糸切り	回転ナデ,底部中央ナデ	1~2㎜程の砂粒及び赤褐色砂粒を含む.	体部から口縁部の一部を欠損,口径11.6㎝,底径7.35㎝,器高2.35㎝
36	土師器	杯	不明土壙	中層一括	内外面共,淡橙色(5YR8/4)~にぶい橙色(5YR8/4)		良	口縁部から体部中央まで回転ナデ,体部中央から底部はケズリ後回転ナデ,ロクロ右回転糸切り	回転ナデ	1㎜程の砂粒及び赤褐色砂粒を含む.	完形,口径9.9㎝,底形6.1㎝,器高2.25㎝
37	土師器	杯	不明土壙	中層一括	淡橙色(5YR8/4)	淡橙色(5YR8/4)~浅黄橙色(7.5YR8/6)	良	口縁部から体部下部まで回転ナデ,体部下部から底部はケズリ後回転ナデ,ロクロ右回転糸切り,体部下部に粘土の出張り残る	回転ナデ,底部中央ナデ	1~2㎜程の砂粒及び赤褐色砂粒を含む.	完形,口径10.1㎝,底形6.2㎝,器高2.15㎝
38	土師器	杯	不明土壙	下層一括	内外面共,淡橙色(5YR8/4)		良	回転ナデ,全体に付着物有,ロクロ右回転糸切り	回転ナデ	1㎜程の砂粒及び赤褐色砂粒を含む.	口縁のごく一部を欠損口径8.2㎝,底径5.9㎝器高1.9㎝
39	土師器	杯	不明土壙	下層一括	にぶい黄橙色 (10YR6/3)	にぶい黄橙色 (10YR6/4)	普通	口縁部から体部中央まで回転ナデ,体部中央から底部はナデ,体部下部黒斑,ロクロ右回転糸切り	回転ナデ	1~2㎜程の砂粒及び赤褐色砂粒を含む.	5/1残存,復元口径10.8㎝,復元底径7.2㎝,器高1.9㎝
40	土師器	杯	不明土壙	下層一括	にぶい橙色 (5YR7/4)	淡橙色(5YR8/4)~浅黄橙色(7.5YR8/4)	普通	口縁部から体部中央まで回転ナデ,体部中央から底部はケズリ後回転ナデ,糸切り後部分的にナデ,ロクロ回転方向不明	口縁部から体部中央まで回転ナデ,以下底部までナデ	1~2㎜程の砂粒及び赤褐色砂粒を含む.	底部一部,体部以上1/3残存復元口径10.2㎝,復元底径7.8㎝,器高2.2㎝
41	土師器	杯	不明土壙	下層一括	にぶい橙色 (5YR7/4)	橙色(5YR7/6)	普通	回転ナデ,後部分的にナデ,口縁端部付近に厚く煤付着		1~2㎜程の砂粒及び赤褐色砂粒を含む.	1/5残存,復元口径9.9㎝,復元底径5.7㎝,器高2.05㎝
42	陶器	皿	不明土壙	下層一括	胎土:クリーム色(2Y9.0/2.0) 釉　:ハニースイート(2Y7.5/6.0)		良	施釉:貫入有	施釉:貫入有	精砂粒	底部を欠損,口径10.4㎝,残存器高1.8㎝
43	染付	杯	不明土壙	下層一括	胎土:スノーホワイト(N9.5) 釉　:リリーホワイト(3G9.0/1.0) 染付:藍色(3PB3.5/5.5)		普通	施釉染付			1/6残存,復元口径10.4㎝,残存器高1.6㎝
44	陶器(美濃焼)	皿	不明土壙	埋土一括	胎土:白百合色(8Y9.0/2.0) 釉　:墨色(N1.5),煉瓦色(4YR4.0/6.0) ブルーウォッシュ(3PB8.5/1.0)		良	底部に釜道具の付着物施釉	施釉	精砂粒	2/3残存,口径13.9㎝,高台径7.7㎝,器高3.3㎝

第4表　　Ⅴ層面出土遺物観察一覧表（3）

No.	種類	器種	出土位置	層	色調(外面)	色調(内面)	焼成	調整（外）	調整（内）	胎土	備考
45	瓦質土器	擂り鉢	不明土壙	埋土一括	内外面共,灰色(N5)		良	残存端部ケズリ後ナデ,体部下部ケズリ後ヨコナデ,底部ナデ	ナデ,擂り目	1㎜程の砂粒を含む.	底部1/2残存 復元底径11.4㎝ 残存器高2.5㎝
46	瓦質土器	擂り鉢	不明土壙	一括	内外面共,灰黄色(2.5Y6/2)		普通	口部回転ナデ,体部ナデ	ナデ,擂り目,口縁部黒斑有	0.5㎜程の砂粒を含む.	小破片,残存器高5.4㎝,傾き不確実
47	瓦質土器	擂り鉢	不明土壙	下層一括	灰白色(N7/0)	灰色(5Y6/1)～黄灰色(2.5Y4/1)	普通	ナデ	体部下部擂目,体部最下部から底部回転ナデ,現存底部端部擂り目,摩耗のため調整不明	1~2㎜の砂粒,雲母,カクセン石を含む.	底部則辺部1/10残存,復元底径16.7㎝,残存器高4.3㎝
48	瓦質土器	擂り鉢	不明土壙	上層一括	内外面共,灰色(5Y4/1)		普通	口縁部から体部上部まで回転ナデ,以降破損部までナデ,現存体部中央部に工具痕有	口縁部から体部上部まで回転ナデ,以降破損部までナデ,擂り目	1~2㎜の砂粒を含む.	破損,残存器高9.1㎝,破損のため傾き不確実
49	須恵器	蓋	不明土壙	埋土一括	灰白色(N7/0)	灰色(N6/0)	良	上部から体部中央ヘラ切り後ナデ,後部分的にケズリ,以降口縁端部まで回転ナデ,自然釉付着	回転ナデ	0.2~0.5㎜の砂粒を含む.	口縁の一部を欠損,口径14.1㎝,器高2.9㎝
50	須恵器	坏	不明土壙	上層一括	内外面共,灰色(10Y6/1)		良	回転ナデ,底部中央ナデ	回転ナデ	0.2~0.5㎜の砂粒を含む.	1/3残存,復元口台径9.3㎝ 残存器高3.6㎝,
51	瓦質土器	擂り鉢	不明土壙	上層一括	内外面共,灰色(N4)		良	口縁部から体部上部までヨコナデ,体部から破損部端までナデ	口縁部ヨコナデ,以下ナデ,口縁部から擂り目	2~5㎜の砂粒を含む,カクセン石も含む,	1/4残存,復元口径26.0㎝,残存器高12.35㎝
52	土師器	坏	1号土壙	埋土一括	内外共,浅い黄橙色(7.5YR8/4~8/6)		普通	口縁部から体部下部にかけて回転ナデ,体部下部回転ナデ後ナデ,ロクロ右回転糸切り後部分的にナデ,口縁端部の一部に厚く煤が付着する	回転ナデ,底面中央部ナデ	1~2㎜の砂粒及び1~8㎜の赤褐色砂粒を含む.	1/2残存,口径10.4㎝,底径6.8㎝,器高2.1㎝,全体に雑な作りで器面も凹凸している
53	土師器	坏	1号土壙	埋土一括	にぶい黄橙色(10YR7/4)	にぶい黄橙色(10YR6/3)	普通	口縁部から体部中央まで回転ナデ,体部下部から回転ナデ後ナデ,底部ロクロ右回転糸切り,黒斑有,底部に煤が付着する	回転ナデ,体部中央に煤が付着する	1~2㎜の砂粒及び赤褐色砂粒を含む.	1/3残存,復元口径9.9㎝,復元底径7.8㎝,器高1.9㎝
54	陶器	鉢	1号土壙	埋土一括	胎土:煉瓦色(4YR4.0/6.0) 釉 :ラセットゴールド(2Y4.0/5.5)			口縁部回転ナデ,施釉,口縁部から体部中央までナデ,体部中央から底部がケズリ後ナデ,釉付着	回転ナデ		残存,小破片 残存器高4.15㎝
55	土師器	坏	8号土壙	埋土一括	にぶい橙色(7.5Y7/4)	浅黄橙色(7.5YR8/6)	普通	体部ナデ,底部ヘラ切り後ナデ,	体部回転ナデ,底部回転ナデ後ナデ	05~1㎜の砂粒,赤褐色砂粒,雲母,カクセン石を含む.	2/3残存,復元底径5.8㎝,残存器高2.6㎝
56	瓦質土器	火鉢	9号土壙	埋土一括	黄褐色(2.5Y5/3)	黄灰色(2.5Y4/1)	普通	回転ナデ,突端部から下部煤付着	カキ目	2~4㎜の砂粒砂粒を含む.	残存,小破片存,残存器高4.7㎝,小破片のため傾き不確実
57	磁器(白磁)	碗	15号土壙	埋土一括	胎土:生成色(8YR9.9/1.0) 釉 :アイボリーホワイト(5Y9.0/1.0)			施釉	施釉		小破片,残存器高2.4㎝ 傾き不確実
58	染付	碗	15号土壙	埋土一括	胎土:スノーホワイト(N95) 釉 :リリーホワイト(3G9.0/1.0) 染付:紺色(6PB2.0/5.0)		普通	施釉染付	施釉染付		小破片,残存器高1.8㎝ 貫入有
59	土師器	坏	17号土壙	埋土一括	灰白色(7.5YR8/5)～橙色(5YR7/6)	灰白色(7.5YR8/2)	普通	体部下部まで回転ナデ,底部ロクロ右回転糸切り後ナデ,底部炭化物付着,口縁部付近厚く煤付着	回転ナデ,体部から底部付近炭化物付着,口縁部付近厚く煤付着(内外全面)	1~2㎜の砂粒及びカクセン石,赤褐色砂粒を含む.	口縁~体部の一部を欠損,口径9.3㎝,底径6.7㎝,器高2.9㎝
60	土師器	坏	17号土壙	埋土一括	内外面共,にぶい橙色(7.5YR6/4)		良	回転ナデ,底部回転ヘラ切り後ナデ	口縁部~体部にかけて回転ナデ,底部回転ナデ後ナデ	1~2㎜の砂粒,赤褐色砂粒及び微細な雲母粒を含む.	1/6残存,復元口径12.2㎝,復元底径9.6㎝,器高4.3㎝
61	土師器	脚部	17号土壙	埋土一括	内外面共,にぶい橙色(10YR7/4)		普通	現存体部中央までナデ,脚端部まで回転ナデ	回転ナデ	1㎜程の砂粒を含む.	1/3残存,復元底径8.9㎝,残存器高2.2㎝
62	須恵器	坏	18号土壙	埋土一括	内外面共,灰色(5Y5/1)		良	現存体部下部まで回転ナデ,薄く自然釉付着,底部ヘラ切り後ナデ,ヘラ記号有	現存体部下部まで回転ナデ,薄く自然釉付着,底部回転ナデ後ナデ	0.5~2㎜の砂粒及び黒色のガラス質の粒を含む.	1/2残存,復元口径9.5㎝,残存器高3.25㎝
63	土師器	坏	21号土壙	埋土一括	浅黄橙色(7.5YR8/4)～にぶい橙色(7.5YR7.4)	浅黄橙色(7.5YR8/4)	普通	口縁部から体部下部まで回転ナデ,体部下部ケズリ後回転ナデ,部分的に糸切り痕有,底部ロクロ右回転糸切り	回転ナデ,底部中央ナデ	1~2㎜の砂粒及び赤褐色砂粒,雲母を含む.	1/4残存,復元口径9.3㎝,復元底径6.0㎝,器高2.4㎝
64	須恵器	壺	23号土壙	埋土一括	灰色(10Y5/1)	灰色(7.5Y6/1)	良	現存体部下部までケズリ,底部(脚部を含め)回転ナデ,底部脚部付近自然釉付着	回転ナデ	0.5~1㎜の砂粒を含む.	脚部の一部及び底部1/6残存,復元底径16.2㎝,残存器高3.7㎝
65	土師器	坏	包含層	Ⅴ層一括	内外面共,橙色(5YR7/6)		普通	口縁部から体部中央部まで回転ナデ,体部下部ナデ,工具痕有,底部糸切り後ナデ,ロクロ回転方向不明	口縁部から体部下部まで回転ナデ,底部回転ナデ後ナデ	1~2㎜の砂粒及び赤褐色砂粒を含む.	1/6残存,復元口径8.7㎝,復元底径6.4㎝,器高1.45㎝
66	土師器	坏	H-1-2	Ⅴ層一括	内外面共,にぶい橙色(10YR6/4)		普通	口縁部から体部中央まで回転ナデ,体部中央から下部まで回転ナデ後ナデ,粘土の出張りが残る,底部糸切り後ナデ,ロクロ回転方向不明	口縁部から体部中央まで回転ナデ,体部中央から底部回転ナデ後ナデ	1~2㎜程の砂粒及び赤褐色砂粒を含む.	1/5残存,復元口径9.7㎝,復元底径6.8㎝,器高2.2㎝

第5表　　Ⅴ層面出土遺物観察一覧表（4）

No.	種類	器種	出土位置	層	色調(外面)	色調(内面)	焼成	調整（外）	調整（内）	胎土	備考
67	須恵器	碗	H·1-2	Ⅴ層一括	にぶい褐色(5YR5/3)	灰赤色(10R4/2)~にぶい褐色(5YR5/3)	良	残存体部から底部中央付近まで回転ナデ底部はヘラ切り後ナデ	残存体部下部まで回転ナデ,底部回転ナデ後ナデ	0.2~1㎜程の砂粒及び赤褐色砂粒を含む.	底部1/3残存,復元底径10.7㎝,残存器高2.5㎝
68	染付	不明		Ⅴ層一括	胎土及び釉:オイスター(5Y7.5/1.0) 染付:藍色(3PB3.5/5.5)			施釉染付	施釉染付		小破片,残存器高2.4㎝,傾き不確実,貫入有,染付は薄い
69	磁器	碗	E-3	Ⅴ層一括	胎土:ねずみ色(N5.5) 釉　:灰汁色(5Y5.0/1.0)			施釉	施釉		小破片,残存器高3.4㎝,傾き不確実
70	土師器	不明	EF-2	Ⅴ層一括	にぶい橙色(7.5YR6/4)	にぶい黄橙色(10YR6/3)	普通	口縁部からくびれ部までヨコナデ,他摩耗のため不明,体部上部に黒斑有	ヨコナデ	1~2㎜程の砂粒及び赤褐色砂粒を含む.	1/6残存,復元口径17.8㎝,残存底器高4.65㎝
71	瓦質土器	火鉢	H·1-2	Ⅴ層一括	内外面共,黒褐色(2.5Y3/1)		普通	口縁部上部摩耗のため調整不明,他回転ナデ,渦巻き状のスタンプ	ナデ	1~3㎜程の砂粒及び赤褐色砂粒を含む.	小破片,残存器高5.0㎝,傾き不確実
72	須恵器	壺	H·1-2	Ⅴ層一括	内外面共,黄灰色(2.5Y5/1)		良	回転ナデ,脚部端部に自然釉付着	回転ナデ	0.5㎜程の砂粒を少量含む.	1/5残存,復元口径14.3㎝,残存器高2.0㎝
73	瓦質土器	擂り鉢		Ⅴ層一括	内外面共,灰色(10Y6/1)		良	ナデ	ナデ,擂り目	0.5~1㎜の砂粒を含む.	破片,口径10.4㎝,残存器高,傾き不確実
74	瓦質土器	火鉢		Ⅴ層一括	内外面共,黒色(2.5Y2/1)		普通	回転ナデ,状部突帯上面渦巻状のスタンプ及び下面櫛描き文有,下部突帯端部欠損	ナデ	0.5~1㎜の砂粒を含む.	小破片,残存器高7.4㎝,傾き不確実
75	須恵器	平瓶(口縁部)		Ⅴ層一括	内外面共,灰色(5Y5/1)		普通	回転ナデ,薄く自然釉付着	回転ナデ,頸部欠損部ナデ	0.5~1㎜の砂粒を含む.	
76	瓦質土器	不明		Ⅴ層一括	内外面共,にぶい黄橙色(10YR7/3)		普通	突帯下部付近まで回転ナデ,突帯上部櫛描き文有,突帯より下部ハケメ後一定方向ナデ	ハケメ後ナデ	0.5~1㎜の砂粒を含む.	小破片,残存器高8.2㎝,傾き不確実

第6表　　出土遺物観察一覧表（鉄器1）

No.	種類	出土位置	層	法量	特徴	備考
208	刀子	整地面（上層）	Ⅳ層一括	長さ 4.50cm 幅 1.30cm 厚み 0.35cm		両端部欠損
209	不明	整地面	Ⅳ層一括	長さ 3.60cm 幅 0.70cm 厚み 0.20cm		先端部欠損
210	釘	整地面（上層）	Ⅳ層一括	長さ 2.35cm 幅 1.10cm 厚み 0.35cm	断面角形	両端部欠損
211	不明	整地面（上層）	Ⅳ層一括	長さ 8.50cm 幅 0.50cm 厚み 0.50cm		先端部欠損
212	釘	整地面（上層）	Ⅳ層一括	長さ 4.75cm 幅 0.55cm 厚み 0.30cm		
213	釘	整地面（上層）	Ⅳ層一括	長さ 7.00cm 幅 1.50cm 厚み 0.40cm		
214	釘	整地面（上層）	Ⅳ層一括	長さ 5.00cm 幅 0.60cm 厚み 0.50cm	断面角形	完形
215	釘	整地面（中層）	Ⅳ層一括	長さ 8.50cm 幅 0.50cm 厚み 0.50cm	断面角形	完形
216	釘	整地面（中層）	Ⅳ層一括	長さ 4.35cm 幅 0.65cm 厚み 0.60cm	断面角形	
226	刀子	16号土壙（Ⅴ層面）	埋土一括	長さ 3.40cm 幅 1.30cm 厚み 0.20cm		両端部欠損
227	釘		Ⅴ層一括	長さ 4.30cm 幅 1.30cm 厚み 0.90cm		先端部欠損
228	釘		Ⅴ層一括	長さ 2.80cm 幅 1.00cm 厚み 0.50cm		両端部欠損

No.	種類	出土位置	層	法量	特徴	備考
217	釘	整地面（中層）	Ⅳ層一括	長さ 4.45cm 幅 0.60cm 厚み 1.30cm	断面角形	完形
218	釘	整地面（下層）	Ⅳ層一括	長さ 8.50cm 幅 0.50cm 厚み 0.50cm		先端部欠損
219	青銅器	整地面（下層）	Ⅳ層一括	長さ 3.90cm 幅 1.10cm 厚み 0.50cm	穴部径0.70cm	一部欠損、ほぼ完形
220	馬具	15号土壙（Ⅴ層面）	埋土一括	長さ 6.90cm 幅 3.15cm 厚み 0.50cm	9の字を呈する	完形
221	釘	15号土壙（Ⅴ層面）	埋土一括	長さ 8.50cm 幅 0.50cm 厚み 0.50cm	断面角形	完形
222	釘	15号土壙（Ⅴ層面）	埋土一括	長さ 4.35cm 幅 1.85cm 厚み 0.90cm	断面角形	先端部欠損
223	釘	15号土壙（Ⅴ層面）	埋土一括	長さ 5.10cm 幅 1.10cm 厚み 0.50cm	断面角形	先端部欠損
224	釘	15号土壙（Ⅴ層面）	埋土一括	長さ 2.75cm 幅 1.90cm 厚み 0.50cm	断面角形	完形
225	不明鉄滓	16号土壙（Ⅴ層面）	埋土一括	長さ 3.00cm 幅 2.20cm 厚み 2.40cm		
229	不明		Ⅴ層一括	長さ 2.80cm 幅 1.10cm 厚み 0.40cm		両端部欠損
230	不明		Ⅴ層一括	長さ 5.70cm 幅 1.00cm 厚み 0.70cm		

第３節　奈良・平安時代の遺構・遺物

１．竪穴住居跡

１号竪穴住居跡（第37図）

１号竪穴住居跡は、調査区の中央部からやや東寄りに位置し、４号竪穴住居跡に切られる。４号竪穴住居跡の南側壁にコーナーの痕跡があり、１号竪穴住居跡の平面形は、ほぼ方形を呈すると考えられる（約380×360㎝，深さ約20～25㎝）。住居内に５基の柱穴（Ｐ１～Ｐ５）を確認したが１号竪穴住居跡に伴うものは内２基（Ｐ１径25×20㎝，深さ約12㎝）・（Ｐ２径22×22㎝，深さ約10㎝）で、西側の柱列は４号竪穴住居跡内に１基確認した（Ｐ６径20×30㎝，深さ約11㎝）。もう１基の柱穴は４号竪穴住居跡の土壙状掘り込み部分により消失したものと考えられる。硬化面は検出できず、Ｘ層・黄褐色粘質土（10ＹＲ6/5）をそのまま床面にしていたと考えられる。北側壁中央部には、竈の底面が残っていた。確認できたのは、灰白色の粘土で作った袖部の片側（壁からすこし浮いた状態）と楕円形の掘り込みのみである。掘り込みは北側中央部に凹状のくぼみを持ち、底面中央部から南側寄り箇所には、円形の掘り込みがある（径約20㎝，深さ約10㎝）両掘り込み内の埋土は、３つに分けることができる。その竈の東側に貯蔵穴と思われる楕円形の掘り込み（径約40×60㎝）がある。埋土は住居跡のものと等しく、遺物は出土しなかった。住居跡の埋土は黒褐色土（Ⅷ層）で分層できなかった。住居床上面から遺物が出土した（第38図）。

4号竪穴住居跡（第37図）

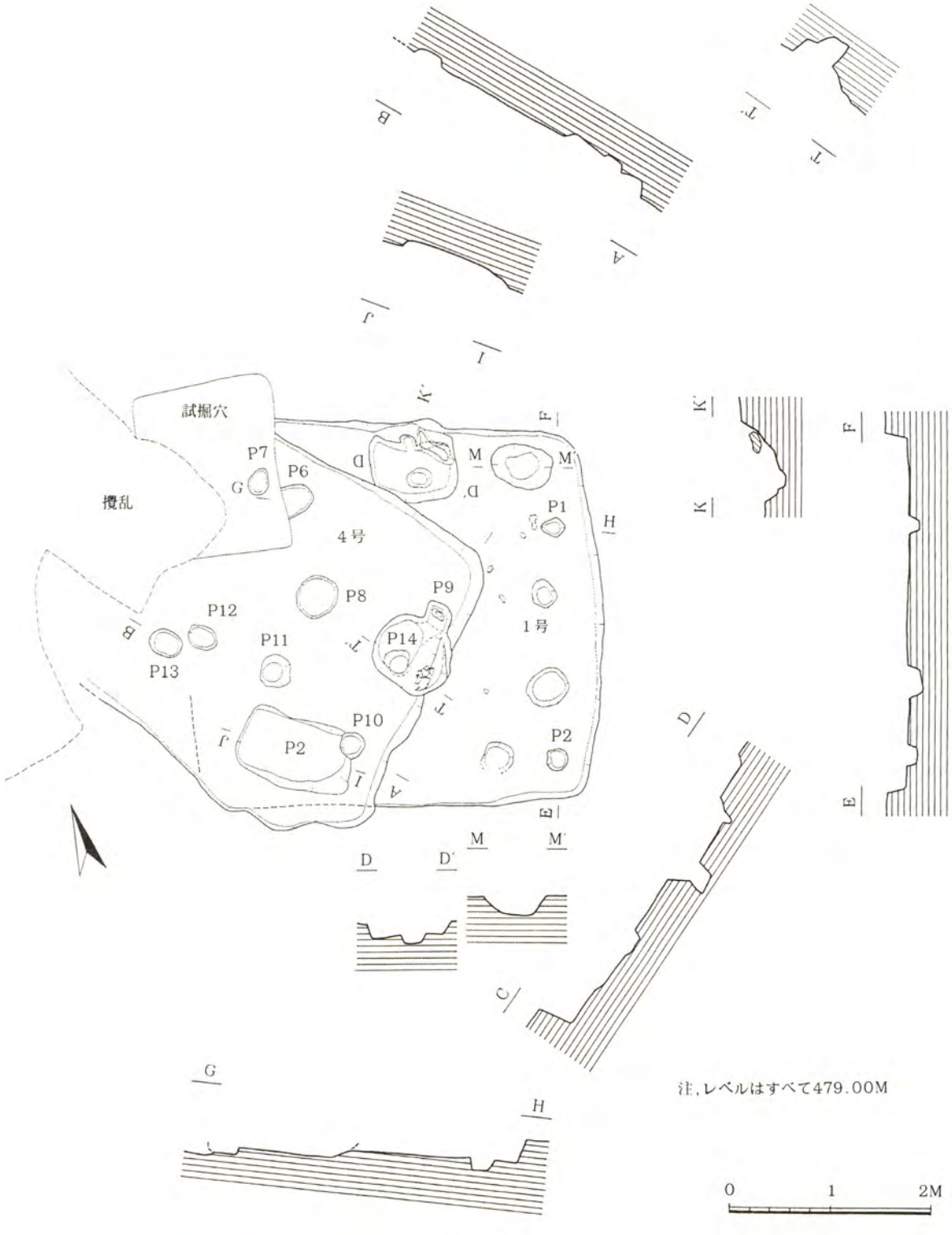
4号竪穴住居跡は、１号竪穴住居跡を切っている。西側壁を攪乱されている（検出部の規模約280×300㎝，深さ約8～35㎝）。柱穴は住居跡内に９基（Ｐ６～Ｐ14）確認した。４号竪穴住居跡に伴う柱穴は、Ｐ７径約28×20㎝，深さ約６㎝・Ｐ９径約28×24㎝，深さ約26㎝・Ｐ10径約25×24㎝，深さ約８㎝・Ｐ13径約32×25㎝，深さ約８㎝である。また、土壙状の掘り込みを２基確認した（Ｄ１・Ｄ２）。Ｄ１は東側壁の中央からやや北寄りに位置している円形のものである。壙中央から南寄りの底部に内湾した円形の掘り込み（径25㎝，深さ26㎝）がある。その北側に４号竪穴住居跡の主柱穴がある。１号竪穴住居跡と同じく硬化面はなく、Ｘ層・黄褐色粘質土（10ＹＲ6/5）をそのまま床面としている。竪穴住居跡の埋土は黒褐色土（Ⅷ層）で、分層できなかった。埋土中層より鉄鏃の小片が出土した。Ｄ１より検出時に上面から遺物が出土した（第39～第40図）。

２号竪穴住居跡（第41図）

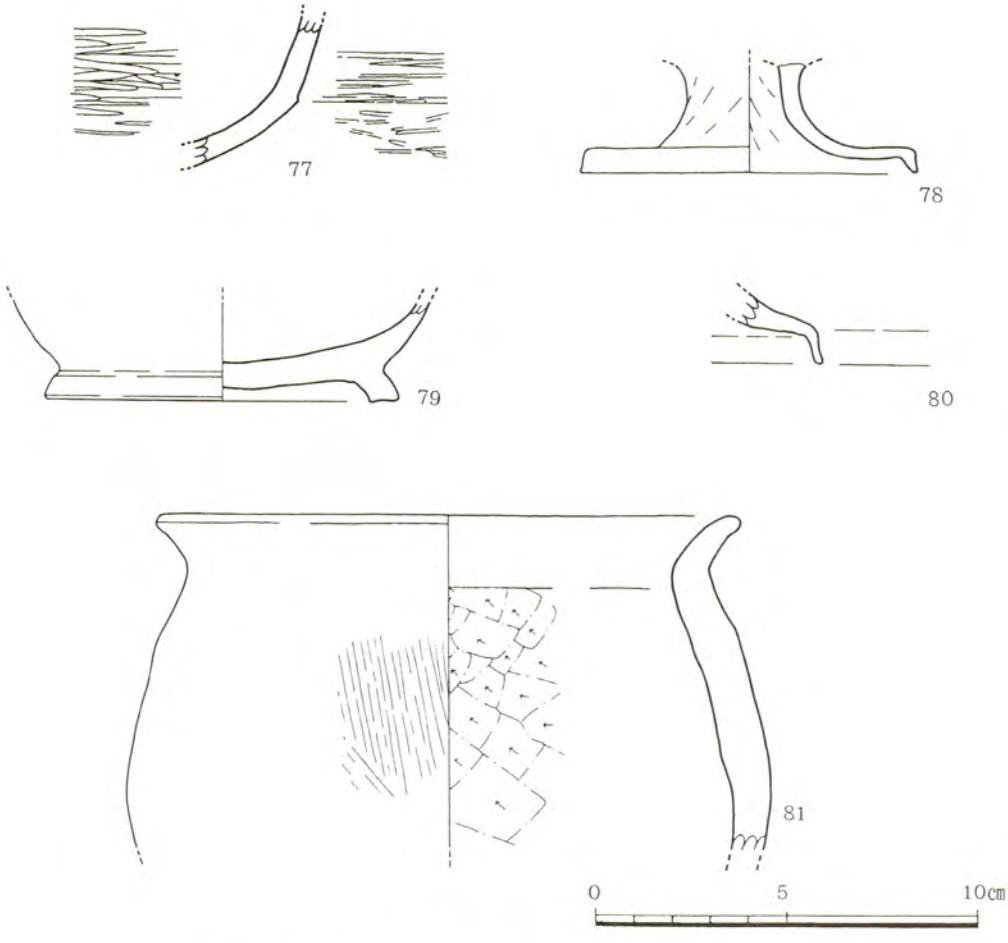
２号竪穴住居跡は北・西側を攪乱され、北側壁を掘り過ぎにより欠損した。南側及び西側底面を溝状遺構に切られている。南側壁にステップを持つので、２号竪穴住居跡の平面形は方形（約250×250㎝）と推定できる。深さは約６～８㎝を測る。柱穴は７基確認でき（Ｐ１～Ｐ７），内主柱穴は３基（Ｐ１径約36×34㎝，深さ約46㎝，Ｐ２径約36×34㎝，深さ約74㎝，Ｐ３径約26×22㎝，深さ約28㎝）である。もう１基の主柱穴（北西側）は攪乱されていた。

住居南側壁に張り出し部がある。Ｐ７に切られているが、Ｐ７の埋土に多量の焼土が含まれていた。粘土などの痕跡は確認できなかった。硬化面は確認できず、Ｘ層・黄褐色粘質土（10ＹＲ6/5）をそのまま床面

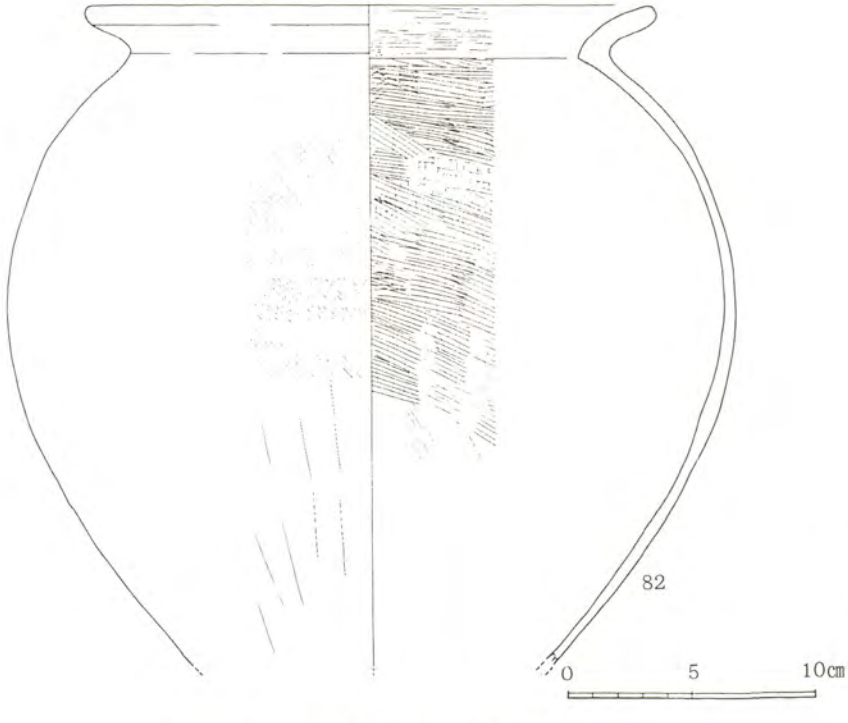
としている。埋土は黒褐色土（Ⅷ層）で分層できなかった。遺物の出土はなかった。



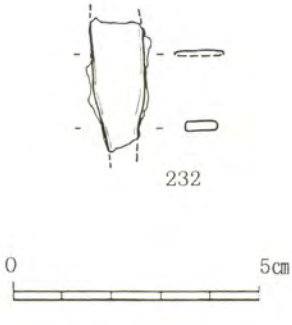
第37図　1・4号竪穴住居跡実測図



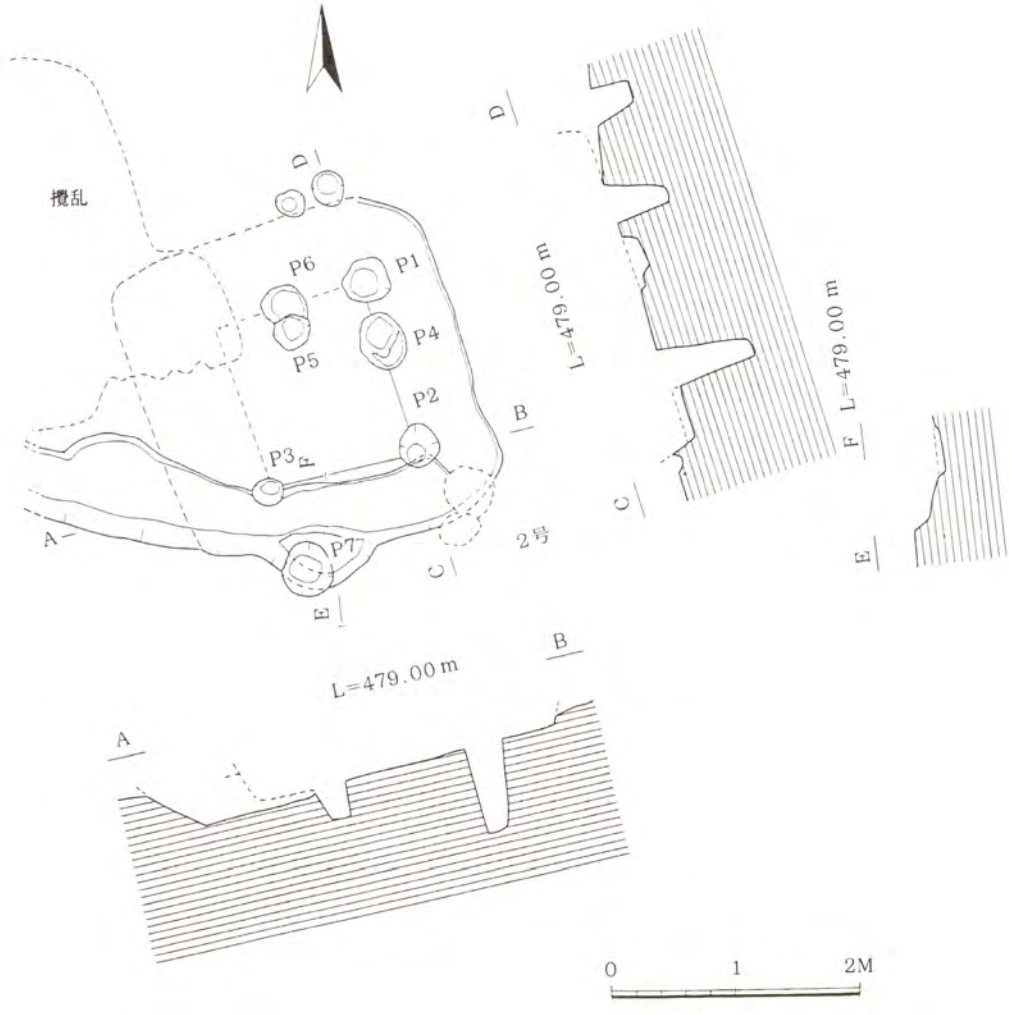
第38図　1号竪穴住居跡内出土遺物実測図



第39図　4号竪穴住居跡内土壙出土遺物実測図



第40図　4号竪穴住居跡内出土遺物実測図

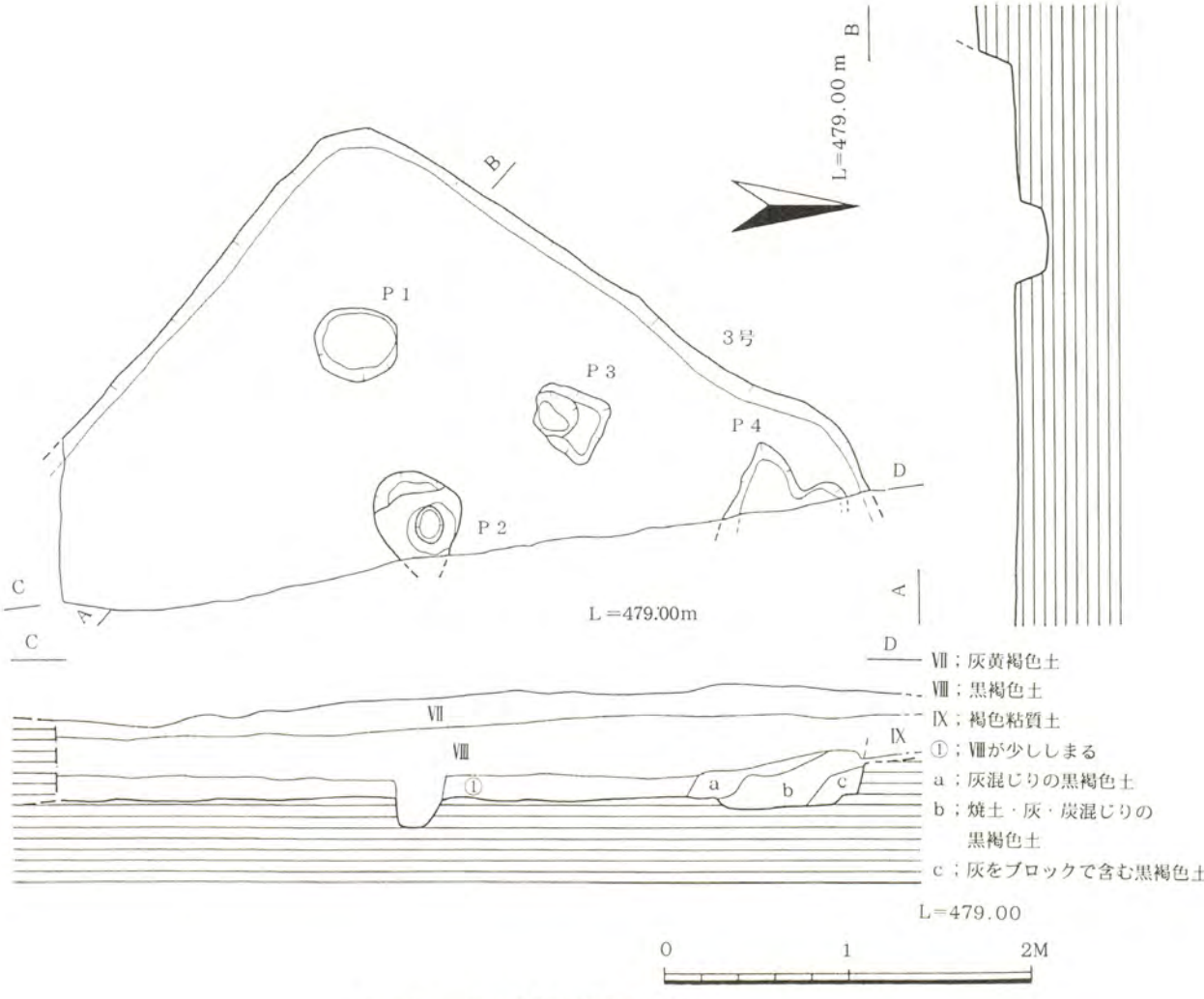


第41図　2号竪穴住居跡実測図

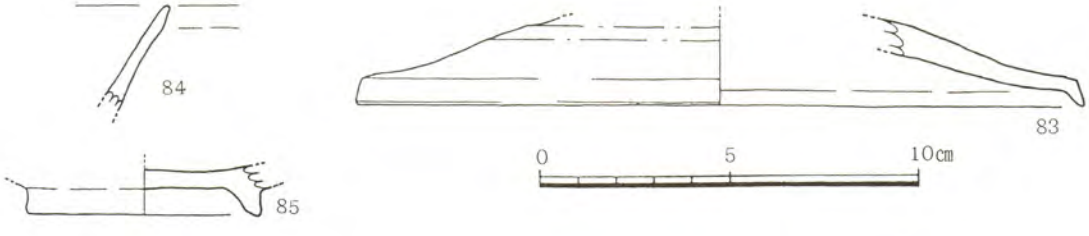
3号竪穴住居跡（第42図）

3号竪穴住居跡は調査区南端に位置する。東側が調査区外へと伸び、検出したのは住居跡の約1/2と思われる（検出部の規模約350×250㎝，深さ約20㎝）。内部に3基の柱穴を確認したが（P1～P3）、住居に伴うものは1基（P1・径約45㎝，深さ約20㎝）である。

床面北側に不定形の掘り込みがある。埋土に焼土・灰・カーボンを埋土に含んでいるため、竈の可能性がある。硬化面はなく、X層・黄褐色粘質土（10YR6/5）をそのまま床面としている。埋土は2層に分層できる。埋土は全体的に鉄分を多く含んでいる。埋土下層より遺物が出土した（第43図）。



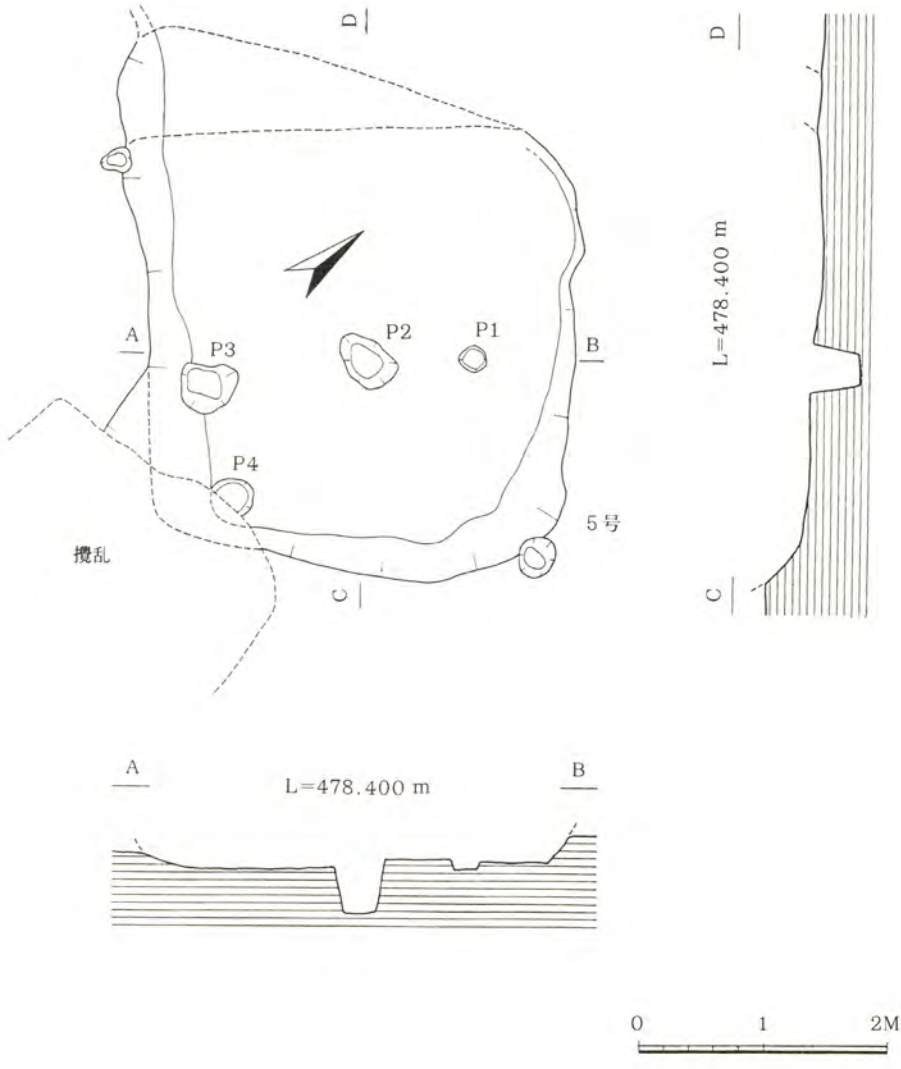
第42図　3号竪穴住居跡実測図



第43図　3号竪穴住居跡出土遺物実測図

5号竪穴住居跡〔略方形掘り込み遺構〕（第44図）

調査区北側中央の落ち込み部底面にて検出。掘り込みの形状（北東側壁残存約340cm，深さ約10～28cm）から住居跡と推定できる。南東側が攪乱及び掘り過ぎによりコーナーを失っており、掘り過ぎてしまったが西側壁に２つのステップがあるため、２つの推定ラインが引ける。柱穴は内部に４基確認できたが（Ｐ１径約22cm，深さ約10cm，Ｐ２径約50×34cm，深さ約44cm，Ｐ３径約48×44cm，深さ約23cm，Ｐ４残存径約44×24cm，深さ約26cm）、主柱穴は不明である。硬化面は確認できず、Ｘ層・黄褐色粘質土（10ＹＲ6/5）をそのまま床面にしていると考えられる。埋土は黒褐色土（Ⅻ層）で分層できず、遺物の出土はなかった。



第44図　5号竪穴住居跡実測図

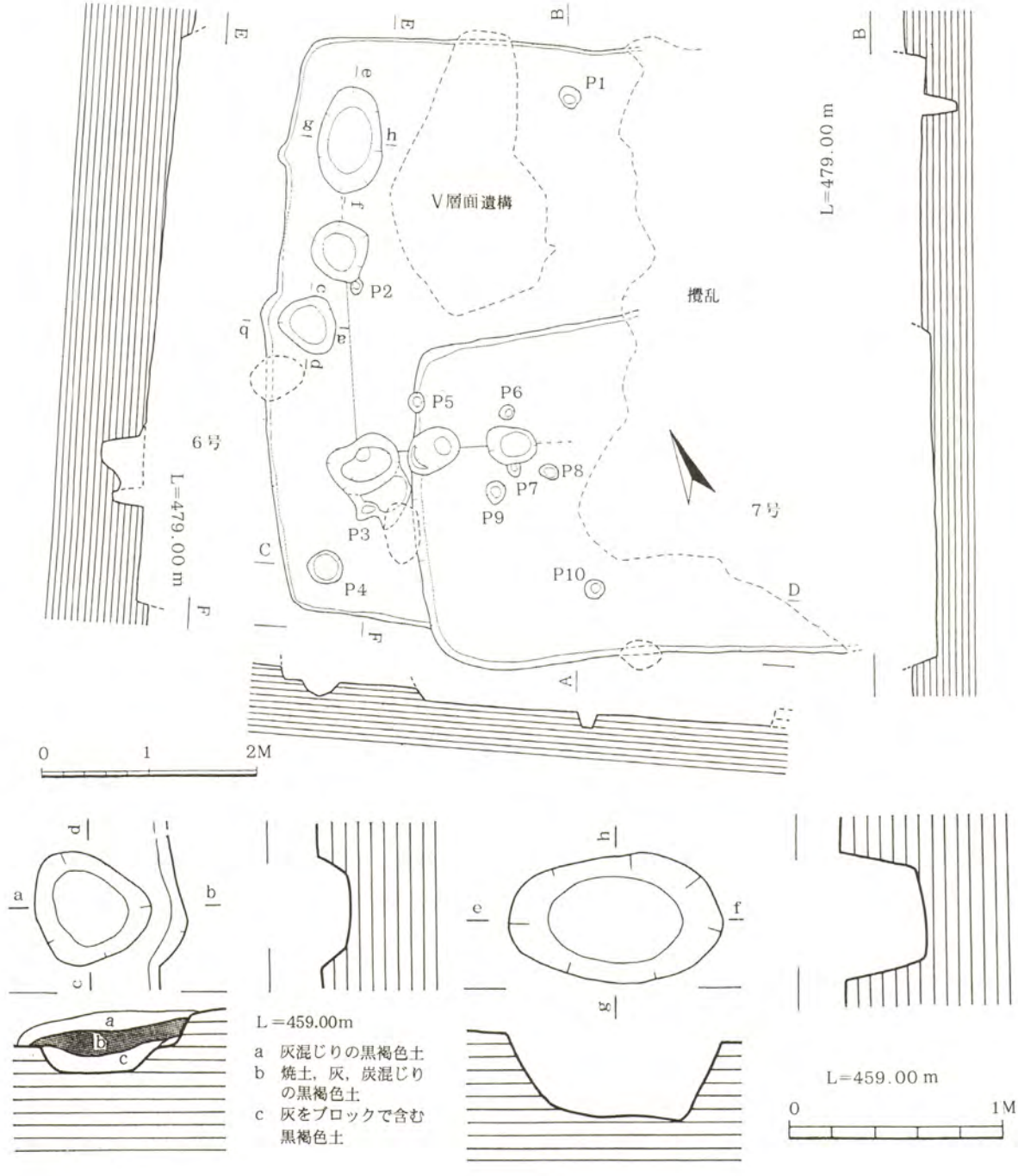
6号竪穴住居跡（第45図）

6号竪穴住居跡は7号竪穴住居跡に切られている。7号掘立柱建物跡と重複関係にある（新旧は不明）。北側をⅤ層面の遺構に切られており、また南側を撹乱されている。検出部の規模約530×300㎝，深さ約20㎝である。柱穴は4基確認できたが（P1径約20㎝，深さ約30㎝，P2径約12㎝，深さ約8㎝，P3残存径約58×30㎝，深さ約30㎝，P4径約32㎝，深さ約14㎝）主柱穴かどうかは不明である。西側壁は張出しており、その中央部に焼土及び灰を伴った竈の底面と考えられる掘り込みを検出した。平面形は略円形状の掘り込みで、径約55㎝，深さ約10～12㎝を測る。掘り込みの埋土は3つに分層できる。①層は焼土（多量）、灰（少量）の粒子を含む黒褐色土（Ⅻ層）である。②層は赤褐色の焼土で、③層は焼土・灰の粒子を少量含む黒褐色土（Ⅻ層）である。

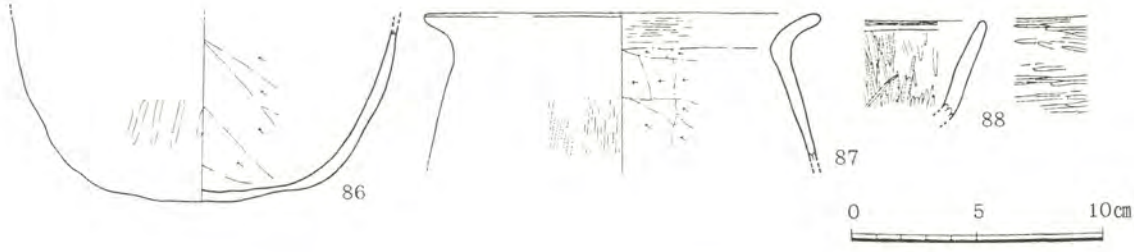
西側壁の北寄りの位置に貯蔵穴と考えられる、長軸約100㎝，短軸約70㎝の楕円形の掘り込みを検出した。深さ約35～45㎝を測る。埋土は黒褐色土で分層はできず、遺物の出土もなかった。住居跡に硬化面はなく、Ⅹ層・黄褐色粘質土（10YR6/5）をそのまま床面としている。住居跡の埋土は黒褐色土（Ⅷ層）で分層はできず、埋土下層から遺物が出土した（第46図）。

7号竪穴住居跡（第45図）

7号竪穴住居跡は6号竪穴住居跡を切っており、7号掘立柱建物跡と重複関係にある（7号掘立柱建物跡が新しい）。東側を攪乱され、正確な平面形は掴めない（検出規模長軸約380×300㎝，深さ約8～25㎝）。7基の柱穴を検出したが、主柱穴は不明である。硬化面はなく、X層・黄褐色粘質土（10YR6/5）をそのまま床面としている。埋土は黒褐色土（Ⅷ層）で分層できず、遺物の出土はなかった。



第45図　6・7号竪穴住居跡実測図



第46図　６号竪穴住居跡内出土遺物実測図

８号竪穴住居跡（第47図）

８号竪穴住居跡は、Ⅴ層面の不明土壙に切られており、住居跡の２辺のみを確認した。南側壁にステップがあり、推定規模約300×240cm，深さ約５～36cmである。４基の主柱穴を確認した（径約15～28cm，深さ約５～８cm）。北側中央部寄りの床面上面に焼土が点在していたが、掘り下げ時に確認できず竈かどうかは不明である。その他掘り込みを２基確認した。掘り込み①は床面中央部からやや南よりに位置する。平面形は不整楕円形を呈する。長軸約86cm，短軸約70cm，深さ約５～11cmを測り、底面は平らではなく、少々起伏がある。掘り込み②は、東側壁と南側壁のコーナー部に位置し、略楕円形を呈する（長軸約78cm，短軸約60cm，深さ約２～14cm）。底面は軸に沿って南西側が深くなっている。

住居跡に硬化面はなく、Ⅺ層・黄橙色ローム層（10ＹＲ7/8）をそのまま床面としている。埋土は黒褐色土（Ⅷ層）で遺物の出土はなかった。

２．掘立柱建物跡

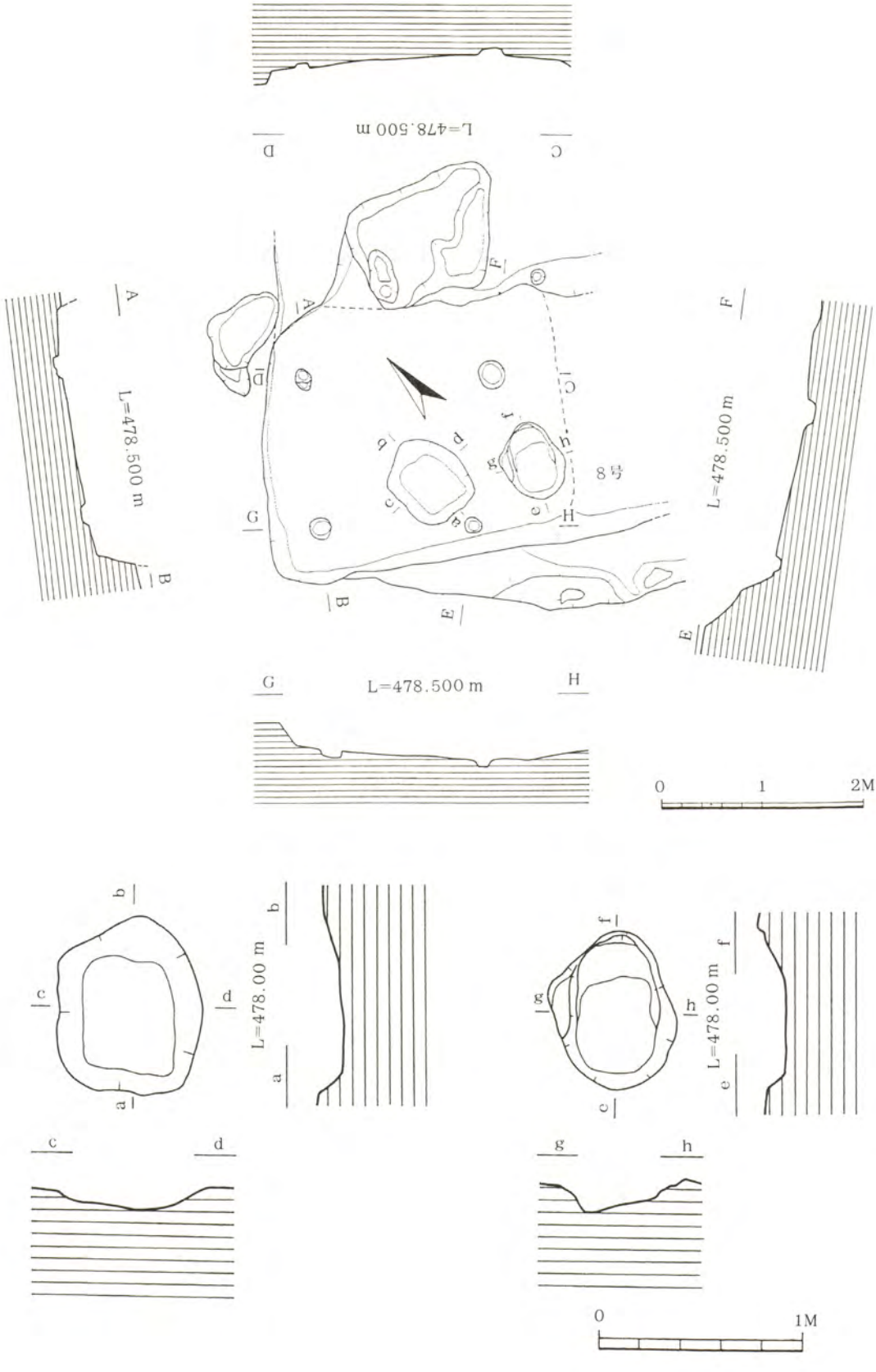
６号掘立柱建物跡（第48図）

６号掘立柱建物跡は桁行が調査区外へ延びており、確認できたのは梁間南側２間、桁行西側３間分、東側１間分のみである。主軸は北東－南西である。南側梁間の柱間寸法は東から約135cm（約4.5尺），約120cm（約４尺）である。西側桁行の中間寸法は南から約135cm（4.5尺），約120cm（約４尺），約105cm（約3.5cm）である。東側桁行の柱間寸法は約120cm（約４尺）である。柱穴の深さは様々で、均一化が成されておらず、平面形は円形及び楕円形を呈する。柱穴の埋土は黒褐色土（Ⅷ層）で柱痕跡は確認できず、遺物の出土もなかった。

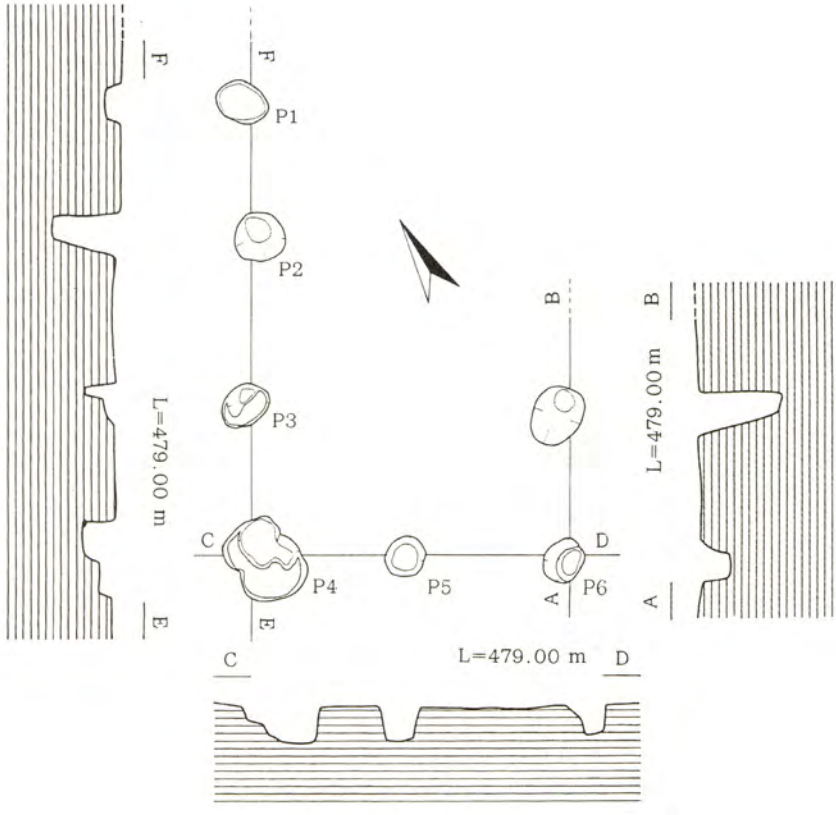
７号掘立柱建物跡（第49図）

７号掘立柱建物跡は東側を攪乱され、６号竪穴住居跡内に３基の柱穴があるが、６号竪穴住居跡の床面を切って掘り込んでいるため、６号竪穴住居跡より新しいと考えられる。確認できた北側及び西側柱列が延びなかったので、７号掘立柱建物跡の規模は、梁間２間×桁行２間と推定できる。柱間寸法は北側柱列Ｐ１～Ｐ３は約150cm（約５尺），約165cm（約5.5尺）、西側柱列Ｐ３～Ｐ５は約225cm（約7.5尺），約195cm（約6.5尺）、南側Ｐ５－Ｐ６は約150cm（約５尺）である。柱穴は、基本的にほぼ円形で（径約45～60cm）、

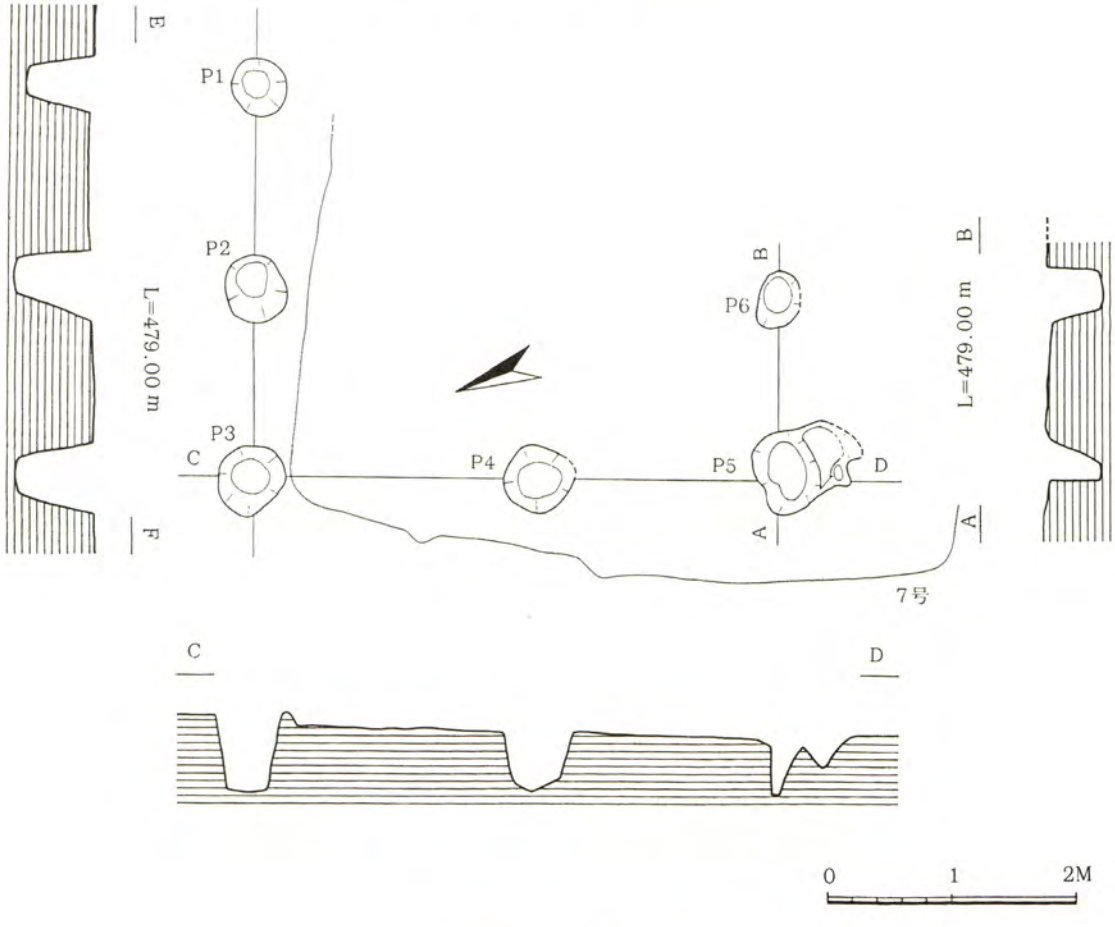
断面形が筒状になる（深さ約45～60㎝）。埋土は黒褐色土（Ⅷ層）で柱痕跡は確認できなかった。柱穴から遺物の出土はなかった。主軸は北北西－南南東である。



第47図　8号竪穴住居跡実測図



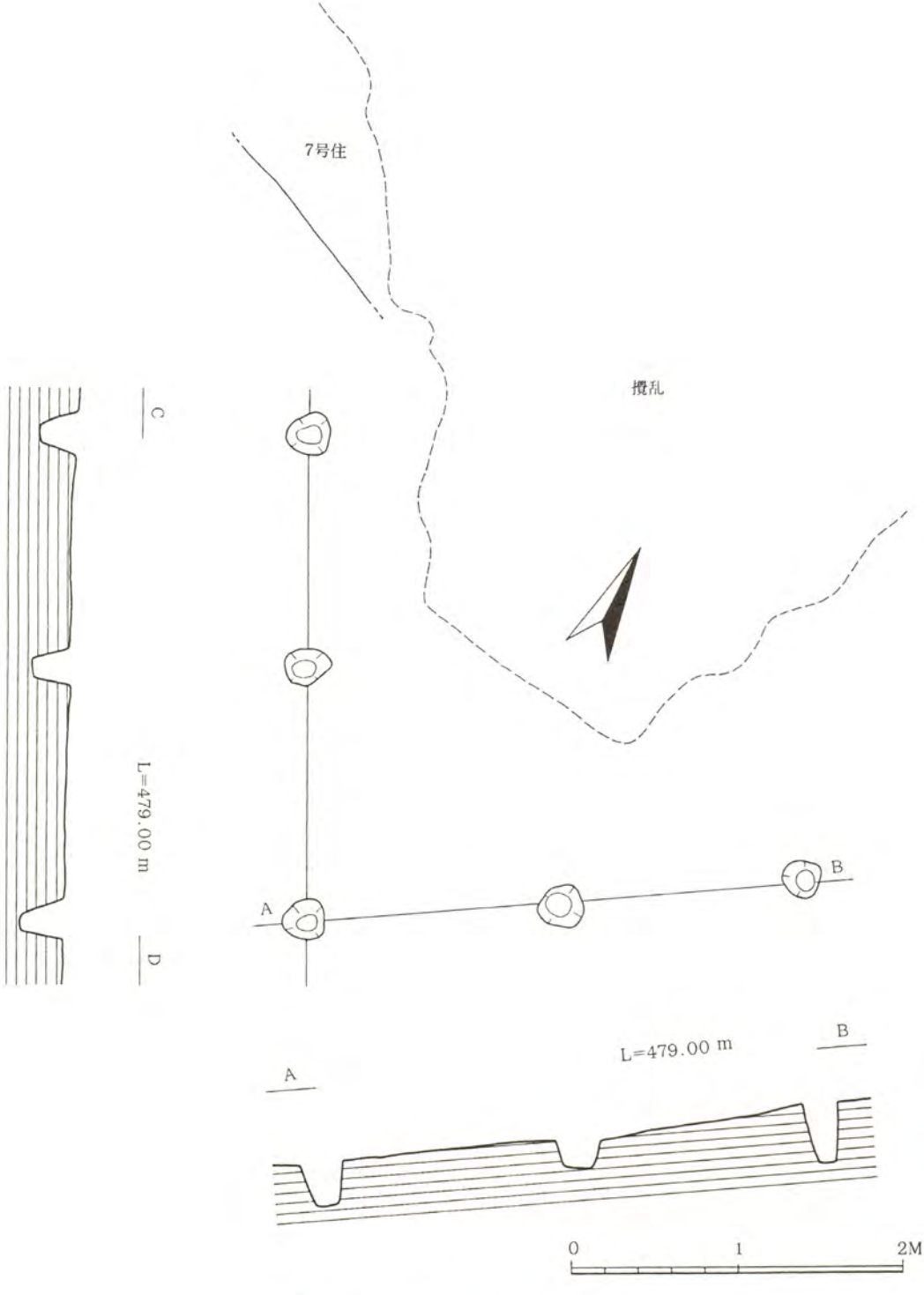
第48図　6号掘立柱建物跡実測図



第49図　7号掘立柱建物跡実測図

8号掘立柱建物跡（第50図）

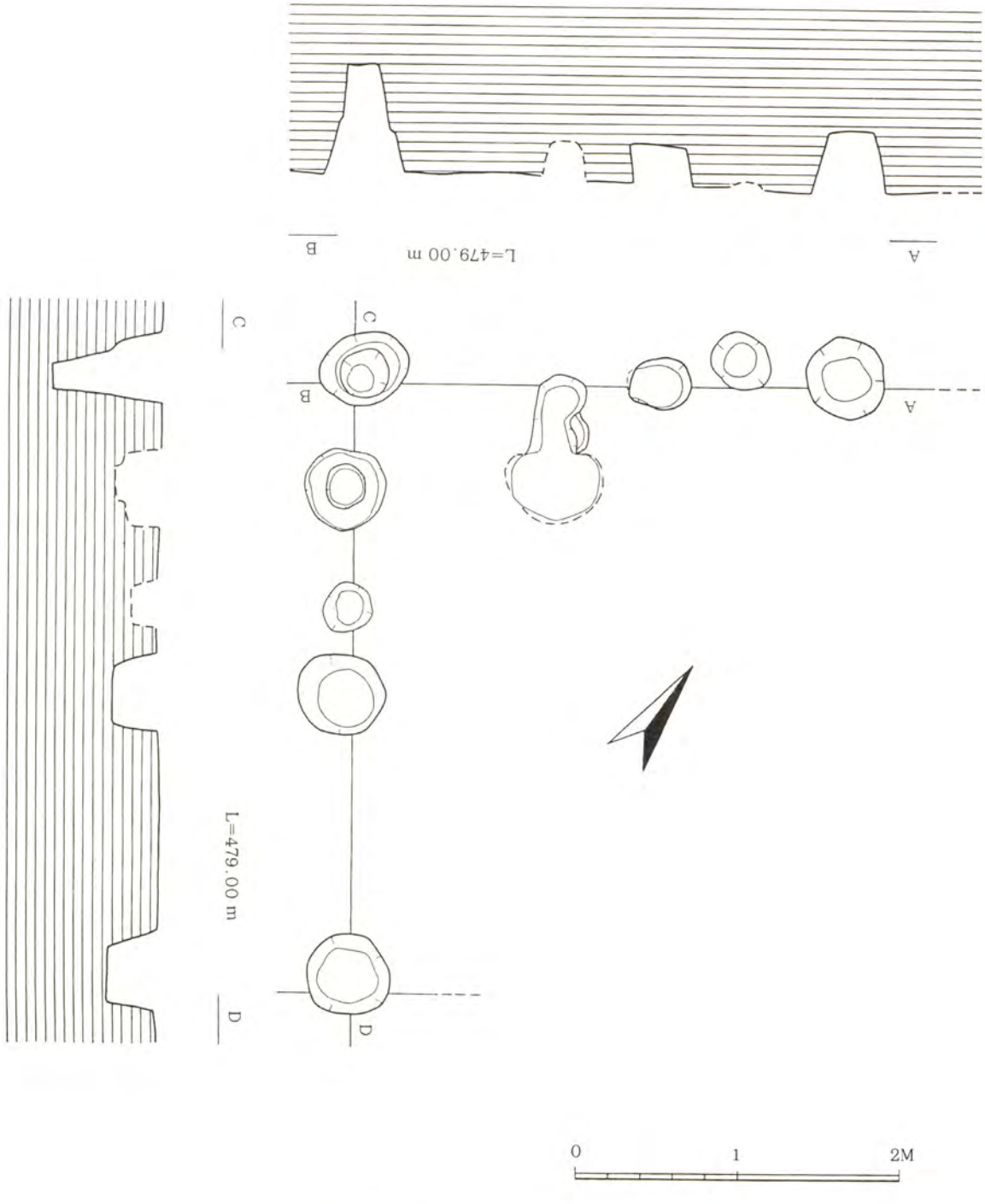
8号掘立柱建物跡は北側を攪乱され規模は不明である。確認できたのは、梁間・桁行共に2間分の柱列のみである。確認した柱列は共に延びないので推定規模2間×2間の可能性がある。柱間寸法はすべて約150㎝（約5尺）である。主軸は4号竪穴住居跡に類似しており、北東－南西である。柱穴は径約22～25㎝，深さ約20～36㎝である。平面形は円形で、断面形は筒状を呈する。埋土は黒褐色土（Ⅷ層）で柱痕跡は確認できず、遺物の出土もなかった。



第50図　8号掘立柱建物跡実測図

9号掘立柱建物跡（第51図）

9号掘立柱建物跡は西側梁間2間分及び、北側桁行2間分を確認し、あとは調査区外に延びると考えられる。検出した西側梁間の柱間寸法P3～P5は約195cm（約6.5尺），約180cm（約6尺）である。北側桁行P1～P3は約120cm（約4尺），約180cm（約6尺）、柱穴の径は約40～50cm，深さ約30～70cmである。埋土は黒褐色土（Ⅷ層）で、柱痕跡は確認できなかった。柱穴P3は他の柱穴より特に深く、西側梁間のP1～P3の柱穴の埋土上面に板状の礫が落ち込んでいた。主軸は北西－南東である。遺物の出土はなかった。



第51図　9号掘立柱建物跡実測図

3．土壙

4号土壙（第52図）

調査区南側に位置する。Ⅴ層面の柱穴に切られている。焼土が掘り込みに対し環状に分布しており、掘り込み底面からは浮いた状態にある。掘り込みは、長軸約106cm，短軸約74cmの楕円形を呈する。深さは約10～20cmで、北東側に行くにつれて深くなっている。遺物は掘り込みからやや北東側にずれた位置の上面に須恵器大甕片が点在していた（第53図）。

5号土壙（第52図）

調査区南側、４号土壙の北側約３mに位置する。壙長軸約125cm，短軸95cm，深さ約20～26cmの楕円形を呈する。断面形は皿状になる。埋土は黒褐色土（Ⅷ層）で、遺物の出土はなかった。

6号土壙（第52図）

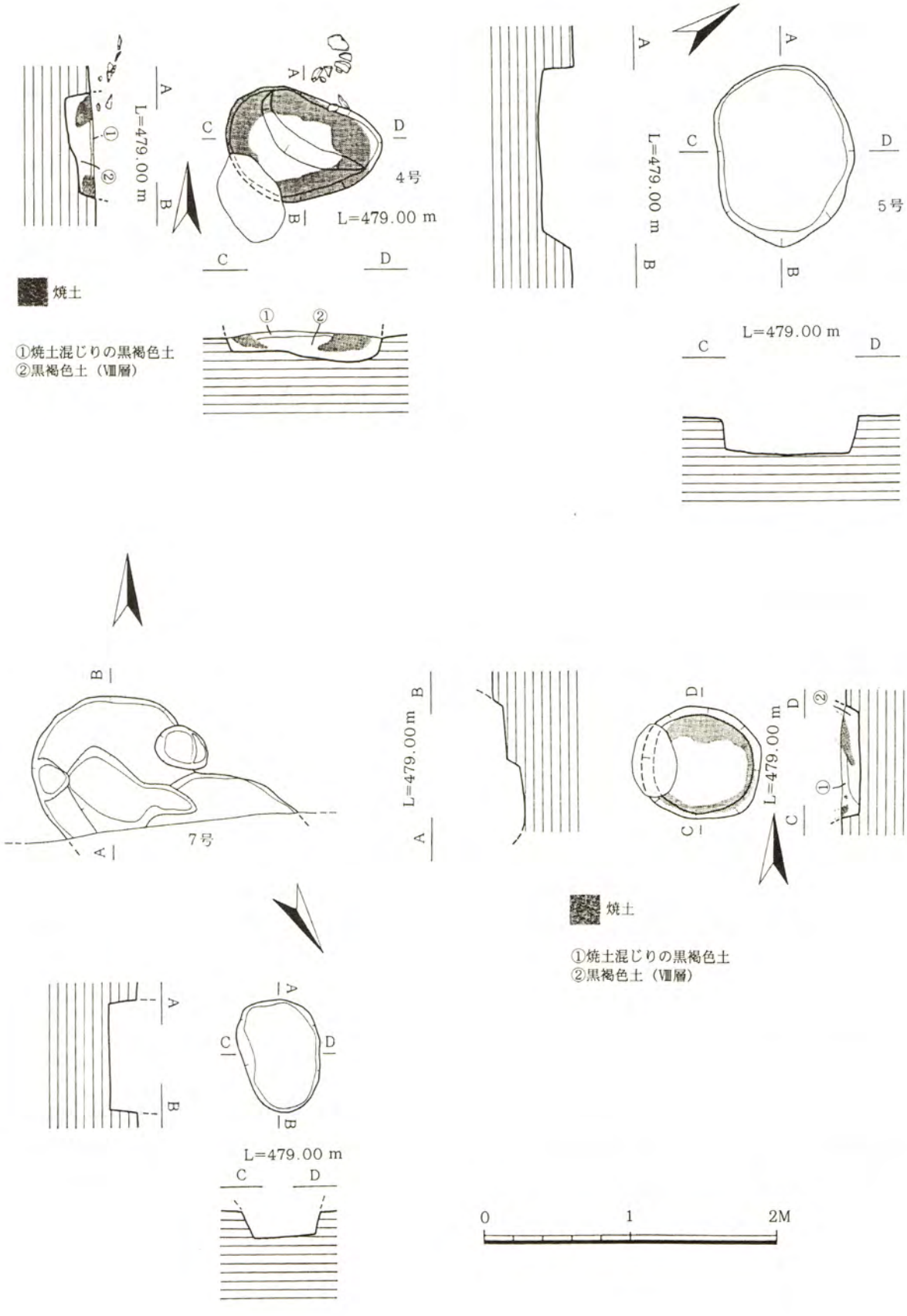
調査区南側細長部分のコーナー部に位置する。Ⅴ層面の柱穴に切られているが、平面形はほぼ円形を呈すると考えられる。現存で南北約76cm，東西約57cm，深さ約12cmを測る。平面の観察では、掘り込みに対し焼土が環状に分布している。しかし断面観察では、壙床面まで達しておらず、埋土上層から中層内で納まっている。焼土は平面的に分布するのではなく、ブロック状に分布している。遺物の出土はなかった。

7号土壙（第52図）

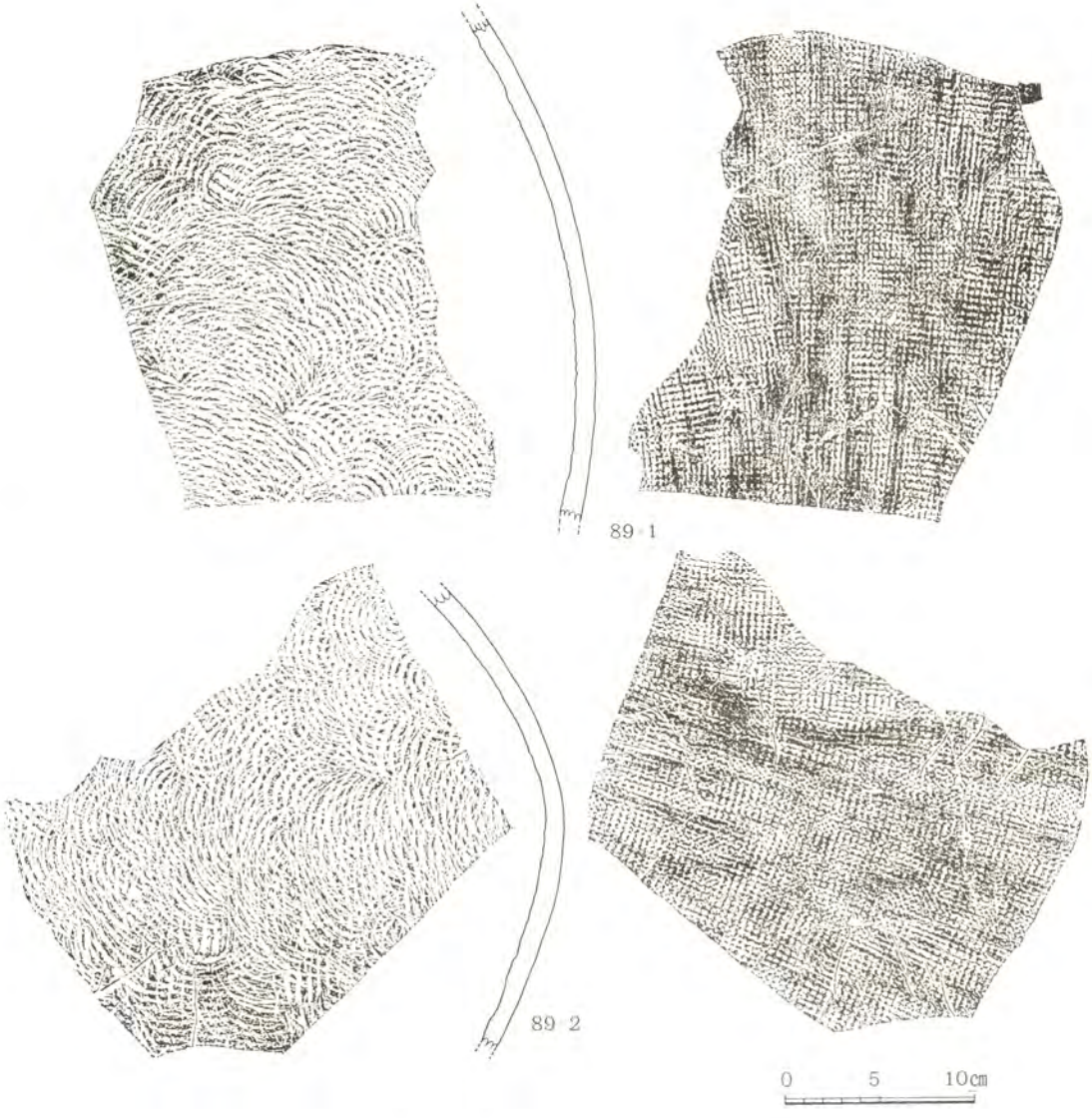
７号土壙は調査区外に延びているため、平面形は不明である。東側を柱穴に切られている（検出部南北約92cm，東西最長部約170cm）。断面形は２段掘りの皿状で、西側に円形の掘り込み（径約24cm，深さ約15cm）がある。この掘り込みが土壙に伴うかどうかは不明である。埋土は黒褐色土（Ⅷ層）で分層できず、遺物の出土はなかった。

30号土壙（第52図）

１号竪穴住居跡の東側約1.2mに位置する。長軸約76cm，短軸約52cmの楕円形を呈する。深さは約20cmで、長軸の断面形は壁が直に立ち、短軸の断面形は壁がやや外反している。埋土は黒褐色土（Ⅷ層）で分層できず、遺物の出土はなかった。



第52図　4～7・30号土壙実測図



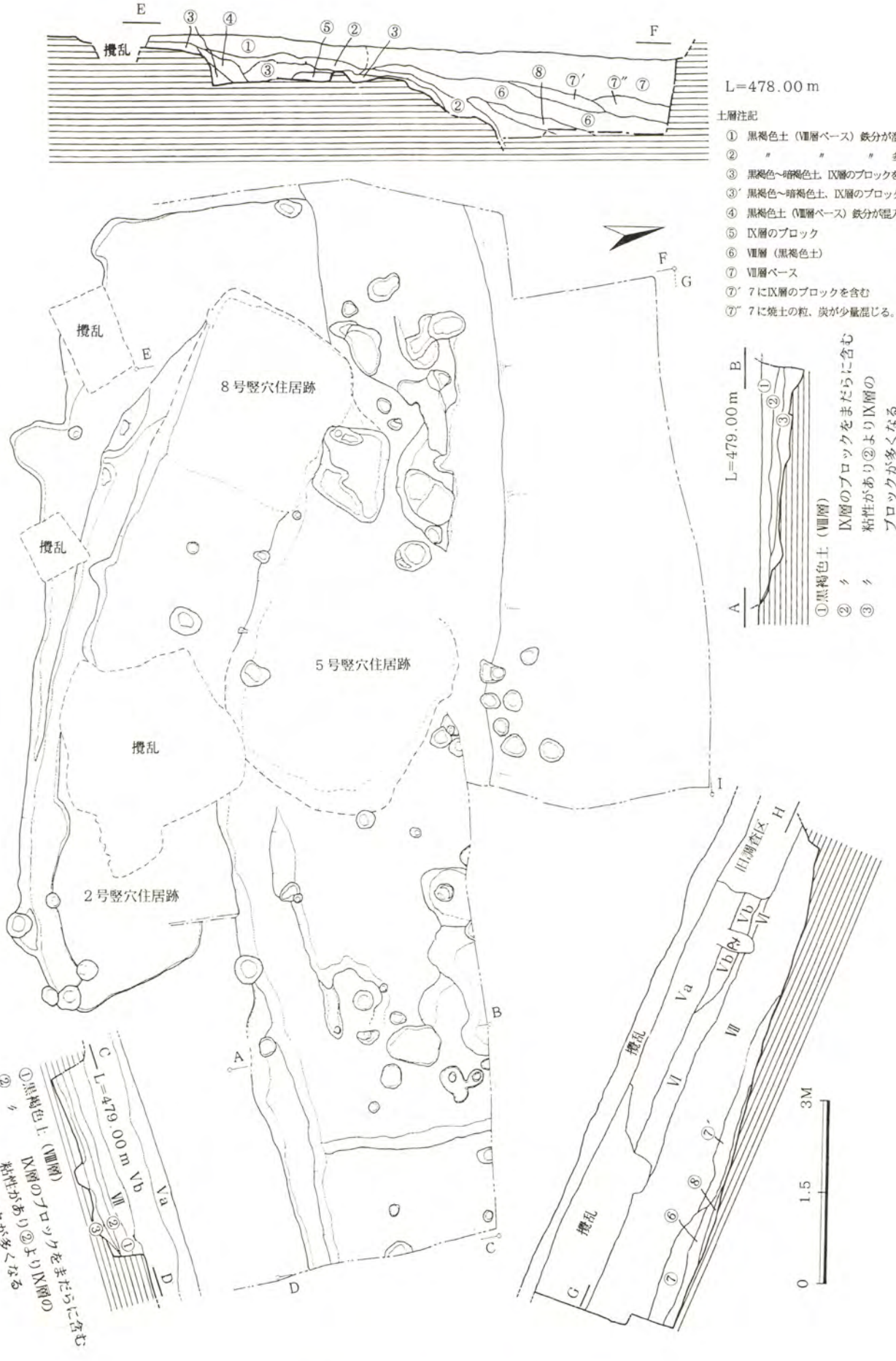
第53図　4号土壙上面出土遺物実測図

4．溝跡

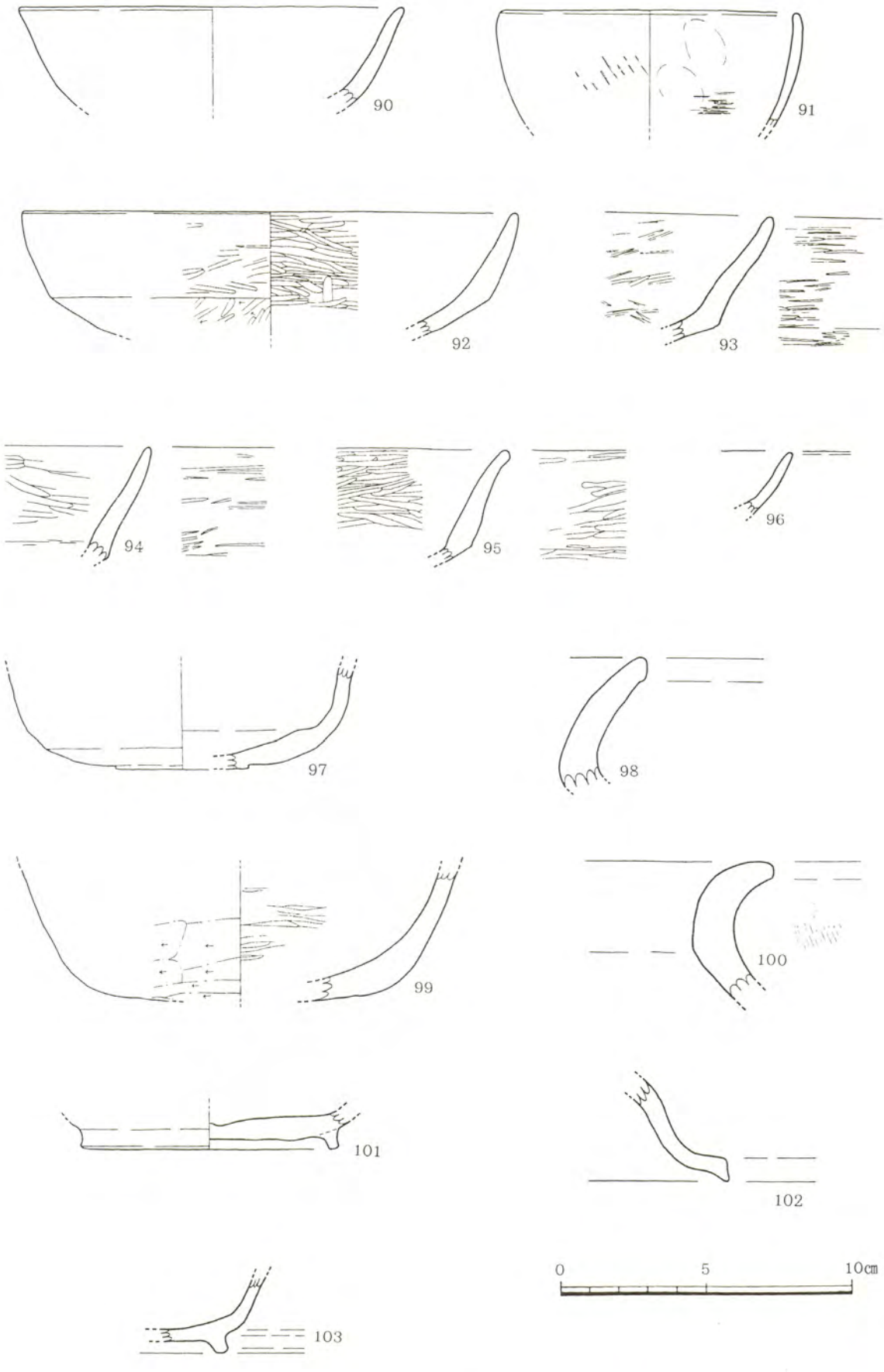
2号溝跡（第54図）

2号溝跡は調査区の北側に位置し、北東部分を攪乱され、東側は調査区外へと延びる。ここでは、溝跡として取り扱っているが、遺構の全貌は不明である。内部に2・5・8号竪穴住居跡及び幾基もの柱穴が存在するが埋土がⅧ層ベースで構成されているため新旧関係も不明である。また、2号溝跡北側端部は掘り下げを行っても地山（Ⅸ層）を検出することができず、表土から約2m50cm程掘り下げた時点で河川に近接していることもあり水が湧出し、作業に危険性があると判断し未掘となった。

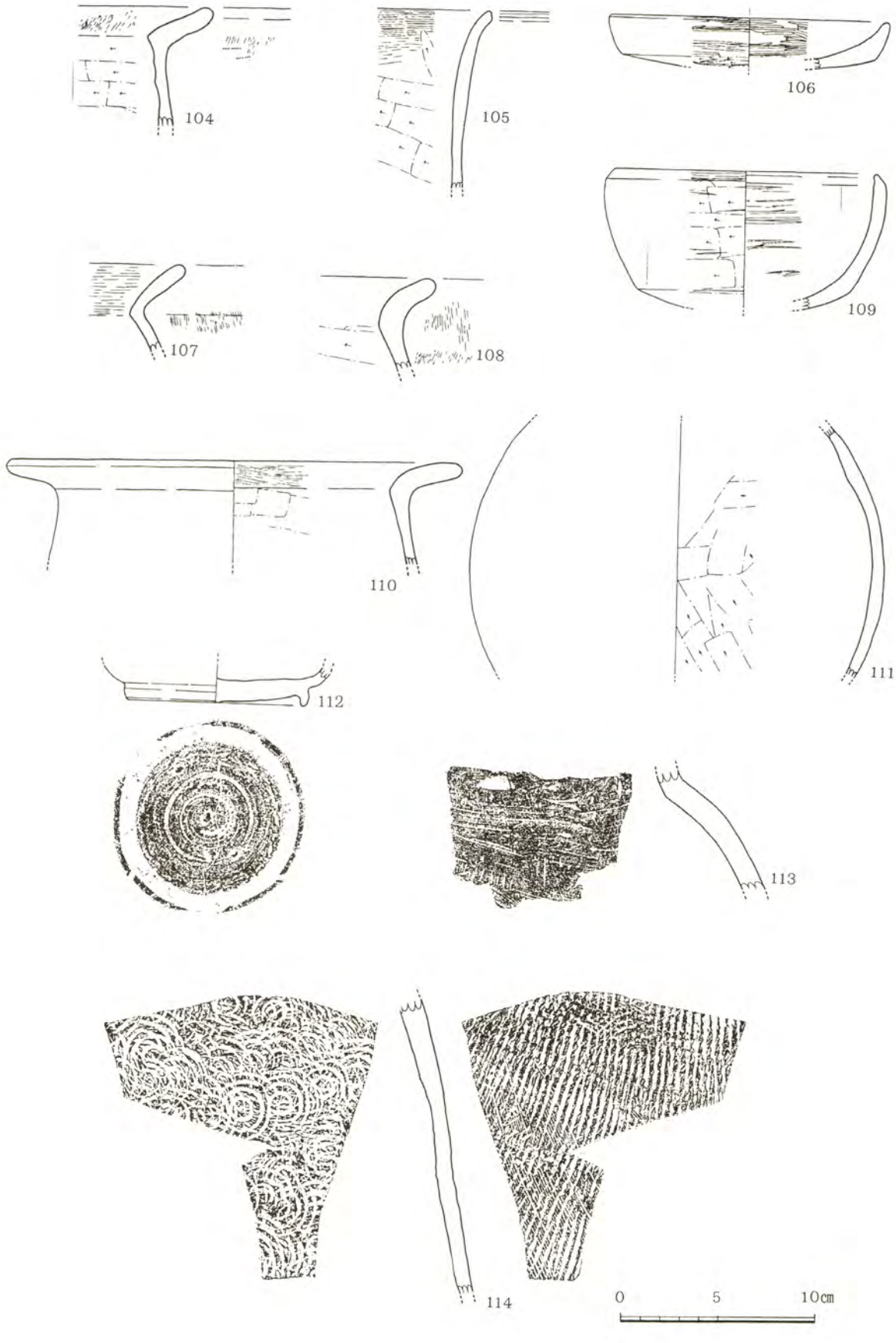
遺構の南側は2段掘り状になっており、東側にも段があり2号竪穴住居跡付近から上縁部が南側へ開いている。土層断面E－F 間の土層体積状況を観察すると 中央部から北側下方へ 落ち込んでいる。下部にトレンチを入れ部分的に掘り下げたが土層に変化はなかった。検出規模約18m，最大幅約11m50cm，深さ約50～140cm（掘り下げた深さ）を測る。埋土から遺物が出土した（第55～56図）。



第54図　2号溝跡平面土層断面図



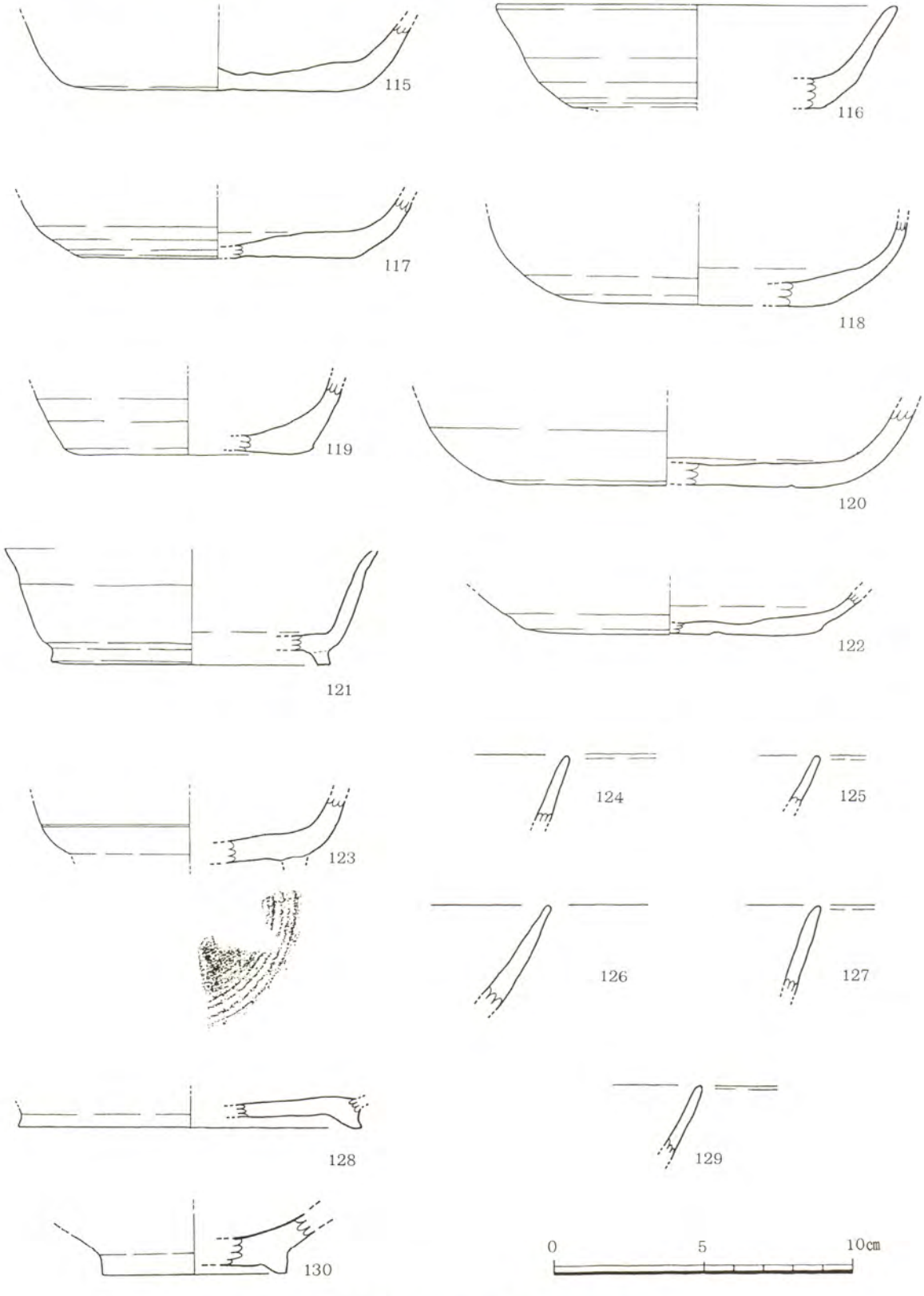
第55図　2号溝跡内出土遺物実測図（1）



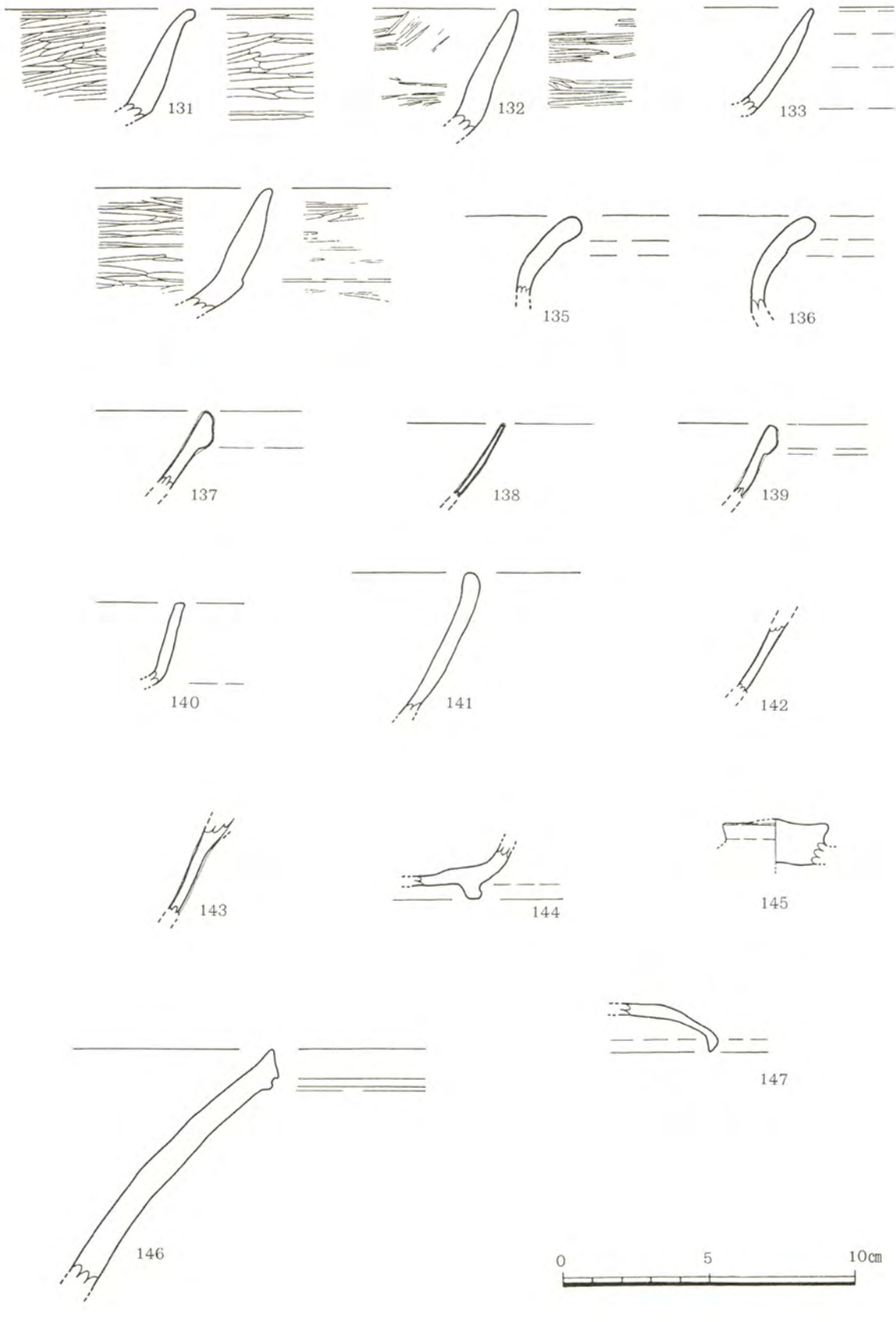
第56図　2号溝跡内出土遺物実測図（2）

5．包含層の遺物（第57図～第61図）

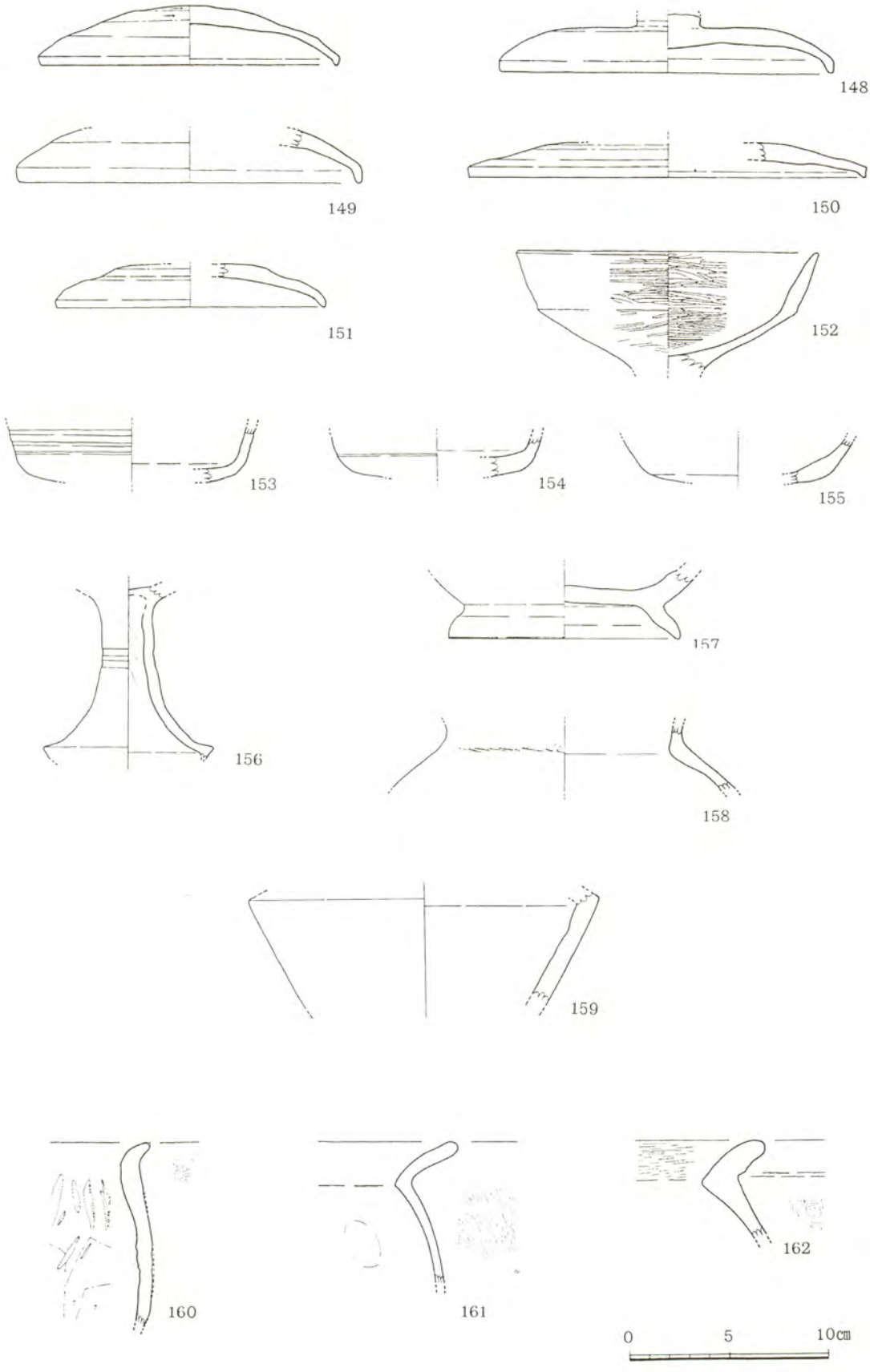
Ⅷ層には主に８～９世紀代の土師器，須恵器（坏，高坏，蓋，鴻，甕）及び白磁等が出土した。破片・小破片が多く、実測可能なものについてのみ掲載する。また、馬具と思われる環状の鉄器も出土している。



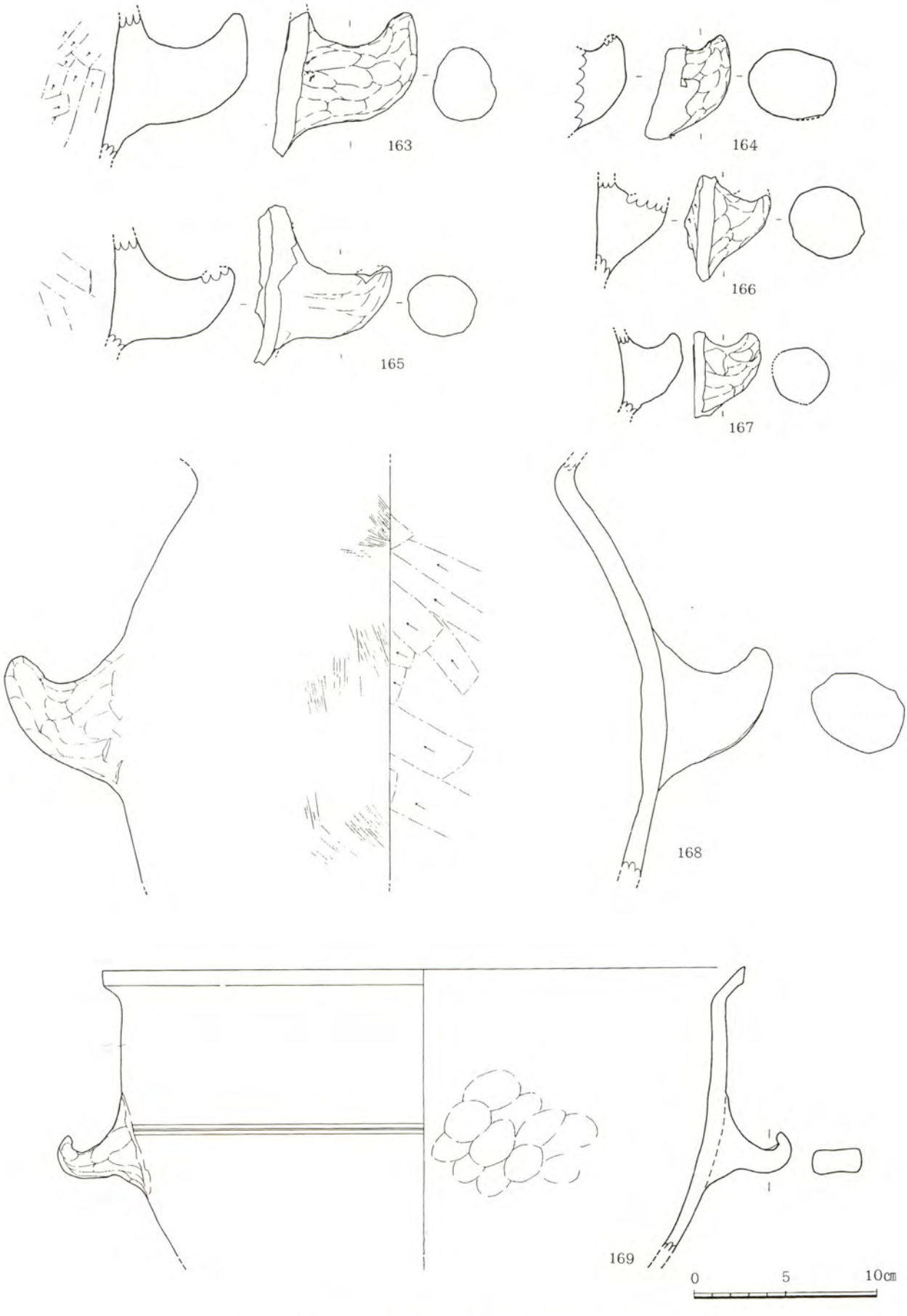
第57図　Ⅷ層（包含層）出土の遺物実測図（１）



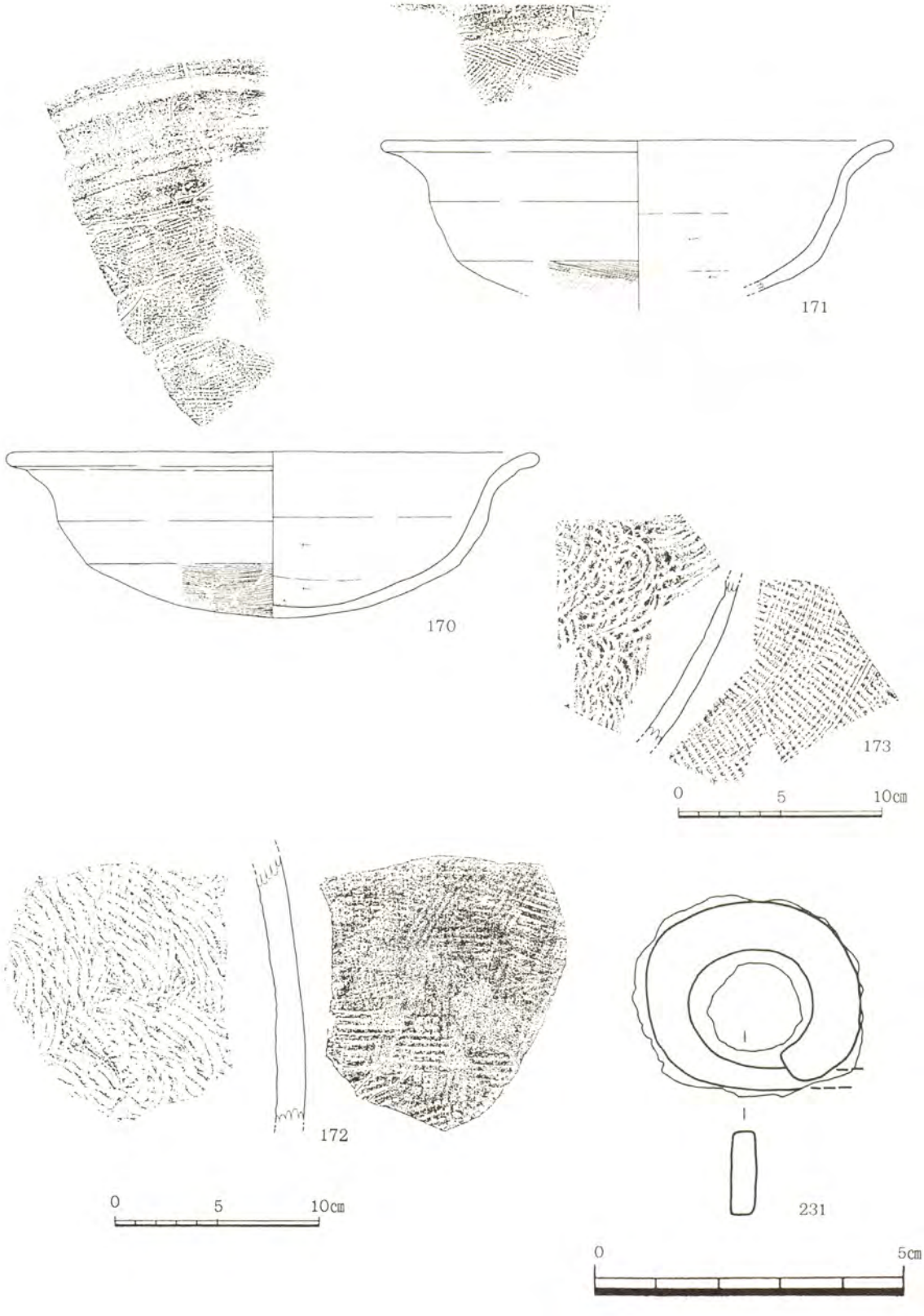
第58図　Ⅷ層（包含層）出土の遺物実測図（2）



第59図　Ⅷ層（包含層）出土の遺物実測図（3）



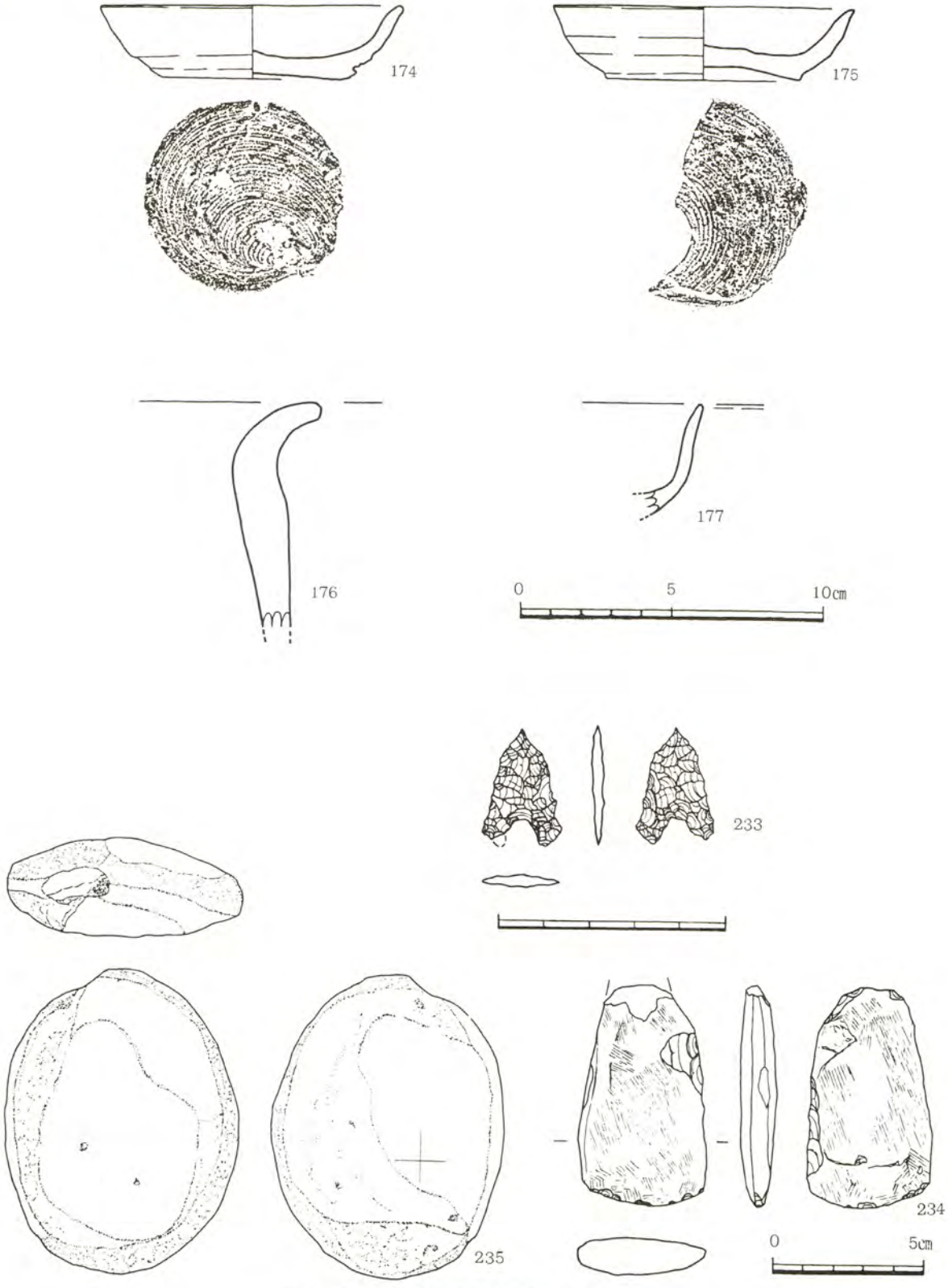
第60図　Ⅷ層（包含層）出土の遺物実測図（4）



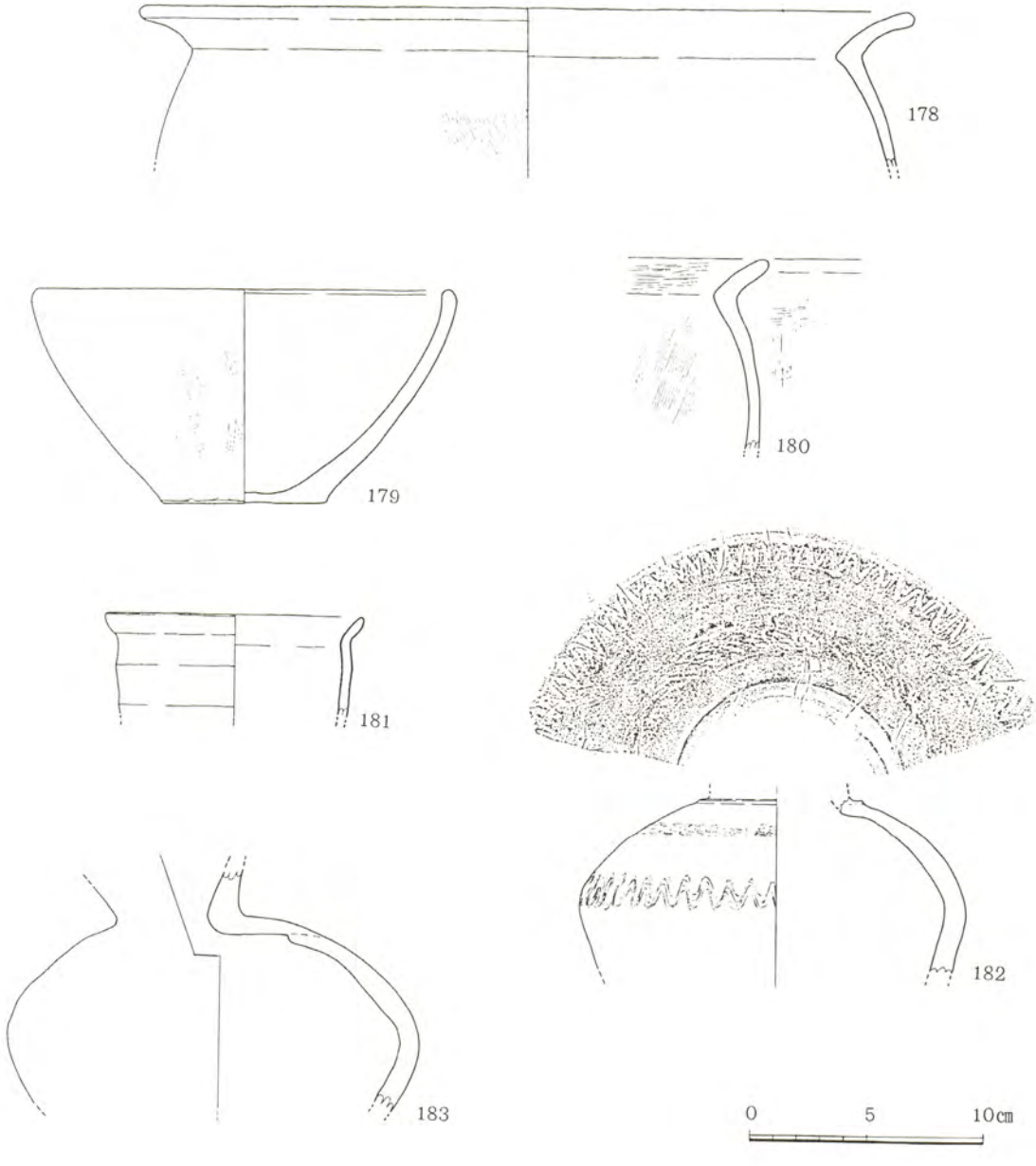
第61図　Ⅷ層（包含層）出土の遺物実測図（５）

第４節　その他の時代の遺物

基本土層Ⅶ層から少量の遺物が出土している（174，175）。整地層（Ⅳ層）下層から石器２点、また平安期の包含層であるⅧ層から石鏃が混入して出土した（第62図）。並びに土器もも弥生から古墳時代のものが出土した（第63図）。



第62図　その他の遺物実測図（１）



第63図　その他の遺物実測図（2）

第7表　　Ⅸ層面出土遺物観察一覧表（5）

No	種類	器種	出土位置	層	色調(外面)	色調(内面)	焼成	調整（外）	調整（内）	胎土	備考
88	土師器	高坏	7号竪穴住居跡	埋土一括	にぶい橙色(7.5Y7/4)	にぶい橙色(7.5Y6/4)	普通	口縁部から体部中央回転ナデ後粗いミガキ,体部中央から欠損部ヘラケズリ後ナデ後粗いミガキ	磨き,体部中央に黒斑	0.5~3㎜の砂粒及び2㎜程の赤褐色砂粒を含む.	破片,残存器高4.2㎝
89(1)(2)	須恵器	大甕	4号土壙上面(接合)	Ⅶ層	内外面共,灰黄褐色(10YR6/2)		良	格子目タタキ後部分的にナデ	同心円文タタキ,一部ナデ	1㎜~2㎜の砂粒を少量含む.	体部の一部,残存が部分的であり,焼成時の歪みがみられる為傾き・上下不明,内面のタタキの状況からは(1)図,外面のタタキの状況と粘土の接合状況からは(2)図と考えられる.
90	土師器	坏	2号溝跡	上層一括	内外面共,にぶい黄橙色(10YR7/4)		良	口縁端部回転ナデ,他ナデ	回転ナデ	1㎜~2㎜の砂粒,赤褐色砂粒,雲母を含む.	1/6残存,復元口径13.1㎝,残存器高3.4㎝
91	土師器	甕	2号溝跡	上層一括	内外面共,浅黄橙色(10YR8/4)		良	口縁付近ヨコナデ,他タタキ後ナデ	口縁部から体部中央まで指頭圧痕ナデ,体部中央から欠損部までナデ後部分的に細いミガキ	0.5㎜程の砂粒,赤褐色砂粒を含む.	1/3残存,復元口径10.0㎝,残存器高3.9㎝,器面が摩耗しているため確定できないが,外面に磨きが施されている可能性がある.
92	土師器	不明	2号溝跡	上層一括	橙色(2.5YR6/6)	赤灰色(2.5YR5/1)	良	口縁部付近赤彩,口縁部から体部中央回転ナデ後粗いミガキ,以降ヘラけズリ後ナデ後粗いミガキ	ミガキ,体部中央黒斑有	1㎜~2㎜の砂粒を含む.	1/6残存,復元口径16.8㎝,残存器高3.8㎝
93	模倣土師器	高坏	2号溝跡	上層一括	内外共,黒褐色(7.5YR3/2)		普通	ナデ後粗いミガキ,黒斑有	ナデ後粗いミガキ	0.2~0.5㎜の砂粒を含む.	小破片,残存器高4.3㎝,底径6.0㎝,傾き不確実
94	模倣土師器	高坏	2号溝跡	上層一括	赤彩:明褐色(7.5YR5/6)		普通	ナデ後ヘラミガキ,赤彩	ナデ後ヘラミガキ,赤彩	1㎜程の砂粒を含む.	小破片,残存器高3.95㎝,傾き不確実
95	土師器	高坏	2号溝跡	上層一括	橙色(7.5YR7/6)	橙色(5YR6/8,4.0/5.5)	普通	赤彩	ヨコ方向のミガキ,欠損部回転ナデ	0.5~1㎜の砂粒及び赤褐色砂粒を含む.	残存,破片,残存器高3.8㎝
96	土師器	不明(口縁部)	2号溝跡	上層一括	内外面共,橙色(7.5YR6/6) 赤彩:明褐色(2.5YR5/8)		普通	回転ナデ,赤彩	回転ナデ,赤彩	0.5~1㎜の砂粒及び赤褐色砂粒を含む.	残存,小破片残存器高2.2㎝
97	土師器	坏	2号溝跡	上層一括	浅黄橙色(7.5YR8/4)	にぶい橙色(7.5YR7/4)	普通	欠損部から現存中央部にかけて回転ナデ,一部ナデ,底部ヘラ切り後ナデ	回転ナデ後ナデ	0.5~2㎜の砂粒及びカクセン石,雲母を含む.	1/4残存,復元口径9.3㎝,残存器高3.45㎝
98	須恵器	甕	2号溝跡	上層一括	内外面共,黄灰色(2.5Y5/1)		普通	回転ナデ,口縁端部薄く自然釉付着	回転ナデ,頸部ナデ	0.5~1㎜の砂粒を含む.	小破片,残存器高4.5㎝,傾き不確実,ロクロ回転方向不明
99	土師器	鉢	2号溝跡	上層一括	内外面共,灰褐色(7.5YR5/2)(顔料)		普通	ケズリ後工具による顔料塗付け	工具による顔料塗付け(前にミガキ状の調整痕有)	1~2㎜の砂粒,カクセン石を含む.	1/3残存,残存器高4.5㎝
100	土師器	甕	2号溝跡	上層一括	にぶい黄褐色(10YR6/4)	浅黄橙色(10YR8/4)	普通	口縁部ヨコナデ後一部ハケメ,以降欠損部までハケメ後ナデ,煤付着	くびれ部までヨコナデ,以降欠損部までヘラ切り後ナデ,口縁端部に赤彩	1~2㎜の砂粒,赤褐色砂粒,雲母,カクセン石を含む.	破片,残存器高4.75㎝
101	須恵器	高台付坏	2号溝跡	上層一括	内外面共,明黄褐色(10YR7/6)		良	底部まで回転ナデ,底部ナデ	回転ナデ後ナデ	0.5~1㎜の砂粒及び,赤褐色砂粒を含む.	高台から底部1/4残存,復元高台径8.2㎝,残存器高1.35㎝
102	須恵器	不明(脚部)	2号溝跡	上層一括	黄灰色(2.5Y4/1)	黄灰色(2.5Y5/1)	普通	欠損部付近ケズリ,他回転ナデ	回転ナデ	0.5~1㎜の砂粒を含む.	破片,残存器高3.55㎝,ロクロ回転右方向
103	須恵器	坏	2号溝跡	上層一括	内外面共,灰色(7.5Y6/1)		普通	回転ナデ,底部ナデ	回転ナデ	0.2~0.5㎜の砂粒を含む.	破片,残存器高2.6㎝
104	土師器	甕	2号溝跡	下層一括	褐灰色(7.5YR4/1)	黒灰色(7.5YR3/1)	普通	口縁中央部ヨコナデ,以下破損部までハケメ後ナデ	口縁部ハケメ後ヨコナデ,体部ヨコナデ	0.5~4㎜の砂粒,カクセン石を含む.	破片,残存器高6.15㎝
105	土師器	不明	2号溝跡	上層一括	にぶい橙色(7.5YR4/1)	浅黄橙色(7.5YR8/4)	普通	口縁部ヨコナデ,以降破損部までヨコナデ後ヨコナデ,口縁端部に沈線有	口縁部ハケメ後ナデ,体部上部一部ヘラケズリ後ナデ,体部中央から破損部までヘラケズリ後ナデ	1~3㎜の砂粒,カクセン石を多く含み,雲母も含む.	破片,残存器高9.25㎝
106	土師器	高坏	2号溝跡	下層一括	浅黄橙色(7.5YR8/3)~橙色(2.5YR7/6)	にぶい橙色(7.5YR7/4)	普通	口縁部から底部付近まで磨き,赤彩有,底部ヘラ削り後磨き,口縁端部煤付着	ミガキ	1~2㎜の砂粒,赤褐色砂粒を含む.	1/5残存,復元口径14.3㎝,残存器高2.55㎝
107	土師器	甕	2号溝跡	一括	内外面共,浅黄橙色(10YR8/2)		普通	口縁端部ヨコナデ,縁部からクビレ部までヨコナデ後ナデ,体部から欠損部ハケメ後ヨコナデ	口縁端部ヨコナデ,頸部までハケメ後ヨコナデ,以降欠損部までナデ,口縁端部に黒斑有	0.2~1㎜の砂粒,雲母を含み,小石を数粒含む.	破片,残存器高4.55㎝
108	土師器	甕	2号溝跡	下層一括	浅黄橙色(10YR8/4)	黒褐色(10YR3/2)~にぶい黄橙色(10YR6/3)	普通	口縁端部ヨコナデ,以降欠損部までハケメ後ヨコナデ	口縁部中央までヨコナデ,クビレ部ナデ,頸部から欠損部までヘラケズリ後ナデ	2~3㎜の砂粒,赤褐色砂粒を含む.	破片,残存器高4.85㎝

第8表　Ⅷ層及びⅨ層面出土遺物観察一覧表（6）

No.	種類	器種	出土位置	層	色調(外面)	色調(内面)	焼成	調整（外）	調整（内）	胎土	備考
109	土師器	鉢	2号溝跡	下層	内外面共,灰褐色(7.5YR4/2)		普通	口縁端部工具により顔料塗付,前にミガキ状の調整有,他工具により顔料塗付,前にミガキ状の調整有,部分的にミガキ状の調整有	工具により顔料塗付,前にミガキ状の調整有	1~2㎜の砂粒,カクセン石を含む.	1/3残存,復元口径13.7㎝,残存器高7.1㎝
110	土師器	甕	2号溝跡	下層一括	にぶい黄橙色(10YR7/3)	にぶい黄橙色(10YR7/3)	普通	口縁中央分までヨコナデ,クビレ部ヨコナデ後ナデ,以降欠損部までナデ,クビレ部に煤付着	高縁部ハケメ後ナデ,体部ヘラケズリ	1~2㎜の砂粒,カクセン石を含む.	1/5残存,復元口径23.2㎝,残存器高5.3㎝
111	土師器	甕	2号溝跡	一括	にぶい橙色(7.5YR7/4)	灰黄褐色(10YR6/2)	普通	ナデ,全体に煤付着	ヘラケズリ後ナデ	1㎜程の砂粒,雲母,カクセン石を含む.	体部1/6残存,復元口径21.6㎝,残存器高13.1㎝,傾き不確実
112	須恵器	坏	2号溝跡	下層一括	内外面共,淡黄色(7.5Y8/3)		普通	底部付近まで回転ナデ,ヘラキリ	クビレ部まで回転ナデ,底部回転ナデ後ナデ	0.5㎜程の砂粒を含む.	高台から底部全体,高台径9.0㎝,残存器高2.0㎝
113	瓦質土器(土師質土器)	不明	2号溝跡	トレンチ一括	浅黄橙色(10YR8/3),赤彩:明赤褐色(5YR5/8)	にぶい黄橙色(10YR6/4)	良	クビレ部から現存体部中央までヨコナデ,体部中央部から欠損部までハケメ後ナデ,全面に赤彩	ケズリ後ナデ,一部赤彩	0.5~2㎜の砂粒,赤褐色砂粒,雲母,カクセン石を含む.	破損,残存器高6.1㎝
114	須恵器	大甕	2号溝跡	上層一括	灰色(10Y6/1)	灰色(7.5YR5/1)	良	平行タタキ後,部分的にハケメ,一部自然釉付着	同心円分タタキ	0.5㎜程砂粒を若干含む.	破片,一部を欠損傾き上下等不明
115	土師器	坏	包含層No.188	Ⅷ層	にぶい橙色(7.5YR7/4)		普通	残存体部中央まで回転ナデ,底部までナデ,底部回転ヘラキリ後ナデ	回転ナデ後ナデ	0.5~1㎜の砂粒,赤褐色砂粒,カクセン石,雲母を含む.	底部のみ残存,底径10.0㎝,残存器高2.3㎝,
116	須恵器	坏	包含層No.429	Ⅷ層	内外面共,灰色(N5/0)		良	回転ナデ,残存底部ヘラキリ後ナデ	回転ナデ,残存底部回転ナデ後ナデ	0.5~1㎜の砂粒を含む.	1/6残存,復元口径13.4㎝,残存器高3.45㎝,歪んでいる
117	土師器	坏	包含層	一括	内外面共,にぶい橙色(7.5YR7/4)		普通	底部まで回転ナデ後部分的に回転ナデ,底部回転ヘラキリ後ナデ	底部まで回転ナデ,底部回転ナデ後ナデ	0.5~3㎜の砂粒,赤褐色の砂粒,雲母を含む.	2/3残存,復元口径5.8㎝,残存器高2.6㎝
118	土師器	坏	包含層	一括	にぶい黄橙色(10YR7/4)	黒色(10YR1.7/1)	普通	欠損部から底部付近回転ナデ,沈線有,底端部回転ナデ後ナデ,底部ナデ	回転ナデ後ナデ	1~2㎜の砂粒,赤褐色砂粒,雲母,カクセン石を含む.	1/3残存,残存器高2.1㎝
119	土師器	坏	包含層No.429	Ⅷ層	内外面共,橙色(7.5YR7/6)		普通	底部まで回転ナデ,底部ヘラキリ後ナデ,板状圧痕有	回転ナデ後ナデ	0.2~1㎜の砂粒,赤褐色の砂粒,雲母を含む.	底部~体部下半1/5残存
120	土師器	坏	包含層No.104 No.108	Ⅷ層	内外面共,浅黄橙色(10YR8/4)		普通	欠損部端部回転ナデ,以降底部までナデ	残存体部回転ナデ,底部回転ナデ後ナデ	0.5~1㎜の砂粒,赤褐色砂粒,雲母,カクセン石を含む.	底部1/3残存,底部一部残存,復元口径10.3㎝,残存器高2.7㎝
121	須恵器	高台付坏	包含層No.156	Ⅷ層	橙色(7.5YR6/6)	黄橙色(7.5YR7/8)	良	底部回転ナデ後部分的にナデ,体部端部ケズリ後ナデ,以降欠損部までナデ,クビレ部に煤付着	口縁部ハケメ後ナデ,体部ヘラケズリ	1~2㎜の砂粒,カクセン石を含む.	1/5残存,復元口径23.2㎝,残存器高5.3㎝
122	土師器	坏	包含層No.69 No.96	Ⅷ層	内外面共,橙色(7.5YR6/8)		普通	底部ヘラキリ後ナデ,他回転ナデ後ナデ	回転ナデ後ナデ	0.5~1㎜程の砂粒,赤褐色砂粒,雲母,カクセン石を含む.	体部1/3残存,復元口径9.7㎝,残存器高1.5㎝
123	須恵器	坏	包含層	Ⅷ層一括	内外面共,灰色(N6/0)		良	体部に沈線有,底部まで回転ナデ,底部接合面有,底部回転ナデ	現存体部から底部回転ナデ,底部回転ナデ後ナデ	0.5~2㎜の砂粒を含む.	1/4残存,残存器高2.2㎝
124	土師器	不明(口縁部)	包含層	Ⅷ層一括	内外面共,橙色(5YR7/6)		普通	摩耗のため調整不明	摩耗のため調整不明	0.5~1㎜の砂粒,赤褐色砂粒,雲母を含む.	小破片,残存器高2.2㎝,傾き不確実
125	土師器	不明(口縁部)	包含層No.329	Ⅷ層	内外面共,にぶい橙色(7.5YR7/4)		良	回転ナデ	回転ナデ	0.5~1㎜の砂粒,赤褐色砂粒を含む.	小破片,残存器高1.7㎝,傾き不確実
126	土師器	不明(口縁部)	包含層No.292	Ⅷ層	橙色(7.5YR7/6)	浅黄橙色(7.5YR8/6)	普通	摩耗のため調整不明	回転ナデ	0.2~0.5㎜の砂粒,赤褐色砂粒,カクセン石を含む.	小破片,残存器高3.5㎝,傾き不確実
127	土師器	不明(口縁部)	包含層No.399	Ⅷ層	内外面共,にぶい橙色(7.5YR7/4)		普通	摩耗のため調整不明	摩耗のため調整不明	1㎜の砂粒,赤褐色砂粒,カクセン石を含む.	小破片,残存器高3.0㎝,傾き不確実
128	土師器	坏	包含層No.278	Ⅷ層	にぶい橙色(7.5YR7/3)	にぶい橙色(7.5YR7/4),赤彩:橙色(2.5YR6/8)	普通	摩耗のため調整不明,赤彩	摩耗のため調整不明,赤彩	1㎜の砂粒,雲母,カクセン石を含む.	高台部から底部1/4残存,復元高台径11.4㎝,残存器高1.05㎝
129	土師器	不明(口縁部)	包含層No.513	Ⅷ層	内外面共,にぶい橙色(7.5YR7/4)		普通	摩耗のため調整不明	摩耗のため調整不明	0.5~1㎜の砂粒,赤褐色砂粒,雲母を含む.	小破片,残存器高2.5㎝,傾き不確実
130	磁器	碗	包含層	Ⅷ層一括	胎土,釉:パールホワイト(N8.5)			ケズリ	施釉		小破片,残存器高2.0㎝,復元口台径6.1㎝

第9表　　Ⅷ層出土遺物観察一覧表（7）

No.	種類	器種	出土位置	層	色調(外面)	色調(内面)	焼成	調整（外）	調整（内）	胎土	備考
131	模倣土師器	高坏	包含層No.90	Ⅷ層	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	褐色(7.5YR4/3)	普通	口縁部回転ナデ, 他回転ナデ後ヘラミガキ	口縁部回転ナデ, 他ヘラミガキ	0.2~0.5mmの砂粒及び赤褐色砂粒, 雲母を含む.	小破片, 残存器高3.8cm, 傾き不確実
132	土師器	高坏	包含層No.140	Ⅷ層	内外面共,にぶい橙色(7.0YR7/4)		普通	回転ナデ後部分的に ヘラミガキ, 摩耗の為調整不明箇所有	回転ナデ後部分的に ヘラミガキ	1mm程の砂粒及び赤褐色砂粒を含み,3~5mmの小石も数粒含む.	小破片,残存器高4.3cm, 傾き不確実
133	須恵器	坏	包含層No.290	Ⅷ層	黄灰色(2.5Y6/1)	灰白色(2.5Y7/1)	普通	回転ナデ	回転ナデ	1mm程の砂粒を含む.	小破片,残存器高3.6cm 傾き不確実, ロクロ回転方向右
134	模倣土師器	高坏	包含層No.479	Ⅷ層	にぶい橙色 (7.5YR5/3)	にぶい橙色 (7.5YR6/3)	普通	口縁部から現存体部中央付近まで回転ナデ後ヘラミガキ,体部欠損部付近ヘラケズリ後ヘラミガキ	回転ナデ後ヘラミガキ	0.5~1mmの砂粒及び赤褐色砂粒,,カクセン石, 雲母を含む.	小破片,残存器高4.25cm 傾き不確実,
135	土師器	甕	包含層No.119	Ⅷ層	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	浅黄橙色(10YR8/3)	普通	ヨコナデ	ヨコナデ	1~2mm程の砂粒及び赤褐色砂粒,カクセン石, 雲母を含む.	口縁の一部を欠損, 口径8.2cm, 底径5.9cm,器高1.9cm
136	土師器	甕	包含層No.106 3号竪穴 住居跡上層	Ⅷ層	にぶい黄橙色 (10YR5/3)	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	普通	ヨコナデ, 欠損部部近煤付着	ヨコナデ	1~2mm程の砂粒及び赤褐色砂粒,カクセン石, 雲母を含む.	破片,残存器高3.3cm, No.135と同一個 の可能性有
137	磁器(白磁)	碗	包含層No.4	Ⅷ層	胎土:スノウホワイト(N9.5) 釉　:パールホワイト(N9.5)			施釉	施釉		小破片,残存器高2.7cm, 傾き不確実
138	磁器(白磁)	碗	包含層No.236	Ⅷ層	胎土,釉:スノウホワイト(N9.5)			施釉	施釉		小破片,残存器高2.5cm, 傾き不確実,貫入有
139	磁器(白磁)	碗	包含層No.208	Ⅷ層	胎土,釉　:パールホワイト(N9.5)			施釉	施釉		小破片, 残存器高2.5cm, 傾き不確実
140	須恵器	坏	包含層No.408	Ⅷ層	内外面共,暗灰色(2.5Y5/2)		普通	回転ナデ	回転ナデ	0.5mm程の砂粒を含む.	小破片,残存器高2.8cm, 傾き不確実, ロクロ回転方向不明
141	須恵器	不明(口縁部)	包含層No.375	Ⅷ層	内外面共,黄灰色(2.5Y5/1)		不良	口縁部~現存体部中央下寄りまで回転ナデ後部分的にナデ,以降欠損部までヘラケズリ後ナデ	口縁部付近回転ナデ後部分的にナデ, 以降欠損部までナデ	0.5~1mmの砂粒及び赤褐色砂粒,カクセン石, 雲母を含む.	小破片,残存器高4.8cm, 傾き不確実, ロクロ回転方向不明
142	磁器(白磁)	碗	包含層No.196	Ⅷ層	胎土,釉:オイスター(5Y9.5/1.0)			施釉	施釉		小破片, 残存器高2.4cm, 傾き不確実
143	磁器(白磁)	碗	包含層No.263	Ⅷ層	胎土,釉:オイスター(5Y7.0/1.0)			施釉	施釉		小破片, 残存器高3.25cm, 傾き不確実
144	須恵器	坏	包含層	Ⅷ層 一括	灰色(5Y6/1)	灰色(7.5Y4/1)	普通	回転ナデ,自然釉付着	回転ナデ	1~2mmの砂粒を含む.	小破片, 残存器高1.9cm, ロクロ右回転
145	土師器	蓋(つまみ部)	包含層No.331	Ⅷ層	内外面共,橙色(7.5YR7/3) 赤彩:明赤褐色(2.5YR6/8)		普通	回転ナデ,赤彩	ナデ, 赤彩	1~2mmの砂粒, 赤褐色砂粒含む.	つまみ部のみ残存, 上部径3.6cm, 残存器高1.55cm
146	須恵器	甕	包含層No.464	Ⅷ層	黒褐色(10YR3/1)	灰色(10Y4/1)	普通	口縁部回転ナデ,沈線有, 体部カキ目	口縁部から体部中央下寄り回転ナデ,以降欠損部まで回転ナデ後ナデ	0.2~3mmの砂粒を含む.	破片,残存器高8.15cm, 傾き不確実, ロクロ回転不明
147	須恵器	蓋	包含層No.134	Ⅷ層	灰色(5Y4/1)	灰色(5Y5/1)	普通	上部のみナデ,他回転ナデ, 自然釉付着	回転ナデ, 欠損部付近ナデ	0.5~1mmの砂粒を含む.	小破片,残存器高1.65cm, 傾き不確実, ロクロ回転不明
148	土師器	蓋	包含層No.205, 206,209	Ⅷ層	内外面共,浅黄橙色(10YR8/4)		普通	つまみ上部摩耗,回転ナデ, 体部中央まで削り後回転ナデ, 体部中央から口縁部まで回転ナデ	口縁部から体部にかけて回転ナデ, 以降ナデ	0.5~2mmの砂粒, 赤褐色砂粒, 雲母を含む.	1/3残存, 復元口径16.7cm, 残存器高2.9cm
149	土師器	蓋	包含層No.51	Ⅷ層	内外面共,浅黄橙色(10YR8/3)		普通	回転ナデ,一部ケズリ後ナデ	回転ナデ, 一部ケズリ後ナデ	0.2~2mmの砂粒, 赤褐色砂粒,雲母, カクセン石を含む.	1/6残存, 復元口径17.0cm, 残存器高2.6cm
150	須恵器	蓋	包含層No.365, Ⅷ層一括	Ⅷ層	内外面共,灰白色(10Y8/1)		良	回転ナデ,一部ケズリ後ナデ	回転ナデ,一部ナデ	0.5~2mmの砂粒を含む.	1/6残存, 復元口径19.9cm, 残存器高1.75cm
151	須恵器	蓋	包含層	Ⅷ層 一括	内外面共,灰色(7.5Y5/1)		良	回転ナデ,上部ケズリ後一部ナデ,自然釉付着	回転ナデ,一部ナデ	1~2mmの砂粒を含む.	1/4残存, 復元口径13.4cm, 残存器高2.1cm
152	土師器	高坏	包含層No.474, 478,480	Ⅷ層	内外面共,にぶい橙色(5YR6/4)		普通	口縁端部摩耗,口縁部回転ナデ後粗いミガキ,黒斑有,体部ヘラケズリ後粗いミガキ	口縁端部摩耗,口縁部回転ナデ後粗いミガキ, 体部ナデ後粗いミガキ	1~2mmの砂粒, 赤褐色砂粒を含む.	1/4残存, 復元口径15.4cm, 残存器高5.9cm
153	土師器	不明	包含層No.80	Ⅷ層	浅黄橙色 (7.5YR8/4) ~橙色(5YR7/6)	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	良	上部欠損部から体部くびれ部まで回転ナデ後ナデ,3本の沈線,煤付着,他ナデ	上部欠損部から体部くびれ部まで回転ナデ, 他ナデ	1~2mmの砂粒, 赤褐色砂粒を含む.	底部から体部下方 1/3残存, 残存器高2.85cm
154	土師器	坏	包含層No.214	Ⅷ層	内外面共,にぶい橙色(7.5YR6/4)		普通	上部欠損部付近回転ナデ,沈線有,現存体部下部回転ナデ後ナデ,底部磨きヘラキリ後ナデ	回転ナデ後ナデ	1~2mmの砂粒, 赤褐色砂粒,雲母, カクセン石を含む.	1/4残存, 復元口径15.4cm, 残存器高5.9cm

第10表

Ⅷ層出土遺物観察一覧表（8）

No.	種類	器種	出土位置	層	色調(外面)	色調(内面)	焼成	調整（外）	調整（内）	胎土	備考
155	土師器	不明	包含層No.107	Ⅷ層	内外面共,にぶい橙色(7.5YR7/4)		普通	残存体部回転ナデ, 赤彩, 底部ヘラ切り後ナデ	残存体部回転ナデ, 赤彩,底部ナデ	0.5~1mmの砂粒,赤褐色砂粒,雲母を含み, 5mm程度の小石を含む.	底部1/4残存, 復元口径8.8cm, 残存器高2.35cm
156	須恵器	高坏(脚部)	包含層	Ⅷ層 一括	内外面共,灰色(5Y6/1~5Y5/1)		良	残存体部ナデ,自然釉付着, 全面回転ナデ,残存中央部しぼり痕有,沈線2本,自然釉付着	坏部から中央部までナデ, しぼり痕有,他回転ナデ	0.5mm程度の砂粒を含む.	脚部上部全体, 下部1/3残存, 残存器高8.6cm
157	須恵器	壺	包含層No.339	Ⅷ層	内外面共,オリーブ灰色(2.5GY6/1)		良	回転ナデ,底部中央ナデ, 欠損部から高台内面にかけて自然釉	底部付近まで回転ナデ, 底部回転ナデ後ナデ, 一部ナデ	0.1~1mmの砂粒,黒色のガラス質の粒を含む.	脚部~底部1/4残存, 復元口径1.15cm, 残存器高3.45cm
158	須恵器	甕	包含層No.148	Ⅷ層	褐灰色(10YR4/1)	灰黄褐色(10YR5/2)	普通	くびれ部から下部欠損部付近まで回転ナデ, 一部工具痕有, 下部欠損部付近カキ目後ナデ	くびれ部回転ナデ, 自然釉付着, 以下タタキ後回転ナデ	0.5~1mmの砂粒を含む.	口縁1/6残存, 復元口径13.2cm, 残存器高4.5cm, ロクロ回転方向不明
159	須恵器	壺	包含層No.475	Ⅷ層	内外面共,灰色(7.5Y5/1)~(5Y5/1)		良	回転ナデ,一部自然釉付着	回転ナデ	0.5~1mmの砂粒少量含み, 7mm程の小石も含む.	肩部付近1/6残存, 復元最大胴径17.6cm, 残存器高5.75cm
160	土師器	甕	包含層No.416	Ⅷ層	内外面共褐灰色(7.5YR4/1) ~にぶい橙色(5YR6/4)		普通	口縁端部摩耗, くびれ部までナデ, 体部上部ハケメ後ナデ, 以下剥離摩耗の為調整不明	口縁部ヨコナデ, 体部上方ナデ,工具痕有, 中央部ナデ,体部ヘラケズリ,工具痕有	1~4mmの砂粒, カクセン石を含む.	破片,残存器高9.2cm
161	土師器	甕	包含層	Ⅷ層 一括	黒褐色(7.5YR3/1)	口縁部:灰白色 (7.5YR8/2), 体部:灰褐色(7.5YR5/2)	普通	口縁部ヨコナデ, 体部ハケメ後ヨコナデ, 現存体部中央煤付着	口縁部から体部中央部までヨコナデ, 体部中央から欠損部までナデ, 指頭圧痕有	0.5~2mmの砂粒を含む.	破片,残存器高7.1cm
162	土師器	甕	包含層No.117	Ⅷ層	にぶい橙色 (7.5YR6/4) ~灰褐色(7.5YR4/2)	灰黄褐色(10YR4/2) ~にぶい黄橙色 (10YR6/3)	普通	口縁部ヨコナデ,煤付着, 以下欠損部までハケメ後ナデ	口縁部ハケメ後ナデ, 体部ヘラケズリ後ナデ, 一部黒斑点有	0.2~3mmの砂粒, カクセン石を含む.	破片,残存器高4.95cm
163	土師器	甕(把手)	包含層No.193	Ⅷ層	内外面共,橙色(7.5YR6/6)		普通	ナデ, 一部にハケメが見られる	ヘラケズリ	1~2mmの砂粒, 赤褐色砂粒を含む.	把手部のみ完形
164	土師器	甕(把手)	包含層No.164	Ⅷ層	内外面共,赤褐色:赤彩(2.5YR5/6)		普通	ナデ,赤彩	ナデ,赤彩	1~4mmの砂粒, カクセン石を含む.	把手部のみ, 端部の一部を欠損
165	土師器	甕(把手)	包含層No.61,65	Ⅷ層	明褐色(7.5YR5/6)	明赤褐色(5YR5/8)	普通	摩耗の為調整不明	ヘラケズリ	1~3mmの砂粒, 赤褐色砂粒,雲母, カクセン石を含む.	把手部のみ, 先端部を欠損
166	土師器	甕(把手)	包含層	Ⅷ層 一括	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	にぶい黄橙色 (10YR6/3)	普通	ナデ	ヘラケズリ	1~3mmの砂粒, カクセン石を含む.	把手のみ, 先端部を欠損
167	土師器	甕(把手)	包含層	Ⅷ層 一括	にぶい黄橙色 (10YR6/4)	明赤褐色(2.5YR5/2)	普通	ナデ,指頭圧痕,赤彩	削り	0.2~1mmの砂粒,雲母, カクセン石を含む.	把手部のみ残存
168	須恵器	甕(甑)	包含層	Ⅷ層	内外面共,橙色(7.5YR7/6)		良	口縁部付近回転ナデ,把手部上面体部タタキ(格子目)後ナデ,把手部ナデ(回転により沈線を施した後把手接着, 把手下部体部格子目タタキ後ナデ	回転ナデ, 体部中央指頭圧痕 (把手接着のため)	1~2mm程の砂粒, 赤褐色砂粒を含む.	口縁は一部, 体部1/5残存, 復元口径35.4cm, 現存器高2.25cm
169	土師器	甕(甑)	包含層No.510 一括	Ⅷ層	内外面共,浅黄橙色(7.5YR8/4)		良	現存上部体部から把手部付近ハケメ後ナデ,把手部ヘラケズリとナデ,下方ハケメ後ナデ	ヘラケズリ	1~2mmの砂粒及び 赤褐色砂粒, カクセン石を含む.	1/3現存,残存器高22.8cm, 甕本体の器形としては頸部径がやや大きくなり,体部からあまりすぼまらずに口縁が外へ開く形と推定される
170	土師器	鉢	包含層No.43 一括	Ⅷ層	にぶい黄橙色 (10YR6/3)	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	普通	口縁部付近回転ナデ·部分的ナデ,体部から底部にかけてハケメ,一部ハケメ後ケズリ, 全体に煤付着	口縁部付近回転ナデ, 体部上方ケズリ,体部中央から底部にかけてケズリ後ナデ	0.2~2mmの砂粒及び 赤褐色砂粒, カクセン石, 雲母を含む.	1/6残存, 復元口径25.9cm, 復元器高8.2cm
171	土師器	鉢	包含層No.9 No.46 一括	Ⅷ層	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	橙色(5YR7/6) ~にぶい黄橙色 (10YR6/3)	普通	口縁部から体下方まで回転ナデ,以降ハケメ, 全体に煤付着	口縁部から現存体部中央部まで回転ナデ, 以降ケズリ後ナデ	0.2~2mmの砂粒及び 赤褐色砂粒,雲母, カクセン石を含む.	1/6残存, 復元口径10.4cm, 復元口径24.5cm, 残存器高7.45cm
172	須恵器	大甕	包含層No.93	Ⅷ層	灰色(7.5YR4/1)	灰色(7.5YR5/1)	良	平行文タタキ(一部格子目タタキ)後ナデ, 全体に自然釉付着	同心円文(青海波文)タタキ, 薄く自然釉付着	0.5~2mmの砂粒を含む.	破片, 傾き上下等不確実
173	土師器	大甕	包含層	Ⅷ層 一括	灰色(7.5Y6/1)	灰色(10Y5/1)	良	平行文タタキ後ヨコカキ目	同心円文タタキ後ナデ	0.5~2mmの砂粒を少量含む.	破片, 傾き上下等不確実
174	土師器	坏	包含層	Ⅷ層 一括	内外面共,淡橙色(5YR8/4)		良	口縁部から体部下部まで回転ナデ,体部下部から付近回転ナデ後ナデ,工具痕跡有, 底部ロクロ右回転糸切り, 底部外側糸切り後荒くナデているが上の出張りが残る, 外面付着物有	回転ナデ,付着物有	1~2mmの砂粒及び 赤褐色砂粒を含む.	完形,口径9.8cm, 底径5.9cm, 器高2.45cm, 残存器高7.45cm

第11表　　Ⅷ層及び攪乱層出土遺物観察一覧表（9）

No.	種類	器種	出土位置	層	色調(外面)	色調(内面)	焼成	調整（外）	調整（内）	胎土	備考
175	土師器	坏	包含層	Ⅷ層一括	内外面共,にぶい橙色(5YR7/4)		普通	口縁部から体部下部にかけて回転ナデ,口縁部付近厚く煤付着,底部端部糸切り後のナデ調整が部分的な為粘土野出張りが残る.底部糸切り	回転ナデ,口縁部付近厚く煤付着	1㎜程の砂粒含む.	1/3残存,復元口径9.9㎝,復元底径6.4㎝,器高2.4㎝
176	土師器	甕(口縁部)	包含層	Ⅷ層一括	内外面共,にぶい橙色(10YR7/3)		普通	口縁端部摩耗の為調整不明,口縁部ヨコナデ,以降摩耗の為調整不明	口縁部摩耗の為調整不明,体部ヘラケズリ	0.5~3㎜程の砂粒及びカクセン石,雲母を多く含む.	破片,残存器高7.3㎝
177	須恵器	高坏	包含層	Ⅷ層一括	暗灰黄(2.5Y5/2)自然釉:オリーブ褐色(2.5Y4/1)	黄灰色(2.5Y4/1)	普通	回転ナデ,自然釉	ナデ	0.5㎜程の砂粒を含む.	小破片,残存器高3.7㎝,傾き不確実,ロクロ回転方向右
178	弥生土器	甕	包含層No551	Ⅷ層	外面から口縁内面黄橙色(7.5YR8/4)~橙色(7.5YR7/6)	にぶい黄橙色(10YR7/4)	良	口縁部から現存体部中央までヨコナデ,体部中央から欠損部までハケメ後ヨコナデ	口縁部ヨコナデ,体部ナデ	1~2㎜の砂粒,雲母,カクセン石を含む.	1/6残存,復元口径32.4㎝,残存器高6.55㎝
179	弥生土器	鉢	包含層No150,160,376	Ⅷ層	内外面共,にぶい黄橙色(10YR6/3)		普通	口縁付近ヨコナデ,体部ハケメ後ナデ,底部ナデ,体部中央から底部にかけて黒斑有	口縁部付近ヨコナデ,他摩耗の為調整不明	0.5~2㎜の砂粒,赤褐色砂粒,カクセン石,雲母を含む.	体部中腹約1/2以上1/4残存,復元口径17.6㎝,復元底径6.8~6.4㎝,器高10.1㎝,底面は楕円形を呈し,復元底径は幅がある
180	弥生土器	甕	包含層	Ⅷ層一括	橙色(7.5YR7/6)~(5YR7/8)	橙色(5YR7/8)	普通	口縁部ヨコナデ,体部上面ハケメ後ヨコナデ,以降体部中央付近から欠損部までハケメ後ナデ	口縁部ハケメ後ヨコナデ,体部ハケメ後ナデ	0.5~1㎜の砂粒,雲母,カクセン石を含む.	破片,残存器高8.1㎝
181	土師器	鉢	包含層No447	Ⅷ層	にぶい黄橙色(10YR6/4)	にぶい黄橙色(10YR6/3)	普通	ヨコナデ	ヨコナデ	0.5~2㎜の砂粒,雲母,カクセン石を含む.	1/6残存,復元口径10.8㎝,残存器高4.3㎝
182	須恵器	平瓶	包含層No309,351,352	Ⅷ層	灰褐色(5YR4/2)	赤褐色(5Y4/8)	良	頸部回転ナデ,胴部中央まで回転ナデ後ナデ,体部中央付近回転ナデ,胴部下部欠損部付近回転ナデ後ナデ	頸部回転ナデ,胴部上面付近ナデ,体部回転ナデ	0.5~1㎜の砂粒,カ赤褐色砂粒を含む.	復元最大胴径17.5㎝,頸部より上方は断面を切った部分の一部しか残存せず残存部の内面の状況と径によって推定復元を行っている.又,胴部については頸部接合時に傾き等が変わっているので胴部下半を上半の傾きにあわせ,上部は推定復元を行っている.
183	須恵器	壺	包含層	Ⅷ層	灰色(10Y6/1)	灰白色(7.5Y7/1)	良	胴部中央まで回転ナデ,烈点文,波状文,胴部中央付近削り後回転ナデ,以下欠損部まで回転ナデ	回転ナデ	0.5㎜程の砂粒と2~3㎜の黒色のガラス質の砂粒を含む.	体部上半2/3程残存,復元最大胴径16.5㎝,残存器高7.5㎝
236	須恵器	蓋	Ⅷ層No508	Ⅷ層	灰色(N6/0)	灰白色(2.5GY8/1)	普通	回転ナデ,摩耗のため調整不明	端部回転ナデ,天井部付近回転ナデ後ナデ	0.5~1㎜の砂粒を含む.	口縁部のごく一部を欠損する口径14.8㎝,器高2.9㎝
184	土師器	坏	不明土壙東側	攪乱	灰白色(10YR8/2)~灰黄褐色(10YR6/2)	灰白色(10YR7/1)	普通	回転ナデ,現存体部下部糸切り,口縁端部の一部に煤付着,体部中央部に黒斑有	回転ナデ	1㎜程の砂粒を含む.	口縁から体部1/4残存,復元口径10.0㎝,残存器高2.35㎝,ロクロ回転方向右
185	土師器	坏		攪乱	内外面共,にぶい橙色(7.5Y7/4)		普通	回転ナデ,体部下方欠損部付近ナデ	回転ナデ	1㎜程の砂粒,赤褐色砂粒を含む.	口縁~体部1/5残存
186	須恵器	坏		攪乱	内外面共,灰色(7.5YR6/1)		良	回転ナデ,底部中央ヘラ切り後ナデ	口縁部から体部回転ナデ,底部回転ナデ後ナデ	微細粒を含む.	高台の一部,底部1/4,体部以上の一部を残存,復元高台径9.7㎝,器高3.7㎝
187	白磁	碗	F-(-1)	攪乱	胎土,釉:パールホワイト(N8.5)		良	施釉,高台端部面取り,高台付近ケズリ,底部内面施釉	施釉	精砂粒	1/8残存,復元口径14.6㎝,復元底径8.2㎝,器高4.05㎝
188	染付	碗		攪乱	胎土:クリームイエロー(2Y9.0/6.0) 釉　:オイスター(5Y7.5/1.0) 染付:濃藍(3PB2.0/5.0)			ケズリ,高台端部面取り,施釉	施釉	精砂粒	1/8残存,復元口径14.6㎝,復元底径8.2㎝,器高4.05㎝
189	染付	碗	G-3	攪乱	胎土,釉:オイスター(5Y7.5/1.0) 染付:藍色(3PB3.5/5.5)			施釉染付	施釉染付		破片,傾き上下等不確実
190	染付	不明	A·B-3·4	攪乱	胎土:スノウホワイト(N9.5) 釉　:リリーホワイト(3G9.0/5.0) 染付:紺色(6PB2.0/5.0)			施釉染付	施釉染付		破片,傾き上下等不確実
191	土師器	坏	G-2	攪乱	にぶい橙色(5YR7/4)		普通	口縁部から体部下方まで回転ナデ,体部端部底部より回転ナデ後ナデ,底部外側糸切り後未調整のため粘土の出張りが残る.底部糸切り,体部煤付着	回転ナデ,口部から体部にかけて煤付着		

第12表

出土遺物観察一覧表（10）

No.	種類	器種	出土位置	層	色調(外面)	色調(内面)	焼成	調整（外）	調整（内）	胎土	備考
192	土師器	坏	F-(-1)	攪乱	にぶい橙色 (7.5YR7/4) ~にぶい褐色 (7.5YR6/3)	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	普通	口縁部回転ナデ,黒斑,煤付着,体部中央から下部回転ナデ後ナデ,底部ロクロ右回転糸切り	回転ナデ,付着物有,体部中央煤付着,底部中央部回転ナデ後ナデ	1~2㎜程の砂粒,赤褐色砂粒を含む.	2/3残存,口径8.0㎝,底径5.8㎝,器高1.9㎝
193	土師器	坏	不明土壙東側	攪乱	内外面共,橙色(2.5YR6/6) ~にぶい橙色(5YR7/4)		普通	口縁部付近回転ナデ,体部中央部から下部ケズリ後ナデ,底部端部糸切り後ナデ調整はみられるが粘土の出張り有,底部糸切り後部分的にナデ,ロクロ回転方向不明	回転ナデ,底部中央ナデ	1~2㎜程の砂粒,赤褐色砂粒を含む.	1/4残存,復元口径7.3㎝,復元底径4.7㎝,器高2.1㎝
194	模倣土師器	高坏	F-(-1)	攪乱	内外面共,にぶい褐色(7.5YR5/3)		普通	口縁から現存体部中央まで回転ナデ後ヘラミガキ,黒斑有,現存体部中央から欠損部までヘラケズリ後ヘラミガキ	回転ナデ後ヘラミガキ	0.5~1㎜の砂粒及び赤褐色砂粒,雲母を含む.	小破片,残存器高2.0㎝,傾き不確実,
195	土師器	坏		攪乱	内外面共,浅黄橙色(7.5YR8/6)		普通	上欠損部付近回転ナデ,体部下部ナデ,底部ヘラ切り後ナデ,工具痕有	回転ナデ	0.5~1㎜の砂粒及び赤褐色砂粒,雲母を含む.	1/6残存,復元口径25.9㎝,復元器高8.2㎝
196	瓦質土器	火鉢	A·B-3·4	攪乱	内外面共,にぶい橙色(5YR6/4)		良	口縁上部ヨコナデ,端部煤付着,体部突帯文上面までケズリ後ナデ,文様有,以降欠損部までヨコナデ	突帯文裏面付近までヨコナデ煤付着,以降ナデ	0.5~1㎜の砂粒及び赤褐色砂粒を含む.	破片,残存器高5.6㎝
197	須恵器	甕	H-3	攪乱	内外面共,黄灰色(2.5YR5/1)		普通	口縁部上方回転ナデ,以降欠損部まで回転ナデ後ナデ	口縁部付近回転ナデ,自然釉有,頸部ナデ	0.5~1㎜の砂粒を含む.	1/6残存,復元口径13.2㎝,残存器高4.5㎝,ロクロ回転方向不明
198	瓦質土器	擂り鉢	A	攪乱	内外面共,灰白色(10YR8/2)		普通	ナデ,体部黒斑有,底部赤彩	ナデ,部分的に剥離しており調整不明箇所有,体部中央付近黒斑有,残存全面に擂り目	1~2㎜の砂粒を含む.	1/6残存,復元口径15.2㎝,残存器高6.3㎝,
199	瓦質土器	擂り鉢	G-2	攪乱	内外面共,灰白色(2.5GY2/1)		良	口縁部付近ヨコナデ,以降破損部までナデ	口縁部付近ヨコナデ,以降破損部までナデ,擂り目	2~3㎜の砂粒を含む.	破片,残存器高9.5㎝
200	瓦質土器	擂り鉢		攪乱	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	普通	口縁部付近回転ナデ,以降欠損部までナデ	口縁部付近回転ナデ,以降破損部まで一定方向のナデ,破損部上面擂り目	0.5~2㎜の砂粒を含む.	小破片,残存器高4.6㎝,傾き不確実
201	瓦質土器	擂り鉢		攪乱	内外面共,にぶい黄褐色(10YR6/3)		普通	櫛描き文様,底部ナデ	回転ナデ後ナデ	1㎜程の砂粒を含む.	小破片,残存器高5.8㎝,内外面に黒斑有
202	瓦質土器	擂り鉢		攪乱	内外面共,灰色(5YR5/1)		普通	口縁部付近回転ナデ,現存体部中央から欠損部までケズリ後ナデ	ナデ,擂り目	0.5~1㎜の砂粒,雲母,カクセン石を含む.	破片,残存器高4.7㎝
203	瓦質土器	擂り鉢		攪乱	内外面共,灰色(7.5Y6/1)		良	ナデ,	擂り目,煤付着	1㎜程の砂粒を含む.	破片,傾き等不確実
204	須恵器	大甕		攪乱	内外面共,灰色(10Y4/1)		良	平行文タタキ後ナデ,自然釉付着	同心円文タタキ後部分的にナデ	0.5~1㎜の砂粒を含む.	破片,傾き等不確実
205	土師器	坏		攪乱	にぶい褐色 (7.5YR6/3~5/3)	黒褐色(7.5YR3/1)	普通	残存体部上方回転ナデ,下方工具ナデ,底部ロクロ右回転,糸切り,一箇所細かい工具痕有(推定ヘラ記号),黒斑有	回転ナデ,底面工具痕有,黒斑有	1㎜程の砂粒,赤褐色砂粒を含む.	底部から体部下半残存,底径7.4㎝,残存器高1.85㎝
206	須恵器	坏		攪乱	灰(7.5Y6/1)~白色(7.5Y8/1)	灰色(10Y6/1)	良	高台痕跡付近まで回転ナデ,底部ヘラキリ後ナデ,一部回転ナデ	欠損部付近回転ナデ,他底面まで回転ナデ後ナデ	0.5㎜の砂粒を含む.	1/2残存,残存器高2.55㎝
207	染付	碗		攪乱	胎土:アイボリーホワイト(5Y9.0/1.0) 釉　:リーリーホワイト(3G9.0/1.0) 染付:紺色(6PB2.0/5.5)			施釉	施釉	精砂粒	1/8残存,復元口径11.9㎝,残存器高4.9㎝

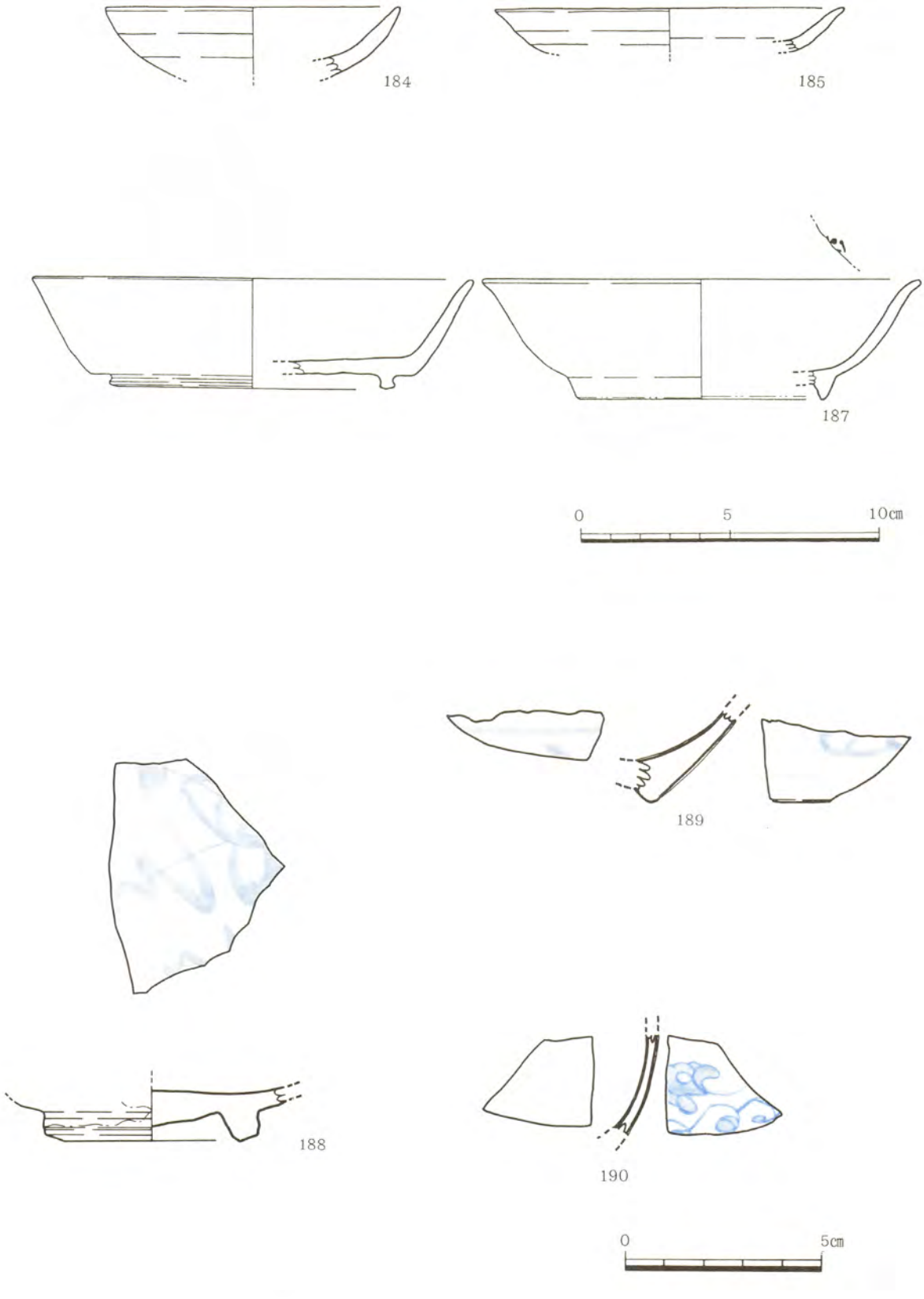
第13表　Ⅸ層面出土遺物観察一覧表（鉄器２）

No.	種類	出土位置	層	法量	特徴	備考	No.	種類	出土位置	層	法量	特徴	備考
231	馬具	D-1・2	Ⅷ層 一括	長さ 3.00cm(縦) 幅 3.50cm(横) 厚み 0.40cm			232	鉄鎌	4号竪穴 住居跡 （Ⅸ層面）	埋土 下層 一括	長さ 2.70cm 幅 1.05cm 厚み 0.25cm	断面角形	完形

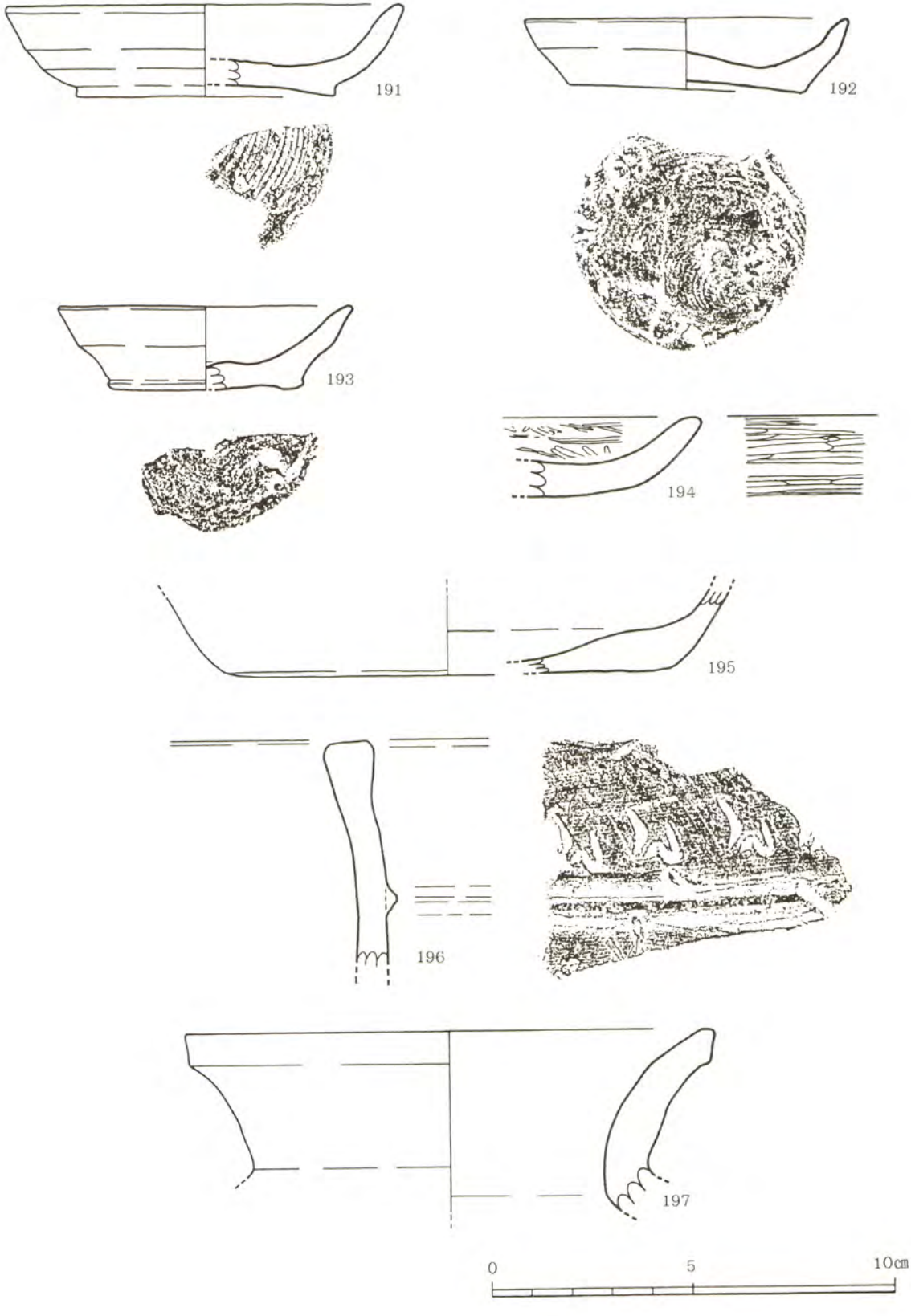
第14表　Ⅸ層面出土遺物観察一覧表（石器）

No.	種類	出土位置	層	法量	特徴	備考	No.	種類	出土位置	層	法量	特徴	備考
233	石鏃	包含層 No.441	Ⅶ層	全長 2.50cm 全幅 1.70cm 厚み 0.30cm	片側脚部先端部を欠損.二等辺三角形状で測辺が先端近くで内湾気味になり先端を強く尖らす	調査中の1点のみ出土 石材 黒曜石							
234	石斧		Ⅳ層 下層	全長 7.20cm 全幅 4.05cm 厚み 1.20cm 重量 208g	基部欠損 装着痕有	石材 蚊文石							
235	摺石		Ⅴ層 一括	全長 9.80cm 全幅 7.60cm 厚み 3.30cm 重量 208g	両面とも摺られているが.表面は2段に摺られている.又側面は片側のみである.上端部に凹があり摺った痕跡がある.（或いは敲打痕跡）	石材 砂岩							

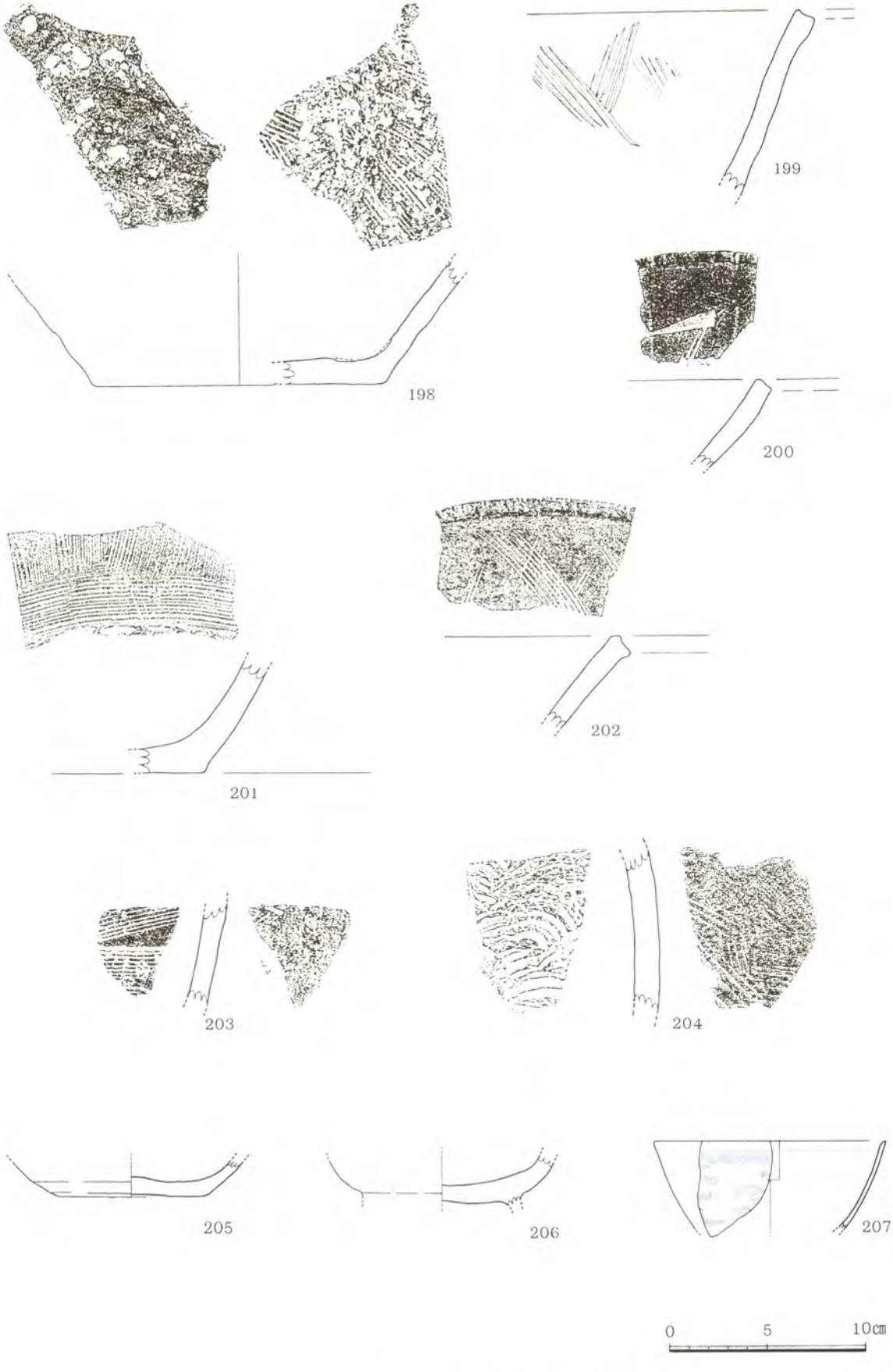
第５節　攪乱層からの遺物



第64図　攪乱層からの遺物実測図（１）



第65図　攪乱層からの遺物実測図（２）



第66図　攪乱層からの遺物実測図（3）

第Ⅳ章　総括

この発掘調査は、町道内牧線改良工事に伴い、計画路線内にある内牧城及びその下層の調査を行ったものである。今回の調査で検出された遺構は次のとおりである。

基本土層Ⅳ層のⅣ層では整地層、Ⅴ層面では、整地層に伴うと思われる戦国時代の掘立柱建物群及び土壙群、Ⅸ層面では竪穴住居並びに掘立柱建物等の平安時代の集落跡である。

1．Ⅳ層整地層について

基本土層のⅣ層に値する。直上まで攪乱が及んでおり、今回検出したレベルは一部削平されたものであることが窺える。平面的な範囲も攪乱をうけ、消失してしまったのか不明である。今回は調査区南側のみの検出であったが、Ⅴ層面の遺構の埋土が整地層に類似していること及びⅤ層面が砂質土のため地盤を安定させるために整地を行ったのではないかと推測できる。当初この整地跡は参勤交代道に付随する内牧御茶屋のものと考えられていた。確かに内牧御茶屋に大杉があったことは写真等の記録に残っており、調査区南端部に樹根と思われる攪乱部を確認したが、江戸期の遺物の出土が見られなかったため、Ⅴ層面の遺構に伴う整地層ではないかと推定できる。

2．Ⅴ層面の遺構群について

Ⅴ層面に掘立柱建跡を６棟検出した。柱穴内から建設時期を窺える遺物の出土がないため、時期を明確にはできないが、柱穴の埋土は種類あり、断定はできないが建物群は２時期存在すると思われる。本書では各掘立柱建物を通常プランとして掲載したが、主軸が直交するもの等は複合する建物も存在したのではとも考察できる。６棟の建物には全て礎石及びその痕跡は見られなかった。

検出した土壙群で特に注目すべきは不明土壙である。掘り下げ時に埋土下層には木片や竹片も少量含まれており、他の土壙の埋土にも言えるが中層から下層にかけて、移植ゴテも立たない程の鉄分の沈澱がみられる。この土壙は大型であり、遺物も今回の調査中最も集中して土師器の坏及び陶磁器等が出土している。過去の調査例では墓壙，地下式土壙，地下式倉庫等が考えられるが性格は不明である。

17号土壙は井戸跡の可能性がある。井戸枠等の痕跡はみられなかったが、当時なら十分に水が湧く掘り込みのレベルだと想定できる。外部に土壙に伴うと思われる柱穴が存在しており、土壙本体に何らかの形で関係していたと思われる。この他11号・15号土壙は平行に位置し両者共掘り込みが類似しており、２段掘り内の柱穴状掘り込みの径がほぼ等しいことから、門柱とも推測できる。

不明焼土遺構は断面から溝状になっていることが窺えるが、埋土に多量の焼土，灰，炭が体積している。これはⅣ層整地層及びⅤ層面の全遺構に焼土が混入しており火災があったことが窺える。遺構と遺物また火災と遺構群について今後検討の余地がある。また、遺構群の配置を見渡すと調査区の南東部に遺構の集中がみられ、本体は阿蘇町児童館跡下部と推定できる。今回調査した遺構群は戦国期の内牧城跡に付随する施設、または本体の一部である可能性が高い。現町立体育館が内牧城二の丸跡であるが、開発時に破壊されており内牧城跡の全貌は不明のままである。また、内牧御茶屋も同じく発掘調査により現在残る絵図をもとに復元を期待したが、結果は攪乱されていた様であり、推定ではあるが台風で倒木したという大杉の跡の確認が、残念ながら調査結果となる。

3. Ⅴ層出土遺物について

Ⅴ層面及び遺構から土師器の坏の出土が目立つが、法量等一定の規格性がみられる。まず口径に大きなバラツキはなく、①9㎝未満，②10㎝未満，③10㎝弱のもの、器高も①2㎝未満，②2㎝以上のものというグループに分けることができる。また形態的にみても底部が、①上げ底，②平底，③平底で断面が厚いものという特徴があり、土壙内からの一括資料としても貴重な遺物を得ることが出来た（第15表）。

陶磁器については、不明土壙から出土した美濃焼の灰釉皿は15～16世紀代のものと推定される。またその他Ⅴ層面及び遺構から出土している染付の碗は明代の輸入陶器であり、白磁も16世紀代のもので、県内では熊本市二本木遺跡（第6次），人吉城跡等からも出土している。この様なことから、陶磁器で大まかな年代を探ると戦国期に値し、遺物の混入もみられるがその他の遺物に関しても、ほぼ同時期と思われる。

時間的都合もあり深く煮詰めることができなかったが、他に出土した瓦質土器と併せて今後遺物の検討を進めたい。

4．Ⅸ層面の遺構について

竪穴住居跡は計8棟確認したが、いずれも住居跡どうしの切り合いまたは、攪乱をうけ完全なプランで検出することはできなかった。また硬化面も確認できずⅩ層並びにⅪ層をそのまま床面としている。

掘立柱建物跡は、4棟確認したが、特記すべきは6・7号竪穴住居跡及び7号掘立柱建物跡でる。6・7号竪穴住居跡の新旧関係は定かではないが、検出した6号竪穴住居跡の一辺が他の竪穴住居跡の約2倍の規模を持ち、7掘立柱建物跡に切られている。7掘立柱建物跡も検出した掘立柱建物群の中で柱穴もしっかりしており、集落跡の中心にあったことが窺える。残念なことに6・7号竪穴住居跡及び7号掘立柱建物跡の南東側を攪乱されており詳細を明らかにすることができない。しかし、調査区南側の東寄りに柱穴群が集中しており、Ⅴ層面と同じく調査区外に遺構の展開がみられることであろう。

土壙群の中では4・6号土壙が焼土を伴っている。包含層掘り下げの時点で焼土が見えはじめ下部に遺構があることを確信したが、土壙を取り巻く形で焼土が分布しており、土壙下部まで至らず中層から下層の間で無くなっており、性格が不明である。

また、4号竪穴住居跡内に弥生式土器を伴う土壙がある。これは包含層中に弥生及び古墳時代の土器が混入していることから遺構の存在もあり得ることであるが、4号竪穴住居跡を調査中、土壙上面の遺物を取り上げた時点で気が付いた。しかし、遺構の埋土に主として弥生時代の遺物が出土したのはこの土壙の一例のみである。

調査区北側に本書では2号溝として扱っている遺構が存在するが、拡張前の調査区では段落ちとなり、北側を攪乱されていたので遺構を把握することができなかったので、当初は区画溝であると推定した。しかし調査区の拡張に伴い西側を調査したが、掘り下げを進めても高さが近接の古川のレベルに近づき、水が湧き底面を検出することができず、北側縁部を確認することもできなかった。これは旧河川とも考えられるが詳細は不明である。

5．Ⅷ層（包含層）出土の遺物について

Ⅷ層遺物出土状況は、非常に明確であり下部（Ⅸ層面）に遺構が存在する場合にのみ密集して出土する。Ⅸ層に遺構が存在しないグリッドには、全くと言っていい程遺物は出土しない。調査区内では竪穴住居跡上

第15表　　Ⅴ層出土土師器（坏）計測表

No.	掲載番号	出土位置	口　径（cm）	底　径（cm）	器　高（cm）	特　　徴
1	10	1号溝跡	10.30（復元）	6.30（復元）	1.95	平底（推）
2	13	不明焼土遺構	8.30（復元）	4.90	2.45	平底，断面厚
3	16	不明焼土遺構	8.20（復元）	5.80（復元）	1.70	不明
4	17	不明焼土遺構	8.30（復元）	4.90	2.45	平底，断面厚
5	18	不明焼土遺構	8.50	4.45	1.90	平底，断面厚
6	19	不明焼土遺構	10.20～10.60	6.10～10.60	2.50	平底
7	20	不明焼土遺構	10.35	3.80	2.25	やや上げ底
8	27	不明土壙	8.20（復元）	5.80（復元）	1.60	不明
9	28	不明土壙	7.70（復元）	5.20（復元）	1.70	平底（推定）
10	29	不明土壙	10.40（復元）	7.60（復元）	2.20	不明
11	30	不明土壙	8.20（復元）	6.90	1.85	平底
12	31	不明土壙	10.30（復元）	6.45（復元）	2.50	平底
13	32	不明土壙	8.90（復元）	5.30（復元）	2.20	不明
14	33	不明土壙	10.30（復元）	7.00	2.30	平底，断面厚
15	34	不明土壙	10.00	6.15	2.30	平底，断面厚
16	35	不明土壙	11.60	7.35	2.35	平底，断面厚
17	36	不明土壙	9.90	6.10	2.25	平底
18	37	不明土壙	10.10	6.20	2.15	平底
19	38	不明土壙	8.20（復元）	5.90（復元）	1.90	平底，断面厚
20	39	不明土壙	10.80（復元）	7.20（復元）	1.90	平底
21	40	不明土壙	10.20（復元）	7.80（復元）	2.20	平底（推定）
22	41	不明土壙	9.90（復元）	5.70（復元）	2.05	上げ底
23	52	1号土壙	10.40	6.80	2.10	平底
24	53	1号土壙	9.90（復元）	7.80（復元）	1.90	平底
25	59	17号土壙	9.30	6.70	2.90	平底
26	63	21号土壙	9.30（復元）	6.00（復元）	2.40	上げ底
27	65	Ⅴ層一括	8.70（復元）	6.40（復元）	1.45	やや上げ底，断面厚
28	66	Ⅴ層一括	9.70（復元）	6.80（復元）	2.20	不明
29	192	攪乱	8.00	5.80	1.90	やや上げ底，断面
30	191	攪乱	9.90（復元）	6.40（復元）	2.30	やや上げ底
31	193	攪乱	7.30	4.90	2.10	平底，断面厚

面及び調査区南側の柱穴群上面に特に集中していた。全体的に破片及び小破片が多く実測可能なもののみ本書に掲載した。

出土遺物は6世紀代からはじまり，7世紀前半，7世紀後半から8世紀後半のもの、9世紀代と時期に幅があり、土師器，須恵器，白磁が出土している。鉄器も馬具が1点出土している。

また包含層の中に縄文時代の石鏃、弥生時代と思われる石斧，磨石の石器3点、及び弥生後期と思われる鉢・甕，古墳時代5世紀代の須恵器の壺，横瓶等が混入して出土した。

今回出土した遺構・遺物については今後更に検討を加えて機会をみて考察を行いたい。

主要参考文献一覧

(1) 江本　直　「熊本県旧石器時代調査報告書」　熊本県教育委員会
(2) 島津義昭他　「えとのす　22　特集・阿蘇／海と山と里の文化」　新日本教育図書株式会社
(3) 島津義昭他　「新・阿蘇学」　熊本日日新聞社
(4) 荒木精之　「阿蘇」　第4回県民文化祭阿蘇実行委員会
(5) 島津義昭他　「角川日本地名大辞典　43　熊本県」　角川書店
(6) 清田純一　「陣内遺跡」　阿蘇町教育委員会
(7) 緒方　勉　「宮山遺跡」　阿蘇町教育委員会
(8) 熊本大学　「阿蘇町塔ノ木古墳群ドンベ塚／阿蘇町御塚横穴群A・B穴」　熊大考古学研究室
(9) 島津義昭・高谷和生　「下山西遺跡」　熊本県教育委員会
(10) 島津義昭　「古坊中」　熊本県教育委員会
(11) 木崎康弘他　「狩尾遺跡群」　熊本県教育委員会
(12) 吉田正一　「池田遺跡」　熊本県教育委員会
(13) 大田幸博他　「熊本県の中世城跡」　熊本県教育委員会
(14) 岡本貞次他　「熊本県歴史の道調査－豊後街道－」　熊本県教育委員会
(15) 島津義昭　「史料　阿蘇　第1・2集」　阿蘇町教育委員会
(16) 今村歳親他　「夜豆志呂～八代の郷土史　72号（冬の号）」
(17) 西ヶ谷恭弘他　「日本城郭大辞典」　秋田書店
(18) 北條暉幸　「中近世切創ある二頭骨（阿蘇内牧城跡出土）」
(19) 鋤柄俊夫他　「中近世土器の基礎研究Ⅵ」　日本中世土器研究会
(20) 尾上　実他　「中近世土器の基礎研究Ⅷ」　日本中世土器研究会
(21) 橋本久和他　「中近世土器の基礎研究Ⅹ」　日本中世土器研究会
(22) 高木正文　「平原野中遺跡」　熊本県教育委員会
(23) 田口昭二　「考古学ライブラリー　17　美濃焼」　ニューサイエンス社
(24) 井上喜久男他　「貿易陶磁研究　№7」　日本貿易陶磁研究会
(25) 愛知県陶磁資料館　「企画展　城下町のやきもの－清州・名古屋の出土品」
(26) 九州陶磁資料館　「国内出土の肥前陶磁」
(27) 松本健郎　「生産遺跡基本調査報告書Ⅱ」　熊本県教育委員会
(28) 鶴島俊彦　「人吉城跡」　人吉市教育委員会
(29) 網田龍生　「大江遺跡Ⅱ」　熊本市教育委員会

図　　版

図版 1

旧調査区
Ⅴ層面全景

南から

整地層断面
及びⅤ層遺構検出状況

北西から

1 号溝跡
5 . 10号堀立柱建物跡

北から

図版２

旧調査区堀
立柱建物跡群

東から

１号堀立柱建物跡

東から

２号堀立柱建物跡
２号土壙

西から

図版３

1 号土壙

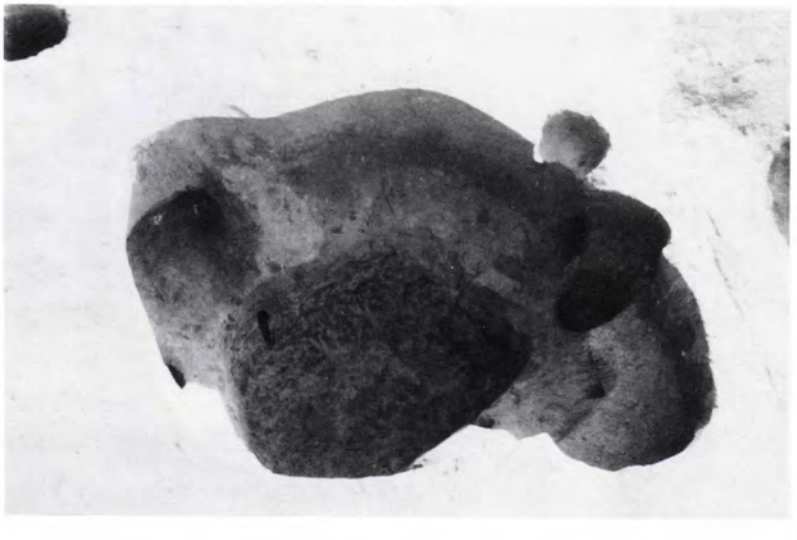
西から

17号土壙

北から

17号土壙

西から



図版４

不明土壙
土層断面

東から

不明土壙

西から

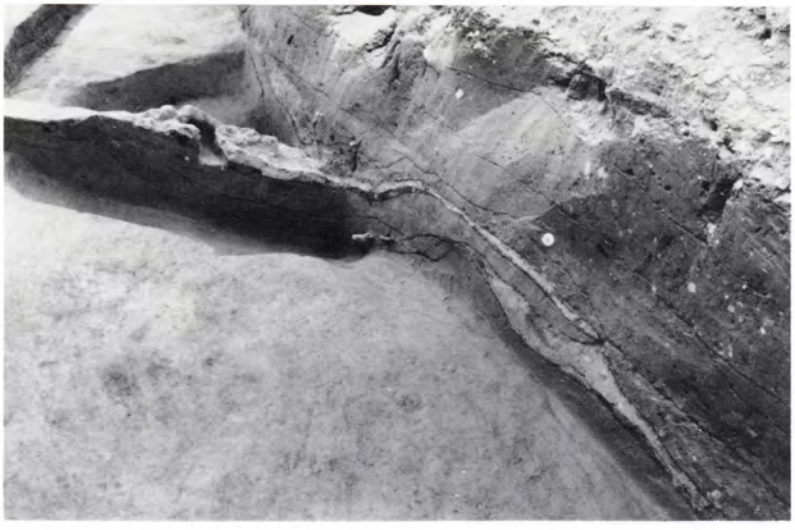
不明土壙

北から

図版5

不明焼土遺構内
24号土壙
土層断面

北東から



不明焼土遺構内
24号土壙
石臼出土状況

東から

不明焼土遺構内
土壙群

北から

図版6

不明焼土遺構
及び24号土壙
土層断面

南東から

不明焼土遺構
全体

東から

作業風景

南から

図版７

旧調査区
Ⅷ層（包含層）遺
物出土状況

北から

Ⅷ層（包含層）
須恵器出土状況

旧調査区Ⅸ面全景

北から

図版８

旧調査区Ⅸ
層面全景

南から

仮設道路部
（調査区拡張部）
Ⅸ層面全景

北東から

仮設道路部
（調査区拡張部）
Ⅸ層面全景

南西から

図版９

１.４号竪穴住居跡

東から

１号竪穴住居跡内
カマド土層断面

南西から

４号竪穴住居跡内
土壙上面遺物出土状況

北から

図版10

2号竪穴住居跡

東から

3号竪穴住居跡

南から

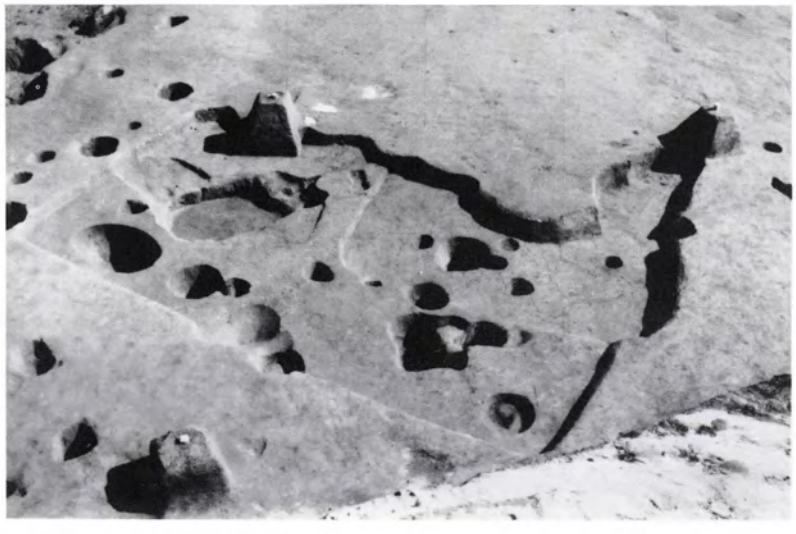
3号竪穴住居跡

西から

図版11

６・７号竪穴住居跡

西から



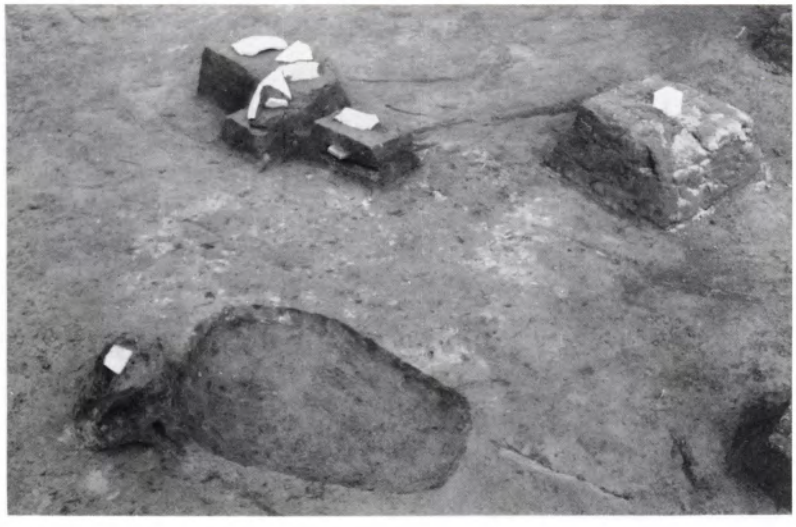
６・７号竪穴住居跡
及び７号堀立柱建物跡

北東から

８号竪穴住居跡

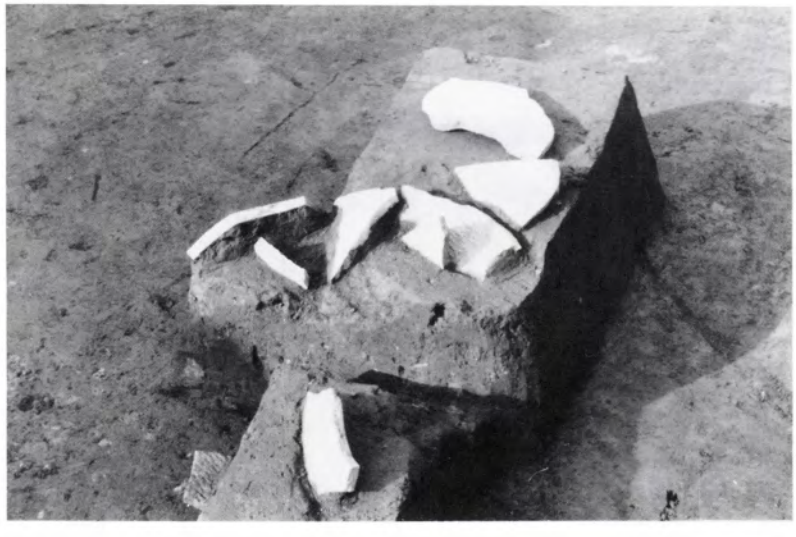
西から

図版12



４号土壙上面
須恵器
出土状況

西から



４号土壙上面
須恵器
出土状況

南から

４号土壙検出状況

南東から

図版13

４号土壙

南から

６号土壙検出状況

南から

６号土壙

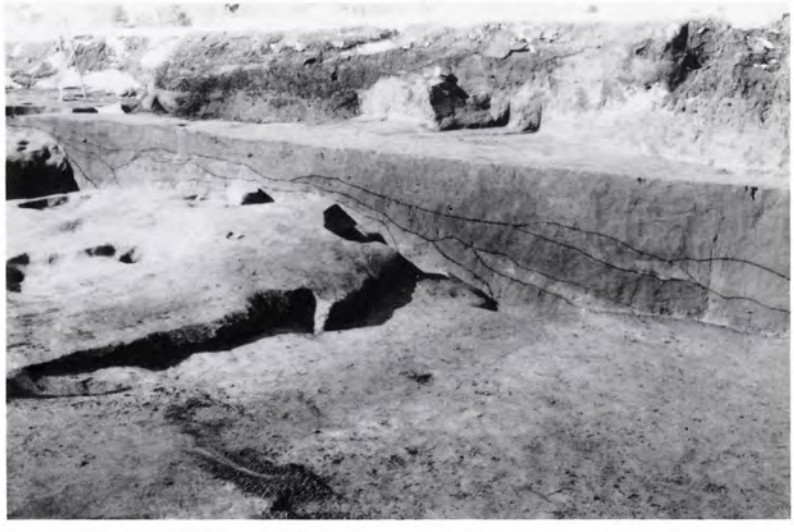
南から

図版14

旧調査区
２号溝跡

東から

作業風景



仮設道路部
（調査区拡張部）
２号溝跡土層断面

北東から

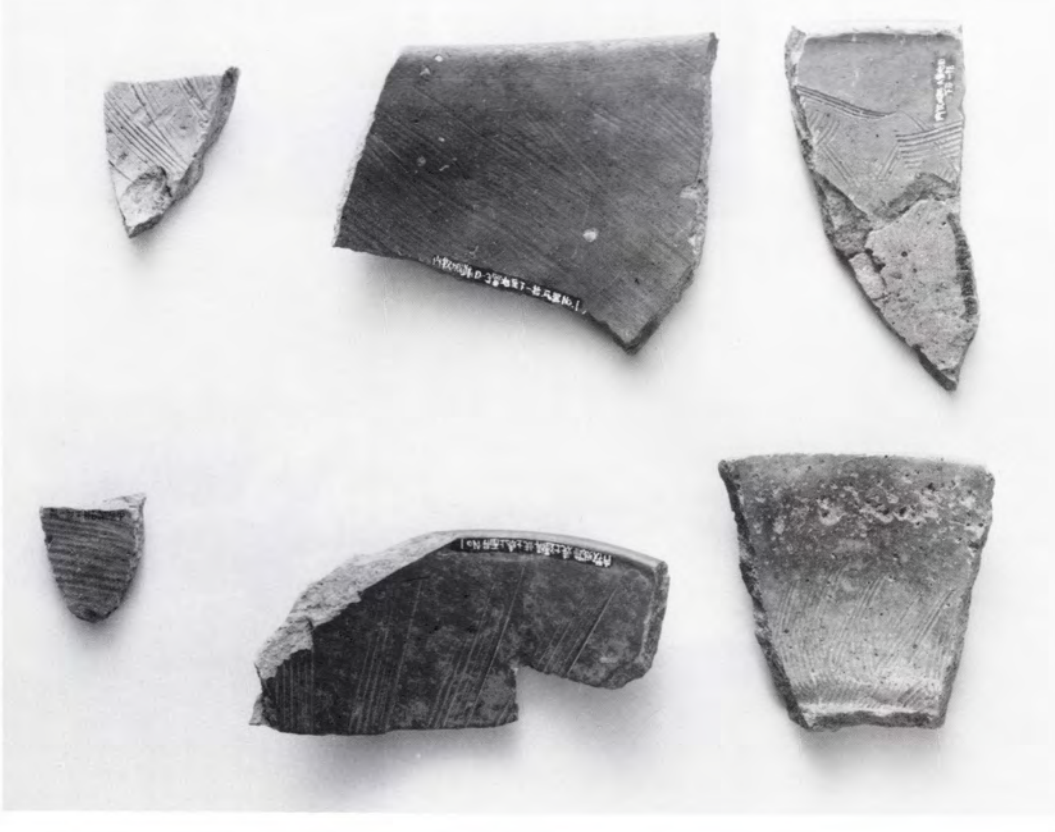
図版15

仮設道路部
（調査区拡張部）
２号溝跡近景
南東から

仮設道路部
（調査区拡張部）
２号溝跡近景
東から

作業風景

図版16　Ⅴ層面瓦質土器（擂り鉢他）

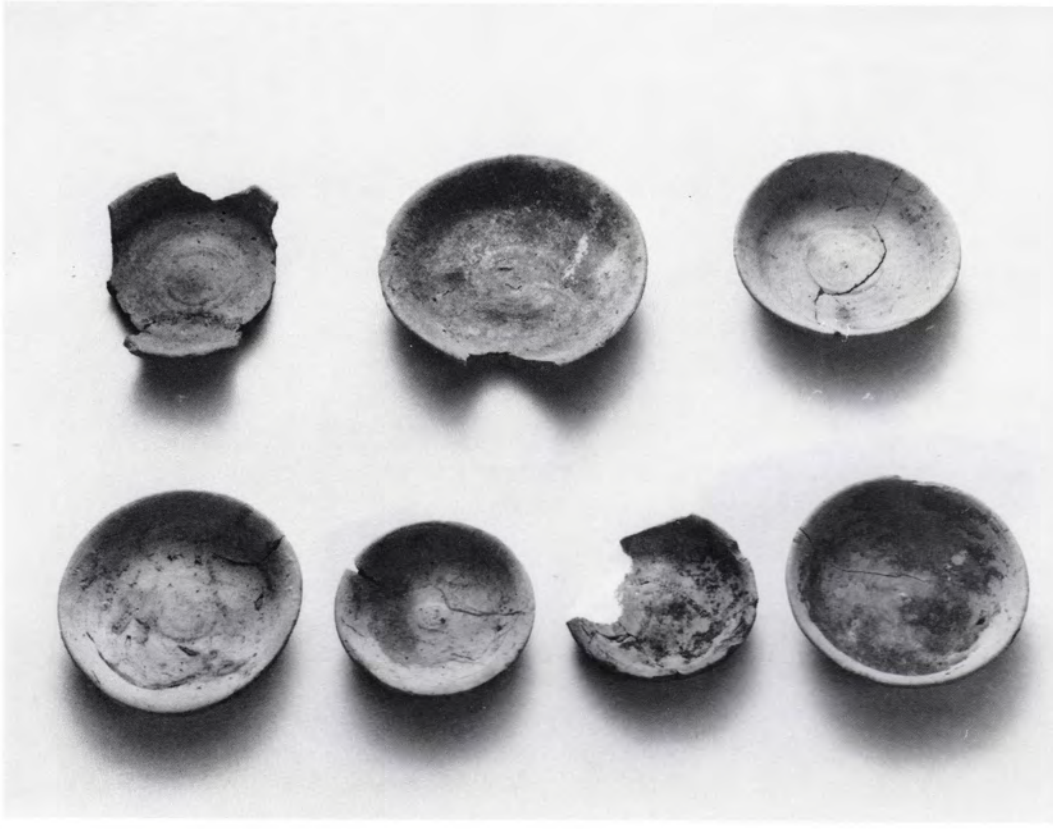


図版17　Ⅴ層面土師器（坏類）下段　陶磁器

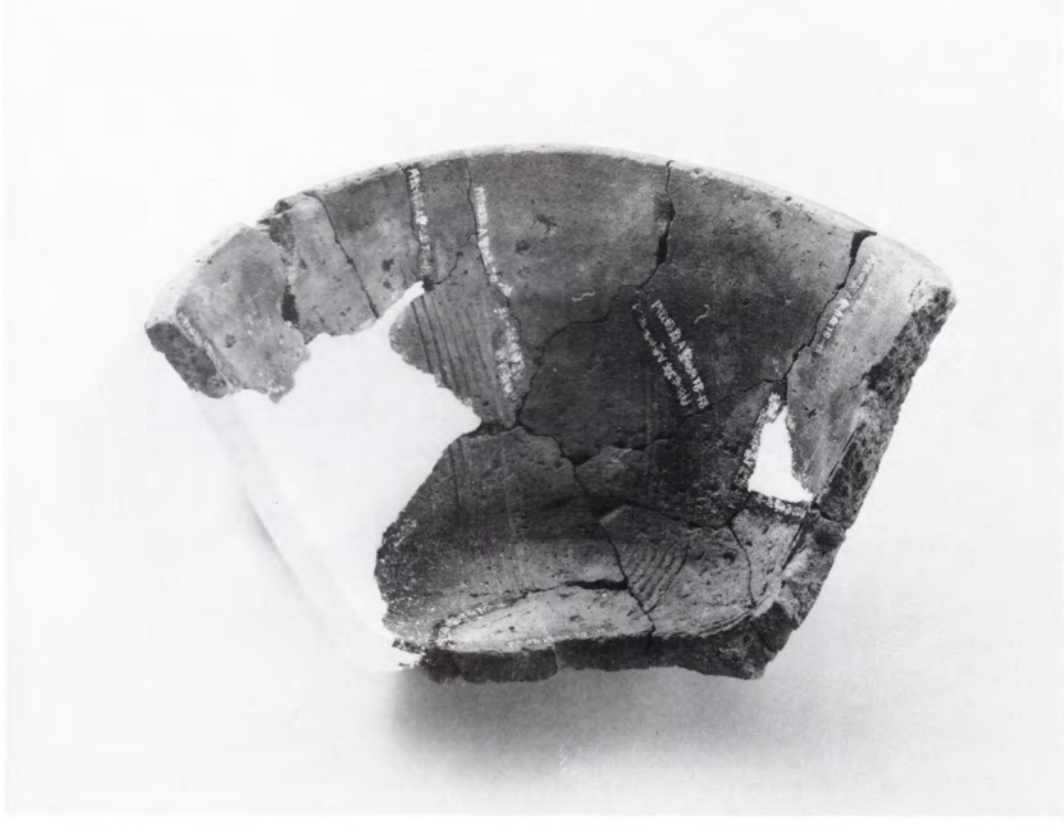
図版18　Ⅴ層面土師器（坏類）

図版19　Ⅴ層面瓦質土器（擂り鉢他）

図版20　Ⅴ層面土師器（坏類）



図版21 整地層下層出土瓦質土器



図版22　不明土壙出土陶磁器、下段　須恵器（蓋）

図版23　Ⅷ層（包含層）出土須恵器、下段　土師器

図版24　Ⅷ層（包含層）出土土師器

図版25　Ⅷ層（包含層）出土須恵器、下段　土師器

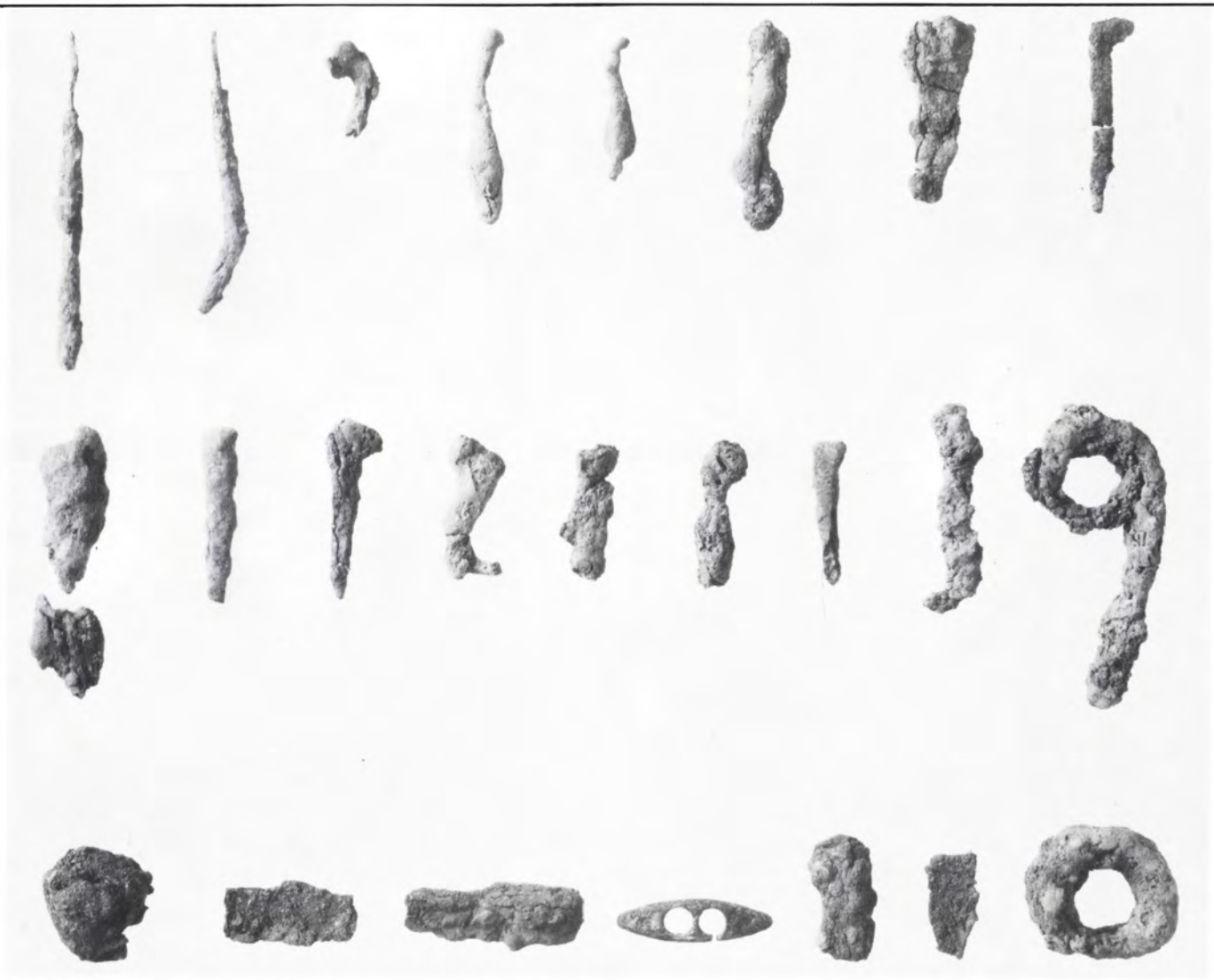
図版26　Ⅷ層（包含層）出土土師器、下段　須恵器

図版27　4号竪穴住居跡内土壙上面出土遺物

図版28　4号土壙上面出土須恵器

図版29　Ⅷ層（包含層）出土土師器・須恵器

図版30　Ⅷ層（包含層）出土須恵器及び石器・不明土遺構内24号土壙出土石臼



第31図 内牧城跡出土鉄器

図版32　撹乱層からの遺物

報　告　書　抄　録

ふりがな	うちのまきじょうあと
書名	内牧城跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	阿蘇町文化財調査報告
シリーズ番号	第４集
編著者	緒方　徹
編集機関	阿蘇町教育委員会
所在地	〒869-23　熊本県阿蘇郡阿蘇町大字内牧１４８
発行年	平成８年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
うちのまきじょうあと 内牧城跡	くまもとけん　あそぐん 熊本県阿蘇郡 あそまち　おおあざ 阿蘇町大字 うちのまき　なかまち 内牧中町 267-3～267-7	43422		32° 58′ 23″	131° 02′ 36″	19941102 ～ 19950203	690m	道路改良 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特注事項
内牧城跡			整地面	土師器 陶器 瓦質土器 鉄・銅製品	遺物の出土が少なく、不明な点が多い。
	城郭	戦国時代中期	掘立柱建物 土壙 溝	土師器・陶器 瓦質土器 鉄製品 石製品	美濃焼及び土師器坏は特に注目される。
	集落	平安時代前期	掘立柱建物 竪穴式住居 土壙 溝	土師器 須恵器 陶器	８ｃ～９ｃの集落跡は阿蘇町では初例。特に遺物は空白だった阿蘇地方の在地生産体制を検討する上で、貴重な資料である。

あとがき

このたび、「内牧城跡」の発掘調査報告書を発行することができました。厳しい寒さの中での発掘から次年度の報告書完成に至るまで期限に追われ、右も左もわからない状態でありましたが、やっとの思いで終了しました。これも一重に多くの方々のご指導・ご協力があったからこそ成しえたことだと思います。本当にお世話になりました。

最後に、殆どの方が初めて発掘に携わったにもかかわらず、降雪の中、休みもなく作業して頂いた作業員の皆さんに、心から感謝の意を表します。

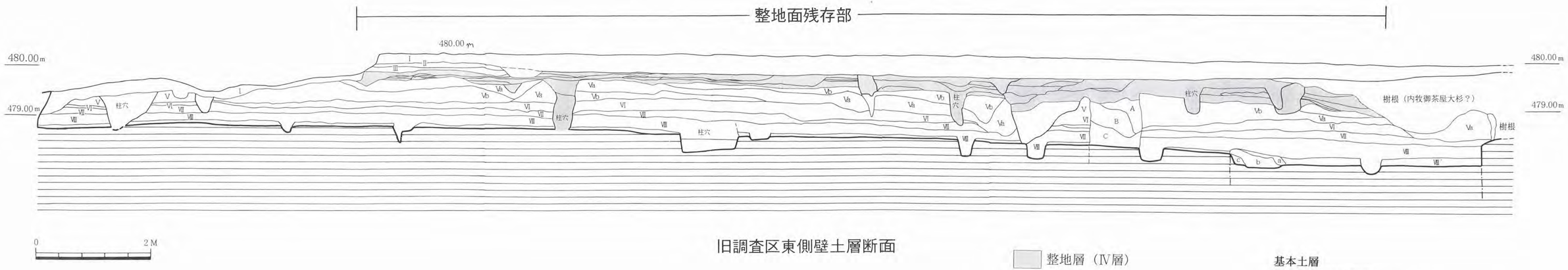
阿蘇町文化財調査報告書　第4集

内牧城跡

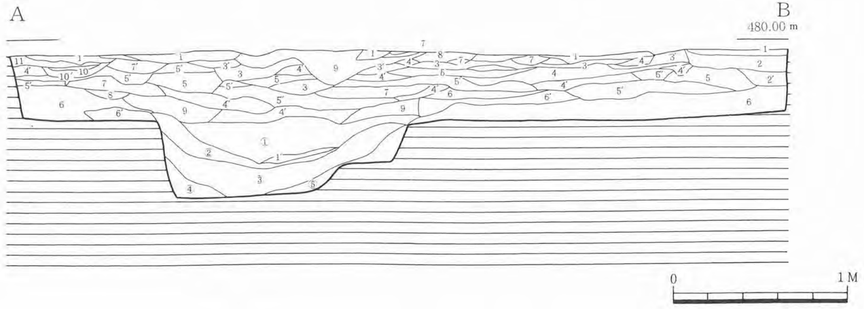
平成8年3月31日

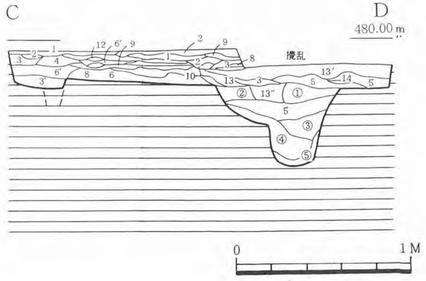
編集発行　阿蘇町教育委員会
〒869-23 熊本県阿蘇郡阿蘇町内牧148

印刷　佐伯綜合印刷有限会社
〒869-22 熊本県阿蘇郡一の宮町宮地1862



旧調査区東側壁土層断面





整地面横断面図

整地層（Ⅳ層）

基本土層

Ⅰ層　表土（クラッシャーラン）
Ⅱ層　砂層1
Ⅲ層　砂層2（小石混じり）
} 攪乱層

Ⅳ層　整地層（細かく分層できるが、一括してⅣ層とする）不明整地跡。
Ⅴa層　灰オリーブ色砂質土1（Y5/2）戦国期遺構検出面。遺物少量含む。
Ⅴb層　灰オリーブ色砂質土2（Y4/2）Ⅴa層よりも色調が暗くなる。
Ⅵ層　灰色硬質土（10YR6/1）無遺物層。移植ゴテが曲がる程硬い。
Ⅶ層　灰黄褐色土（10YR4/2）鎌倉期遺物包含層。（少量の遺物が入る）
Ⅷ層　黒褐色土（10YR3/1）平安期遺物包含層。（縄文～古墳も混じる）
Ⅸ層　褐色粘質土（10YR4/6）平安期遺物検出面。
Ⅹ層　黄褐色粘質土（10YR6/5）白色砂粒状の火山灰が混じるローム層である。
Ⅺ層　黄橙色粘質土（10YR7/8）Ⅹ層よりも粘性が強くなる。

Ⅴ層ベース
A　焼土塊
B　黒褐色土（焼土混入）
C　鉄分ブロック

整地層

1　層　黒褐色土（2.5Y3/2）黄砂の粒子をまだらに含む微粘性・硬質
2　層　黒褐色土2（2.5Y3/2）　〃　〃　弱砂質
2′層　黒褐色土3（2.5Y3/2）　〃　〃　弱粘質
3　層　暗褐色砂質土（10YR3/3）砂をまだらに含み、黄砂の粒子を少量混入
3′層　暗褐色砂質土2（10YR3/3）　〃　〃　混じらず
4　層　暗褐色砂質土3（10YR3/3）上記に砂の割合が強くなる
4′層　褐色砂（10YR4/4）
4″層　褐色砂2（10YR4/4）黒色土のブロック混入
5　層　灰色砂（5Y6/1）小石混入
5′層　灰色砂2（5Y6/1）小石混入せず
5″層　灰色砂3（5Y6/1）小石多量混入
6　層　暗褐色弱粘質土（7.5Y3/3）
6′層　暗褐色弱粘質土2（7.5Y3/3）黄砂の粒子が多量混入
7　層　暗褐色砂（10YR3/3）
7′層　暗褐色砂2（10YR3/3）焼土のブロック混入
8　層　黒褐色砂質土（10YR2/2）
9　層　暗褐色弱粘質土（7.5YR3/4）砂・カーボン・黄砂混入
10　層　暗灰褐色砂質土（5YR4/2）
10′層　暗灰褐色砂質土2（5YR4/2）焼土のブロック混入
11　層　黒灰褐色砂質土（10YR3/1）
12　層　黄砂ブロック（2.5Y7/8）
13　層　灰褐色砂質土（7.5Y4/2）カーボンを多量に含んで、焼土の粒子を少量混入
13′層　灰褐色砂質土2（7.5Y4/2）上記の割合が少なくなり硬くしまる。ブロック状
13″層　灰褐色砂質土3（7.5Y4/2）上記がブロック状ではなくなりかなりしまる
14　層　黒褐色土ブロック（7.5Y2/2）

1号溝跡土層注記

①層　褐色砂質土（10YR4/4）灰色砂のブロックをまだらに含み、少し硬い
②層　褐色砂質土2（10YR4/4）①より灰色砂の割合が多くなる
③層　暗褐色弱粘質土（7.5YR3/4）締まりがなく柔らかい。焼土・カーボンの粒子を少量含む
④層　暗褐色弱粘質土2（7.5YR3/4）③より締まりがなくなり、焼土・カーボンが混じらない
⑤層　暗褐色土（7.5YR3/3）砂質のブロックをまだらに含む。締まりがなく柔らかい
⑥層　黒色土ブロック（7.5Y2/2）

この電子書籍は、合併前の旧阿蘇町教育委員会が刊行した阿蘇町文化財調査報告書第4集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので画像図版などは低解像化しています。

底本は、阿蘇市立図書館、熊本県内の市町村教育委員会、熊本県立図書館、国立博物館、国立国会図書館などに配布しています。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：内牧城跡

発行：阿蘇市教育委員会

〒869-2695　熊本県阿蘇市一の宮町宮地504番地1

電話：0967-22-3229

URL：http://www.city.aso.kumamoto.jp/

電子書籍制作日：2022年1月12日